

新改訂版

道徳教育改善・充実のための

道徳教育 研修ハンドブック

～カリキュラム・マネジメントを取り入れた校内研修を目指して～



令和3年3月
広島県教育委員会



はじめに

グローバル化の進展や科学技術の発展により、社会・経済が変化する中で、様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きることや、人間の幸福と社会の発展の調和的な実現を図ることは、一層重要な課題となります。こうした課題に対応していくためには、一人一人が高い倫理観をもち、人としての生き方や社会の在り方について、時に対立がある場合を含めて、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることがこれまでに以上に重要となり、道徳教育は、こうした資質・能力の育成に向けて大きな役割を果たす必要があります。

このような中、「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）として、小学校では平成 30 年度から、中学校では平成 31 年度から全面実施され、高等学校では、校長の方針の下、高等学校において道徳教育推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）が、新たに位置付けられました。これまでの道徳教育の基本的な考え方を今後も引き継ぐとともに、道徳教育が期待される役割を十分に果たすことができるよう改善を図ることが重要です。

本県においては、これまで取り組んできている「学びの変革」を一層加速させるとともに、そのことによって児童生徒の「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」の育成を図ります。道徳性を養う道徳教育は、よりよく生きるための基盤であり、これらの力を育むことにつながるものであると考え、これからもその充実に向けて取り組んでまいります。

各学校においても、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育や、その要となる道徳科の充実を図っていく必要があります。その際の参考資料として活用していただくために、これまでの「道徳教育研修ハンドブック」を新学習指導要領の内容を踏まえて見直すとともに、県内の各指定校における取組を実践事例として加え、「新改訂版」を作成しました。本書を活用し、児童生徒の豊かな心の育成に役立てていただくことを期待します。

令和 3 年 3 月

広島県教育委員会
義務教育指導課長 重森 栄理

道徳教育研修ハンドブック 活用の手引き

道徳教育を推進していくうえで、各校の実態や課題はそれぞれ異なります。そこで、本ハンドブックの内容を、次の3つのカテゴリーに整理してみました！様々な学校の取組も掲載しておりますので、是非、参考に見てみてください。



広島県道徳教育キャラクター
どうとくん

内 容

道徳教育・道徳科の基礎・基本を学びたい、授業改善を図りたい

1 道徳教育の基礎・基本

道徳教育を進めるために

- (1) 学校段階に応じた道徳教育 1
- (2) 小・中学校における道徳教育 3
- (3) 高等学校における道徳教育 23

カリキュラム・マネジメントによる道徳教育を展開したい

2 道徳の指導計画作成

Plan
実態把握・計画立案の
ために

- (1) 校長の方針を明確に示そう！ 24
- (2) 道徳教育推進教師を中心とした
協力体制を整備しよう！ 25
- (3) 道徳教育の全体計画を作成しよう！ 34
- (4) 道徳科の年間指導計画を作成しよう！ 38
- (5) 各教科等との関連を図った実践 39

道徳教育・道徳科に関する校内研修を充実させたい

3 道徳教育に関する校内研修

Do
実践授業のために

- (1) 校内研修の進め方 41
- (2) 研修内容例 43

4 道徳科に関する校内研修

Check
検証・評価のために

- (1) 事前研修をしよう！ 46
- (2) 授業研究をしよう！ 57

Action
改善のために

- (3) 事後研修をしよう！ 60

5 道徳教育改善・充実のための情報発信 67

再び Plan へ

道徳教育・道徳科の基礎・基本を学びたい、授業改善を図りたい

I 道徳教育の基礎・基本	
(1) 学校段階に応じた道徳教育	1
① 道徳教育のねらい	1
② 道徳性	1
③ 道徳教育の進め方	2
(2) 小・中学校における道徳教育	3
① 道徳教育の内容	3
ア 四つの視点	3
イ 指導内容の重点化	3
② 道徳教育と道徳科の関係	4
③ 道徳教育の要としての道徳科	7
ア 道徳科の目標	7
イ 道徳科の特質	7
ウ 道徳科の学習	7
④ 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現	9
ア 「主体的な学び」の視点	9
イ 「対話的な学び」の視点	11
ウ 「深い学び」の視点	15
⑤ 道徳科における評価	18
ア 道徳科における児童生徒の学習状況及び 成長の様子についての評価	18
イ 道徳科の授業に対する評価	21
(3) 高等学校における道徳教育	23
① 道徳教育の目標	23
② 道徳教育の指導体制	23
③ 道徳教育の全体計画	23



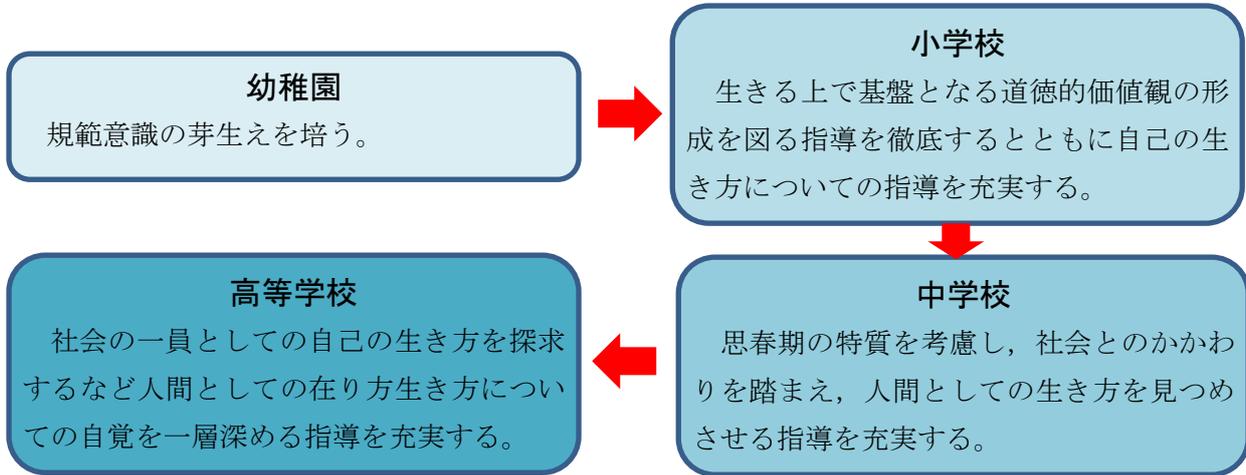
一人一人が
自分事として真剣に考え、
友達と議論し、
深まっていくような
そんな授業を目指しましょう！



1 道徳教育の基礎・基本

(1) 学校段階に応じた道徳教育

道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきものであり、幼稚園、小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年の各学年段階ごとにその重点を明確にし、より効果的な指導が行われるようにすることが必要です。



① 道徳教育のねらい

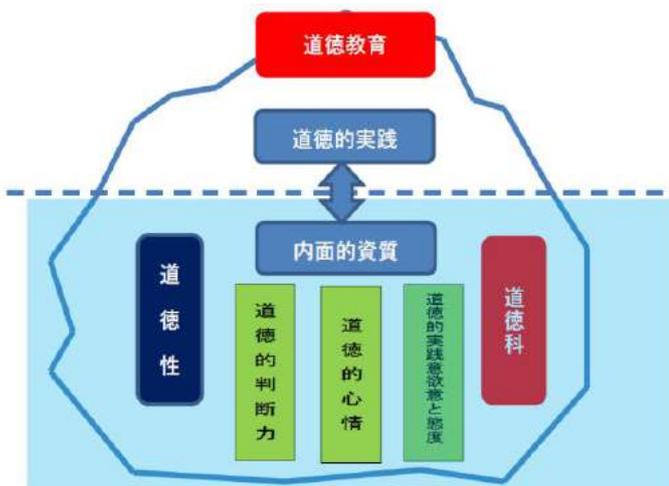
学校における道徳教育は、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる**道徳性を養う**ことを目標としており、児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものでなければならない。

道徳教育を通じて育成される道徳性は、「豊かな心」はもちろん、「確かな学力」や「健やかな体」の基盤ともなり、児童生徒の「生きる力」を根本で支えるものです。



② 道徳性

道徳性は、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を諸様相とします。これらの諸様相は、序列や段階があるということではなく、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況で、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができる内面的資質のことです。



道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的実践につなげていくことができるようにすることが求められます。



ここがポイント！

○ 道徳的判断力

人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

○ 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。

○ 道徳的実践意欲と態度

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性。

- ・道徳的実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き。
- ・道徳的態度は、道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた道徳的行為への身構え。

③ 道徳教育の進め方

学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。

小・中学校…道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、(外国語活動 ※小学校のみ)、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。

高等学校…公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動を中核的な指導場面として各教科・科目等の特質に応じ学校の教育活動全体を通じて、生徒が人間としての在り方生き方を主体的に探求し豊かな自己形成ができるよう、適切な指導を行う。

道徳科の指導は、児童生徒の行為の変容を直接的にねらいとするものではありません。教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように留意しましょう。



高等学校の道徳教育は、小・中学校と異なり道徳科が設けられていないので、小・中学校における道徳教育を踏まえつつ、教育活動全体を通じて指導するための配慮が必要です。

(2) 小・中学校における道德教育

① 道德教育の内容

ア 四つの視点

道德教育の内容については、小・中学校の各学年・学校段階において四つの視点に分けた内容項目として示されています。この四つの視点は、相互に深い関連をもっており、各学年・学校段階において、関連を考慮しながら、四つの視点に含まれるすべての内容項目について、学校の教育活動全体を通じて適切に指導していくことが大切です。

Aの視点

主として自分自身に関すること
 ○善悪の判断, 自律, 自由と責任
 ○節度, 節制 ○個性の伸長
 ○真理の探究 など

Bの視点

主として人との関わりに関すること
 ○親切, 思いやり ○感謝
 ○礼儀 ○友情, 信頼
 ○相互理解, 寛容

Cの視点

主として集団や社会との関わりに関すること
 ○規則の尊重 ○公正, 公平, 社会正義
 ○勤労, 公共の精神 ○家族愛
 ○国際理解, 国際親善 など

Dの視点

主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること
 ○生命の尊さ ○自然愛護
 ○感動, 畏敬の念
 ○よりよく生きる喜び

イ 指導内容の重点化

道德教育を進めるに当たっては、児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえるとともに、学校、地域等の実態や課題に応じて、学校全体及び各学年段階の指導内容ごとの重点化を図ることが大切です。

四つの視点の順序が児童生徒の対象の広がりによって改善されました。また、それぞれの内容項目に手掛かりとなる「友情, 信頼」「生命の尊さ」などの言葉がキーワードとして付記されました。社会的な要請や今日的課題を考慮し、次のような内容の指導について配慮が求められています。



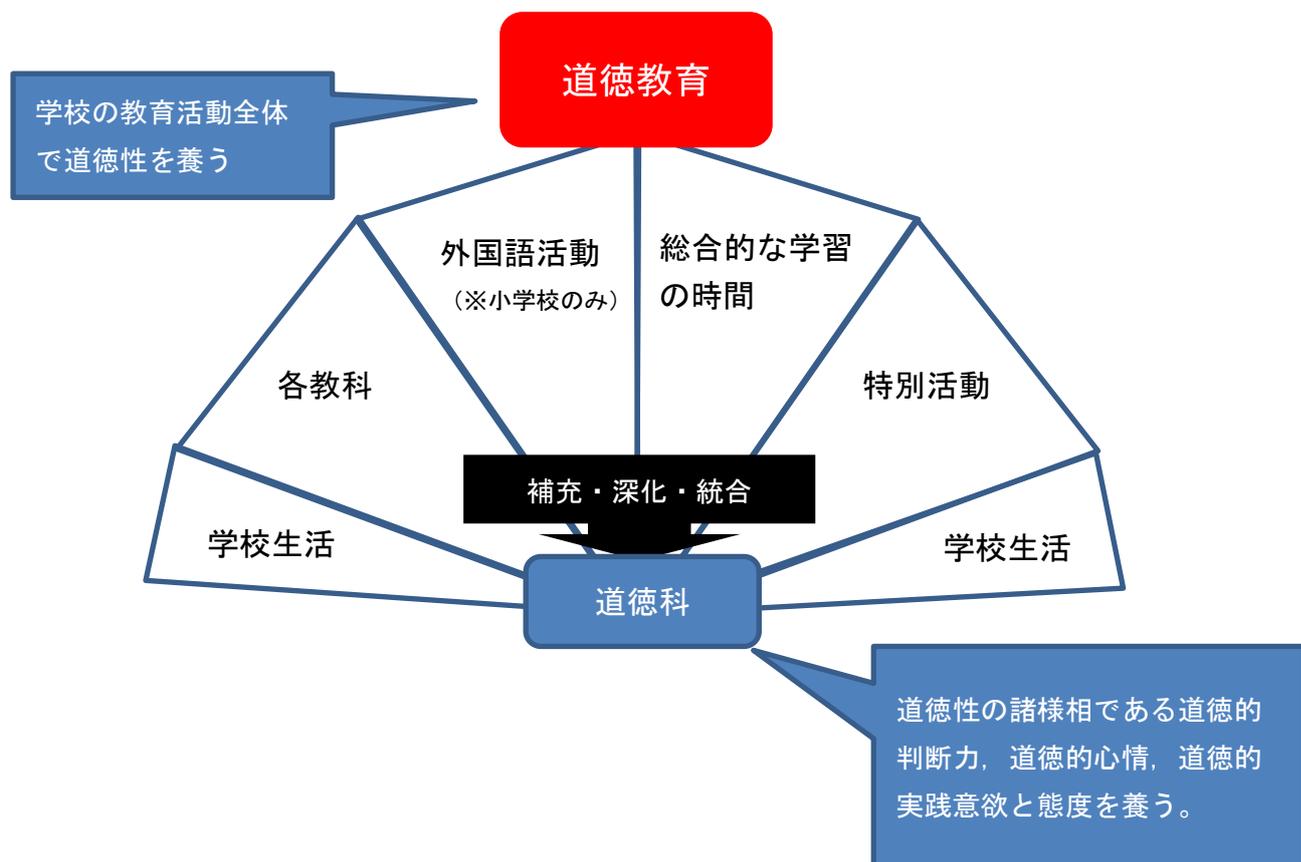
小学校	全	・自立心や自律性 ・生命を尊重する心 ・他者を思いやる心
	低	・挨拶などの基本的な生活習慣を身に付ける ・善悪を判断し、してはならないことをしない ・社会生活上のきまりを守る
	中	・善悪を判断し、正しいと判断したことを行う ・身近な人々と協力し助け合う ・集団や社会のきまりを守る
	高	・相手の考え方や立場を理解して支え合う ・法やきまりの意義を理解して進んで守る ・集団生活の充実に努める ・伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する
中学校		・自立心や自律性を高め、規律ある生活をする ・生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てる ・法やきまりの意義に関する理解を深める ・自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養う ・伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する ・国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付ける

ここがポイント!

- 重点内容については、指導時数を増やしたり、他の教育活動との関連を図った道德学習プログラムにしたりするなどの工夫をしましょう。
- 内容項目を児童生徒の立場から具体的に捉えるために「私たちの道德」を活用しましょう。

② 道徳教育と道徳科の関係

道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳性を養うことを目標としています。道徳科は、道徳教育で捉えた道徳的諸価値を補充、深化、統合する計画的・発展的な学習により、道徳性の諸様相である、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を育成する要となる時間として位置付くものです。



各教科等は、それぞれに固有の目標をもっていますので、それらの指導の中で行う道徳教育としては、取り扱う機会が十分でない道徳的価値に関わる指導を補うこと（補充）や、児童生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること（深化）、相互の関連を捉え直したり発展させたりする（統合）道徳科がどうしても必要になってくるのです。



ここがポイント！

- 道徳科は、扇の「要」のように、各教育活動における道徳教育の要所を押さえて中心で留めるような役割をもっています。
- 道徳性を育むために、道徳科はもとより、各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じて適切な指導を行いましょう。

「道徳学習プログラム」の実践事例 ※小学校第2学年の例

【プログラム作成の留意点】

プログラムのねらいを明確にする。

児童の意識の流れを中心に計画する。

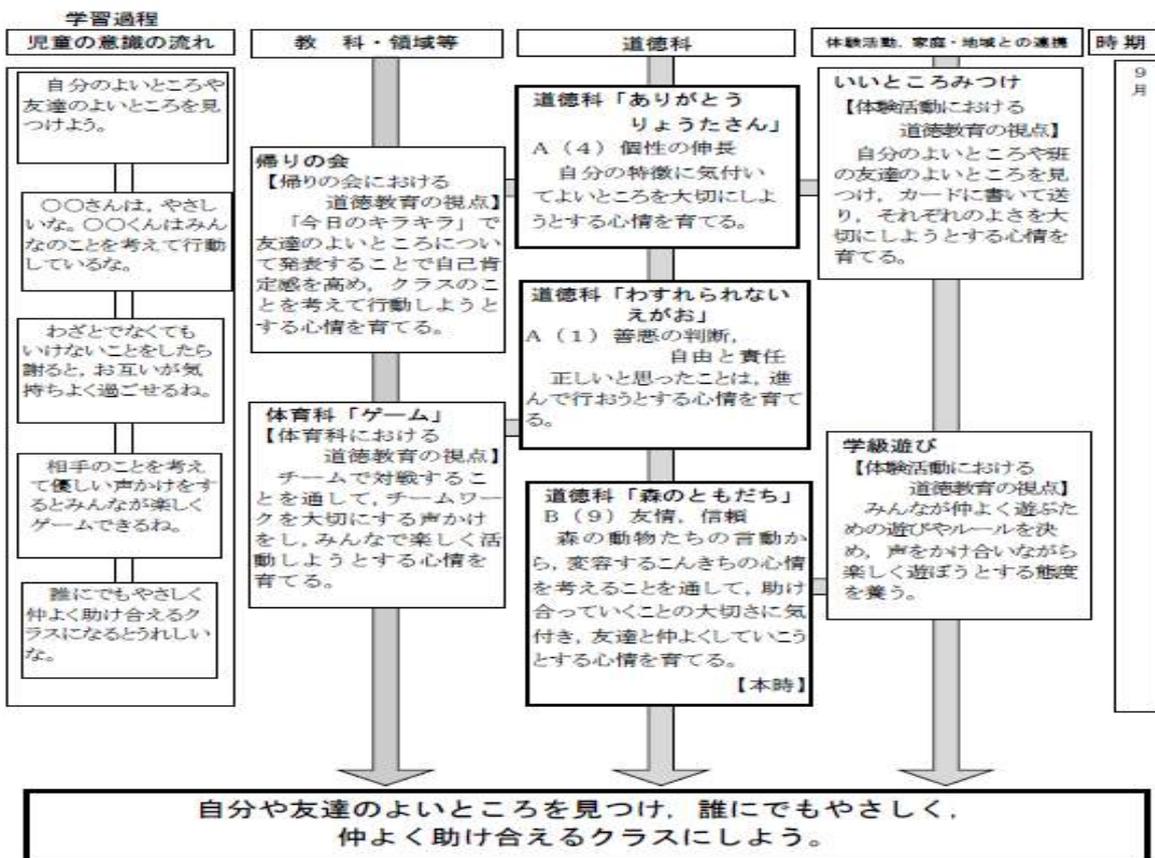
各教科・領域、体験活動や家庭・地域とのつながりを明確にする。

内容項目間の関連を考慮する。

道徳学習シートを活用することで、ねらいを児童と共有しながら学習を進める。

第2学年 道徳科学習プログラム
みんなに やさしい クラスになあれ！

ねらい 自分や友達のよさや特徴に気づき、友だちにやさしく接し、仲よく助け合おうとする態度を養う。



【作成の意図と作成上のポイント】

- カリキュラム・マネジメントの視点を取り入れ、児童の思考の流れを中心に、「道徳科の指導内容」と「日常の体験」をつなぐことを意図したカリキュラム・デザインを行うことで、児童が目的意識をもち、連続的に学び続けることができます。
- 道徳科学習プログラムの全体が見える化した「道徳学習シート」を作成し、活用することで、児童とねらいを共有しながら学習を進めることができます。
- 意図的に体験活動等を仕組むことで共通体験をもたせ、その体験を語ることで思いを共有し、道徳的価値についての理解を深めたり、広げたりすることができます。
- 年間指導計画の中に位置付け、一ヶ月ぐらいのスパンで意図的、計画的に行うことで、組んだ体験活動等の想起がしやすくなります。

道徳的行為に関する体験的な活動（例）



総合的な学習の時間 福祉ボランティア体験

〈ねらい〉

福祉やボランティアについての講話や体験活動を通して、福祉に関する意義を理解し、自分達もできることを積極的に行おうとする意欲を育てる。

【重点内容項目：C 社会参画、公共の精神・勤労】

スロープの下りはスピードを落とすのに苦労した。ボランティアは相手の立場に立って考えることが大切だと感じた。

小さな段差でも、車いすに乗っていると衝撃を感じて怖いと思った。

道徳科 「たんぽぽ作業所」



・働くことは、人の役に立てる喜びを感じるためにやるのが一番の目的なのだと感じることができた。お金が第一でないことに驚いた。
 ・働くことはお金がもらえるということではなく、人の役に立つことが一番大事。
 ・「他人の役に立つ」ということが働くことの喜びにつながっていると知ることができた。
 ・将来、自分も多くの人の役に立てる人間になりたいと思った。

生徒の意識の流れ	各教科・領域と道徳科との関連	時期
社会福祉には、どのようなものがあるかわかった。	総合的な学習の時間「ボランティア体験」【総合における道徳教育の視点】 福祉やボランティアについての講話や体験活動を通して、福祉に対する意義を理解し、自分たちもできることを積極的に行おうとする意欲を育てる。	9月
人間には、幸せに生きる権利があると同時に、他者の権利を尊重するための責任や義務があることがわかった。	道徳科 「加山さんの願い」 C(12) 社会参画、公共の精神 勤労や奉仕を通して社会に貢献するということを自覚し、充実した生き方を追求し実現していくことが一人一人の生きがいのある人生につながることに気付く。	10月
人のために何かをすることは、自分の生きがいにつながっていくものだなあ。	社会科（公民的分野） 単元名 人間の尊重と日本国憲法 【社会科における道徳教育の視点】 国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚を持ち、自他の人権を尊重し、社会的義務や責任を重んじ、公正に判断しようとする態度や能力、また自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、権利・義務の主体者として後世に判断しようとするなどの公民的資質を養う	11月
だれかのために役立とうという気持ちをもって仕事をしている人が社会を支えている。	道徳科 「社会からの無言の賛賞を感じる感性」 C(12) 社会参画、公共の精神 社会参画と社会の一員としての自覚を深め、進んで社会の発展のために努力しようとする態度を養う。	12月
苦勞が報われたり、人のために役立ったりする時に、人は働く喜びを感じるのだなあ。	道徳科 「たんぽぽ作業所」 C(13) 勤勞 働くことの厳しさを理解しながらも、働くことの尊さや理解し、勤勞を通じて社会の発展に尽くそうとする態度を養う。	1月
主体的に社会に関わることの意義について理解し、公共の精神をもって誰もが安心して生活できる社会を築いていこう。		

道徳学習プログラム

道徳学習プログラム作成上の留意点

- (1) プログラムのねらいを明確にする。
※目指す姿、重点内容項目等
- (2) 生徒の意識の流れを想定しながら、プログラムを作成する。
- (3) 外部講師と打ち合わせの時間をしっかりととって、ねらいがぶれないように心がける。
- (4) 各教科等の単元の実施時期と合わせたプログラムを作成する。

③ 道德教育の要としての道德科

ア 道德科の目標

道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え（※中学校では、下線部が“物事を広い視野から”となる）、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、（※中学校では、下線部が“人間としての生き方”となる）道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

イ 道德科の特質

児童生徒一人一人が、ねらいに含まれる一定の道德的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道德性を主体的に養っていく時間である。

※（ ）は中学校

ウ 道德科の学習

道德科では、目標に、道德性を養うための学習活動がより具体化して示されました。特に、学習活動として示された、次の四つの事柄を押さえておく必要があります。



○ 道德的諸価値について理解する

道德的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。道德的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにする。

価値理解…内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する。

人間理解…道德的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する。

他者理解…道德的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということ为前提として理解する。

○ 自己を見つめる

様々な道德的価値について、自分との関わり、つまりこれまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めていくようにする。

○ 物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える

児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。

○ 自己（人間として）の生き方について考えを深める

児童生徒は、道德的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道德的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めているが、特にそのことを強く意識させることが重要である。

ここがポイント！

- 道德科は、児童生徒がねらいとする道德的価値を自己との関わりにおいて捉えることができるように指導方法の工夫に努めましょう。
- 道德科の学習を効果的に行うためには、学級内での信頼関係の構築が基盤となります。教員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係を育て、一人一人が自分の考え方や感じ方を伸び伸びと表現することができる雰囲気や日常の学級経営の中でつくるようにすることが大切です。

道徳教育と道徳科の関係や指導の方向性を整理し、校内で共有している例

【〇〇学校 道徳科の考え方】

道徳教育の目標 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

道徳教育の展開と道徳科 学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

道徳科の目標 道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳性 道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度を養うことを求めている。

①道徳的判断力 ②道徳的心情 ③道徳の実践意欲と態度 の育成

道徳科の指導

道徳性を養うために行う道徳科における学習

- (1) 道徳的諸価値について理解する
 - ① 道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものである。
 - ② 児童一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目として取り上げる。
 - ③ 道徳的価値の理解について
 - ・価値理解 ・人間理解 ・他者理解
- (2) 自己を見つめる
- (3) 物事を多面的・多角的に考える
- (4) 自己の生き方についての考えを深める

道徳科の特質を生かした学習指導の展開

ア 導入の工夫

導入は、主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階



イ 展開前段・後段の工夫

展開前段・後段は、ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階



ウ 終末の工夫

終末は、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

道徳的価値を自分事として考えたり、感じたりすることのできる 〇〇の子



これまでの生き方の課題やどのような生き方をしたいかを考えることのできる 〇〇の子



自己を見つめ、これからの生き方について考えを深める 〇〇の子

道徳教育や道徳科の進め方や目標について、さらには、道徳科の指導の方向性について整理し、教職員間で共有しておくことは大切です。

その際は、学習指導要領総則編や学習指導要領解説を参考に、自校の児童生徒の実態や地域の実態を踏まえ、整理してみましょう。



④ 道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現

道徳教育において「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育むため、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実現することが、「主体的・対話的で深い学び」を実現することになる。

【「主体的・対話的で深い学び」の視点から求められること】

<p>「主体的な学び」の視点</p>	<p>児童生徒が問題意識をもち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。</p>
<p>「対話的な学び」の視点</p>	<p>子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えたり、自分と異なる意見と向かい合い議論すること等を通じ、自分自身の道徳的価値の理解を深めたり広げたりすること。</p>
<p>「深い学び」の視点</p>	<p>道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える学習を通して、様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を育てる学習とすること。</p>

ア 「主体的な学び」の視点

児童生徒が、問題意識をもつこと、自分事として考えること、自らを振り返ることなどを意識して授業づくりをしましょう。また、読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始しないように心がけましょう。



【問題意識をもたせるための指導方法の工夫の実践事例】

子供たちにとって身近で切実な問題を扱った事例

【課題の提示】

導入において、生活の中で礼儀を意識している場面について想起させる中で、「礼儀に美しいや美しくないということがあるのだろうか。」「美しい礼儀とはどんなものだろうか。」と発問し、生徒の日常生活をもとに問題意識をもたせ、課題を提示した。また、その後、「しぐさや礼が美しいとはどういうことなのだろうか。」と再度発問し、本時の価値に迫った。



生徒の感想より

課題：美しい礼儀って？



授業の展開では、「日頃の礼儀」と「美しい礼儀」を役割演技により動作化させた。体験的にそれぞれの違いを実感させると同時に客観的に挨拶の様子を見ることで、問題意識を高めた。

今日の授業で、生活の中での礼儀は美しいものにできることが分かった。今は、「態度・気持ち・お互いに」という3つが全てそろった美しい礼儀をすることはすごく気を配らないとできないと思う。でも、これから美しい礼儀をすることに気を配って、毎日続けていければ、自然と身について、意識しなくてもできるようになれると思う。無意識で自然にそのようにできたら、美しいだけでなく、カッコいいとも思う。どんな場面でも美しく、カッコいい礼儀をするそんな人になりたいと思う。

【指導方法の工夫の意図と効果】

- 導入や展開の前段に児童生徒にとって身近な課題を提示することで、児童生徒に課題意識をもたせ、主体的に考えさせることができます。
- 児童生徒にとって身近な問題を取り上げることで、自分の経験や体験と重ね合わせ、自分事として考えさせることができます。

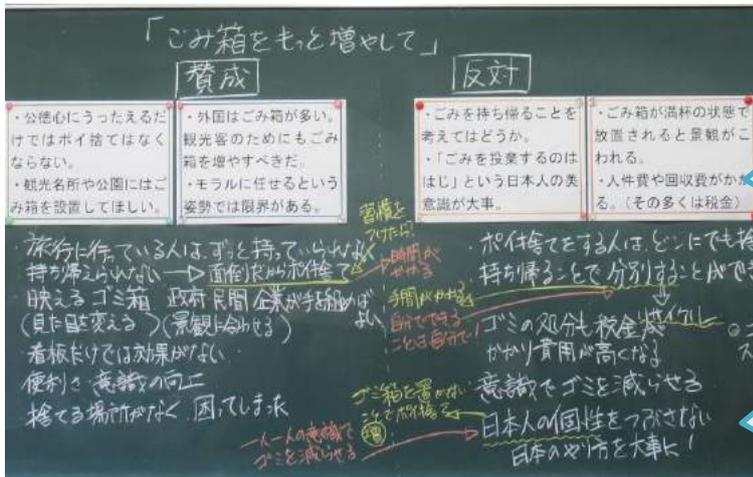
【実施する上でのポイント】

- 課題を提示する前には、導入においてその課題に関連したアンケートを提示するなどの工夫が考えられます。また、児童生徒の中に疑問が生まれたり、自分の経験を想起させたりするような発問の工夫をしてみましょう。
- 課題を提示した際は、中心発問や展開の終末で再度課題に戻ることで、思考を深めさせることができます。



教材の中に描かれている問題を扱った事例

第1学年 C 遵法精神、公德心「ごみ箱をもっと増やして」



教材文に示されている問いと意見を分類して示す。

【問題提起】
あなたはごみ箱を増やすことについてどう思いますか？

「街中にごみ箱を増やすべきか」という問いに対する様々な意見を掲載した教材です。教材文に示された意見を板書に整理した後、改めて生徒に問題提起をすることで、自分の生活経験からはなかなか想像しにくい問題についても具体的なイメージをもたせることができます。中心場面では、立場を明確にさせた上でディベートを行い、そこでの意見をもとに「誰もが気持ちよく過ごせる社会をつかっていくために大切なことは何だろう」という発問を行いました。これにより、立場が違っても共通する道徳的価値について考えを深めさせることができました。

賛成 ・ごみ箱がないからポイ捨てがおこる
・便利さが意識の向上に繋がる

反対 ・ポイ捨てをする人はどこでも捨てる
・意識すればごみは減らせる

共通して存在する
道徳的価値

公德心

「誰もが気持ちよく過ごせる社会をつかっていくために大切なことは？共通するものは？」

道徳科における問題とは道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常での事象とは異なります。



イ 「対話的な学び」の視点

対話的な学びを通して、他者と対話したり、協働したりしながら、物事を一面的に捉えるのではなく、子供自らが、様々な視点から物事を理解できるようにしましょう。



【多面的・多角的に考えさせるための指導方法の工夫の実践事例】

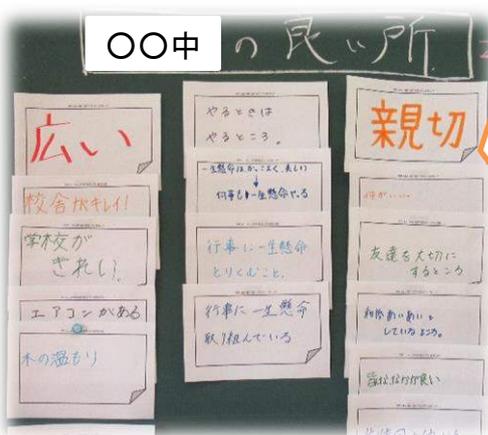
対話を促す指導方法の工夫例

(例) KJ法・A5用紙を用いた交流

付箋と模造紙を用いて生徒自身が自分たちの意見を整理していくことで、発言が苦手な児童生徒の意見も必ず反映されます。付箋の代わりにA5用紙、模造紙の代わりに黒板を活用すれば、グループ活動をしなくても、全体で同様の意見交流を行うことができます。



KJ法によるグループ活動



A5用紙を活用した意見交流

(例) p4c (philosophy for children「子どものための哲学」)を用いた交流

本時のテーマについて生徒自身が問いを立て、円形になって対話を進めていきます。自分たちが立てた問いに対して様々な考え方を交流する中で、個々の考えを深めていきましょう。「強制しない」「まとめない」がポイントです。



p4cのルール

- ①コミュニティボールを持っている人だけが話せる。
- ②意見を聞いてみたい相手やまだ発言していない人にボールを渡す。
- ③考えがうかばないときや話したくないときは、パスができる。

生徒が立てた問いの例

「世界平和を実現するためには？」
「進路を選択する上で大切なことは？」
「人間の命とはどんなものか？」

指導者は、基本的には対話に参加しないが、対話が円滑に進むよう活動を見守ったり、対話が停滞したりした時に新たな視点から問いを投げかけたりするなどの役割を担います。

ここがポイント！

- 「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考えさせましょう。
- 他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めさせましょう。

発問の工夫例

発問づくりの表と補助発問シートを使った工夫

発問づくりの表

発問の種類と発問の具体(例)	
類型	発問例
「生き方」を問う	心情を問う ・〇〇は、～した時、どのようなことを思ったか。 ・この場面での〇〇は、どんな気持ちだったか。 ・〇〇は、心の中で、何と話しているか。
	行為を問う ・〇〇が～した(言った)のは、なぜだと思うか。 ・〇〇が、～した(言った)ことをどう思うか。 ・〇〇が～した(言った)のは、正しい判断と言えるのか。 ・〇〇は、この場面で、どう行動すべき(だった)か。
	子ども自身を問う ・自分が～の立場だったら、どうしていたか。 ・自分が～の立場なら、何と言うか。 ・自分がその立場なら、どのように思うか。
	道徳的価値を問う ・本当の友情とは、どのような関係だろう。 ・どんな時でも、～(親切に)しないとイケないのか。 ・どうすれば、～(広い心がもてるの)だろうか。
	教材を問う ・この話から、どんなことが大切だと感じたか。 ・〇〇の生き方から、どんなことを感じたか。 ・この話のどこが問題だと思うか。

・〇〇はどんなことを考えながら～して(言って)いるのか。
 ・どんな考え(気持ち)からそうした(言った)のか。
 ・〇〇は、これからどうすればよいと思うか。

・〇〇からどんなことを考えたり学んだりしたか。

具体的にもっと考えさせたいとき

- ・じゃあ～についてはどう？
- ・これについてはどうしたらよい？

- ・こういう別の考えもあるよ。
- ・だったら、どうする？

- ・何か気が付いたことはない？
- ・何か関係ありそうだけど。

- ・それは、どういうこと？
- ・別な言い方で・・・
- ・もっとくわしく・・・
- ・例をあげて・・・

- ・なぜそう思うのか。
- ・自分はどちらの考えか。

問話の内容を	あらすじの順序を問う
	出来事を問う
	台詞や名前を問う



自分事として考えることができるための(補助)発問づくりの視点

視点	目的	発問例
立場の入れ替え	別の視点から考えさせる	・周りの人はどう思っているのだろう。 ・反対の立場だったらどうなるのだろう。
比較思考	複数のものを比較させる	・AとBのどちらの気持ちが強いのだろうか。 ・AとBはどんな違いがありますか。
範例的思考	主人公の行為や考えを手本や範例とさせる	・〇〇のよかったところはどんなところだろう。 ・どうしてこんなことができたのだろう。
批判的思考	主人公の行為や考えを批評させる	・また～かもしれないのに、なぜそう言ったのかな。 ・嫌なら手伝わなかったらよかったのに、なぜ～。 ・怒られたのになぜ言い返さないのかな。 ・なぜこのようなことになってしまったのか。
条件の変換	話の内容を意図的に変える	・もし、「〇〇」が～しなかったら、〇〇はどんな思いだったのだろうか。

自他の思いや考えを可視化するための表現物や操作物の工夫(思考ツール等)



座標軸



ハートメジャー

児童生徒が自他の考えを比較して交流することができるように、自分の考えを視覚的に表現できる工夫(思考ツール等)をすることは効果的です。また、見えない心の中を可視化する板書の工夫により、黒板を見た子供たちの考えは、さらに深まっています。

ここがポイント！

- 思考ツールを活用し考えを可視化することで、考えを組み立てたり、整理したりしやすくなります。また、考えを表現(発表)することが苦手な児童生徒でも、自分の考えを表現できます。
- 課題に応じて思考ツール(比較する【ベン図】、多面的・多角的に見る【Yチャート】、理由づける【クラゲチャート】等)を使い分けることで、目的に応じて、考えを友達と共有したり、自分の考えを深めたりしていくことができます。

最終的に児童生徒自ら、必要に応じて活用できるツールになっていくとよいですね。

指導に生かす具体的な多面的・多角的な見方の例として、

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考える。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考える。
- ・様々な登場人物の立場で考える。
- ・焦点を絞って考えたり、視野を広げて考えたりする。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考える。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考える。 などがあります。



「多面的」に考えることと、「多角的」に考えることの違いは？

一般的には、「多面的」とは、学習対象が様々な面をもっていることを、「多角的」とは、学習対象を様々な角度から考察し理解することを意味しています。実際の指導にあたっては「多面的」と「多角的」は必ずしも明確に分けられるものではないため、道徳科の学習指導要領及び解説においては、「多面的・多角的に考え」とひとくくりに説明されています。



ウ 「深い学び」の視点

【質の高い多様な指導方法】

文部科学省の専門家会議において、道徳科の質の高い多様な指導方法の例示として次頁に示すとおり、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」が挙げられています。

それぞれの特長は以下のとおりです。



読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどのような行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

ここがポイント！

- 次頁に示した指導方法は例示に過ぎず、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。それぞれに様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられます。
- 重要なことは、指導する教員一人一人が、学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握し、学校の実態や児童生徒の実態を踏まえて、授業の主題やねらいに応じた適切な工夫改良を加えながら適切な指導方法を選択することが求められるということです。

道徳科における質の高い多様な指導方法（イメージ）

	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
ねらい	教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	道徳的価値に関する内容の提示 教員の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	問題の発見や道徳的価値の想起など ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・適用への問い）。	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらず実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。
展開	登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 【教員の主な発問例】 ・どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろうか（又はできなかったのだろうか）。 ・主人公はどういう思いをもって△△という判断をしたのだろうか。 ・自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。 振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ・道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 【教員の主な発問例】 ・ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ、■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょうか。 ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するのでしょうか。 ・なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか。 ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるのでしょうか。 探究のまとめ （解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） ・問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合い等を通じて考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	道徳的な問題場面の把握や考察など ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ・ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。 道徳的価値の意味の考察など ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。
終末	まとめ ・教員による説話。 ・本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。 ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。		

問題解決的な学習の実践事例

- (1) 道徳性に係る事前アンケートを実施【B-(9) 相互理解, 寛容】
- (2) 教材内容と日常生活を関連付けた問題を提示する。



ポイント：教材内容と事前アンケートとのリンク

○自分が一人だけ「余り」になったら、どんな気持ちになりますか？

二人組より三人組の方が難しいなあ。

- (3) 教材に描かれた登場人物の立場や心情を捉え、自分事として考えながら問題を探求していく。



我慢するってことも時には必要なのかな。

今までの自分は、相手の立場を考え、優しくするという余裕がなかったな。

- (4) 改めて心情円盤で自分の気持ちを表現する。



○自分だけ「余り」になることに対する、今の気持ちはどうですか？

ポイント：終末で、「余り」に対する生徒自身の心情（ポジティブ・ネガティブ）の割合を心情円盤に示させ、ワークシートに記録させた。心情の割合に変化があった生徒については、その理由についても記入させた。

ここがポイント！

- 事前アンケートで見られた教材の登場人物と同様の考えを、児童生徒達の身近な問題として取り上げることで、児童生徒は自分事として主体的に考えることができます。
- 導入で取り上げた問題を、展開後段や終末において改めて問うことで、児童生徒は、学習を通して考えたことを基に、自己を見つめ直すことができ、課題に対する自分なりの納得解を導き出すことにつながります。

⑤ 道徳科における評価

ア 道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価

○ 道徳科に関する評価の基本的な考え方

評価の基本的な考え方は、児童生徒の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教員の側から見れば、教員が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料です。

道徳科においては、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要があります。ただし、数値などによる評価は行わないものとします。

○ 道徳科の評価の在り方

- ・数値による評価ではなく、記述式とすること
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- ・道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること



道徳科の評価は、一つ一つの内容項目ごとに、その内容項目についてどのくらい理解したかということの評価するものではありません。道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったか、道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたかといったことを、学期や学年など一定のまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価するということを示したものです。

なお、一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れるということは考えられます。

○ 個人内評価として見取り、記述により表現することの基本的な考え方

道徳科において、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校の実態や児童の実態にに応じて、教師の明確な意図の下、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要があります。



【道徳科の授業における児童生徒の評価の視点】

○ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか【視点】

(例)

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている 等

○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか【視点】

(例)

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている 等

○ 評価のための具体的な工夫例

- ・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイルに蓄積したもの
- ・児童生徒が道徳性を養っていく過程での児童生徒自身のエピソードを累積したもの
- ・作文やレポート、スピーチやプレゼンテーションなど具体的な学習の過程
- ・児童生徒が行う自己評価や相互評価 等

【評価のための工夫の実践事例】

大きくくりなまとまりを踏まえた評価の工夫の例

道徳の時間のふいかえり 年 番 氏名()	
4 よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった	
①道徳の時間、いっしょうけんめいに考えていますか	(4 3 2 1)
②道徳の時間、自分のことをくわしく見つめていますか	(4 3 2 1)
③道徳の時間、自分の考えと友達のをくらべて聞いていますか	(4 3 2 1)
④道徳の時間、進んで発言していますか	(4 3 2 1)
⑤道徳の時間、自分の考えを書くことができますか	(4 3 2 1)
⑥道徳の時間、自信を持つことができましたか	(4 3 2 1)
⑦道徳の時間、自分のよいところや、がんばっているところに気づきますか	(4 3 2 1)
道徳の時間を終えてふいかえろう	
授業のふいかえりで一番多くえらんだ番号は	
道徳の時間でどんなところが成長したと思いますか、成長したと思うところをかきましょう。	
教師からのメッセージ	



大きくくりなまとまりを踏まえて評価をする際、毎時間の道徳科の振り返りとは別に、学期ごとや一定期間をおいた上で、道徳科の授業を振り返ることで、児童生徒は自身の学びや成長を実感することができます。

児童生徒の振り返りの質問項目を考える際は、道徳科の授業における学習活動として示されている(1)道徳的諸価値について理解する(2)自己を見つめる(3)物事を多面的・多角的に考える(4)自己の生き方についての考えを深める等に基づいて設定することで、児童生徒の自己評価を基に、指導者が自身の授業を振り返ることができます。



道徳の時間の振り返り（毎回の授業とは別に、8回毎に1回振り返りを行う）

下記の①～⑦を（4よくできた 3できた 2あまりできなかった 1できなかった）の4段階で評価を行い、各児童の課題について中・長期的な視点で対応していきます。

- ①道徳の時間、いっしょうけんめいに考えていますか・・・・・・・・・・・・(1)
- ②道徳の時間、自分のことをくわしく見つめていますか・・・・・・・・・・・・(2)
- ③道徳の時間、自分の考えと友達のをくらべて聞いていますか・・・・・・・・(3)
- ④道徳の時間、進んで発言していますか・・・・・・・・・・・・(2)(3)
- ⑤道徳の時間、自分の考えを書くことができますか・・・・・・・・・・・・(4)
- ⑥道徳の時間、自信を持つことができましたか・・・・・・・・・・・・(2)(4)
- ⑦道徳の時間、自分のよいところや、がんばっているところに気づきますか・・・(1)(4)

※（ ）内の数字は、道徳科の授業における学習活動を示しています。

ここがポイント！

- 児童生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするためのきっかけとすることが求められます。
- 道徳性は、多様な児童生徒の人格全体に関わるものであることから、個人内の成長の過程を重視するようにしましょう。

【児童生徒の自己評価を授業改善に生かす実践事例】

児童生徒の振り返り（記述・自己評価・板書等）を生かした事例

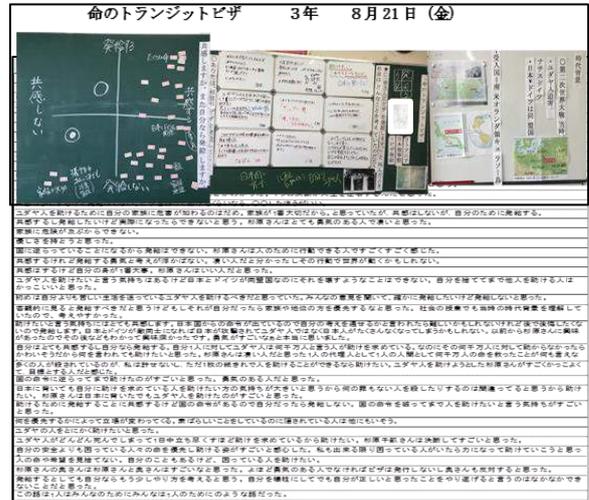
（例1）全員の授業振り返りをプリントで交流（板書付）

生徒振り返りコメントの教材化

- ①全員のコメント
- ②板書付でプリントに
- ③授業後に交流

音声入力による
教師の作業効率化

全員のコメントだから意味があります。
自分のコメント、仲間のコメントを見ることで、自己理解、他者理解へつながります。
板書を見て授業を思い出すこともできます。



（例2）授業終末の振り返り
自己評価の活用

生徒の自己評価（4観点）の活用

- ①授業の印象
- ②友達からの発見
- ③考えを深めたか
- ④大切なことが分かったか（納得解）

①～④を集約しデータで傾向を見ます。
生徒の実態把握や授業づくり、日常の指導に生かします。



（例3）学期・年間の振り返り
（印象度・ベスト3）

長いスパンで見取っていく

- ①授業実施日
- ②印象 発見 深まり 大切なこと (◎ ○ △)
- ③②の理由
- ④ベスト3 (いくつ選んでも良い)
- ⑤自由記述

生徒が今までの授業を改めて振り返り記入します。その一人一人の考えや思いを集約し、共有することで、生徒が自分と同じ見方や違った捉え方を共有することもできます。



これらの取組を生徒と教師で共有することで、これまでの道徳科の授業の成果や思考の傾向を客観的に振り返ることができます。

イ 道徳科の授業に対する評価

○ 授業に対する評価の基本的な考え方

児童の学習状況の把握を基に授業に対する評価と改善を行う上で、学習指導過程や指導方法を振り返ることは重要です。教師自らの指導を評価し、その評価を授業の中で更なる指導に生かすことが、道徳性を養う指導の改善につながります。

【道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点の例】

- ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の（人間としての）生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。
- イ 発問は、児童（生徒）が（広い視野から）多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。
- ウ 児童（生徒）の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。
- エ 自分自身との関わりで、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。
- オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童（生徒）の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。
- カ 特に配慮を要する児童（生徒）に適切に対応していたか。

教師は、明確な意図をもって指導の計画を立て、授業の中で予想される具体的な児童の学習状況を想定し、授業の振り返りの観点を立てることが重要です。こうした観点をもつことで、指導と評価の一体化が実現することになります。

道徳科の評価は、指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価にしていきましょう。



○ 授業に対する評価の工夫例

- ア 授業者自らによる評価
 - ・記憶や授業中のメモ、板書の写真、録音、録画
 - ・一人一人の学習状況を確認する手立てを用意しておく、それに基づく評価を行う 等
- イ 他の教師による評価
 - ・道徳科の授業を公開して参観した教師から指摘を受けたり、チーム・ティーチングの協力者などから評価を得たりする機会を得る 等

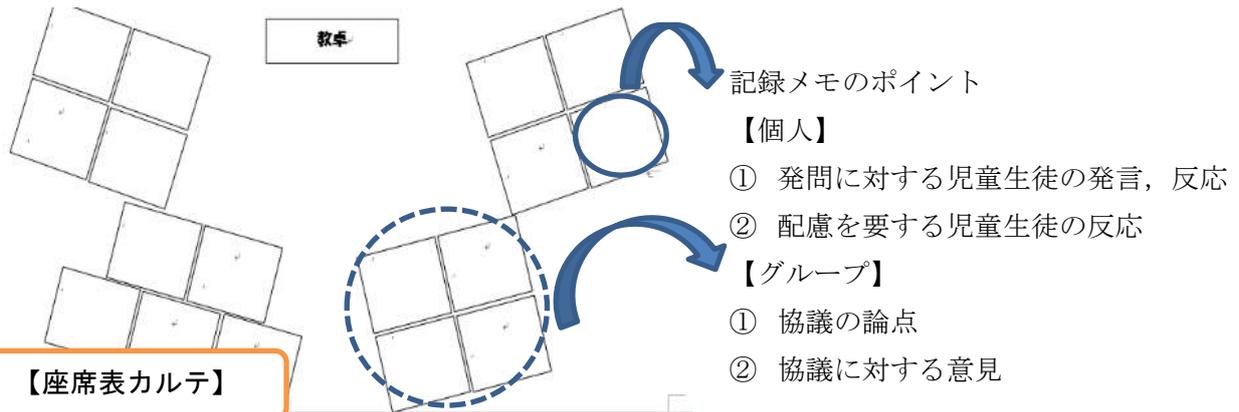
【授業評価のための工夫の実践事例】

児童生徒の記述や反応等を授業改善に生かす工夫の例

授業者自らが学習指導過程を振り返ることが大切です。

振り返るためには、道徳ノートやワークシート、授業中の記録メモ、板書の写真、録音、録画などを活用します。特に児童生徒の記述や反応は、授業改善に生かすための有効な評価の材料となります。

ア 座席表カルテを活用した児童生徒の記述や反応の記録



素早く簡単にメモできるように、記号化やマークも考えておくと便利です。

(例：自分との関わりでの考え⇒1，他者との関わりでの考え⇒2，発言⇒○など) メモには、児童生徒の発言だけでなく、表情や反応などを簡単にメモしましょう。記述など表現が苦手な児童生徒の反応は、些細なことでもメモを取っておくようにします。

『全員のメモを取らなくては！』と考えず、自分が大切だと感じた『つぶやきや反応』や、気になったことだけをメモをしてみましょう。

また、授業中にメモを取るだけでなく、授業後、記憶が新しいうちにメモを書き加えることで、授業改善につなげます。

授業改善に生かそう！

- 発言やつぶやきが特定の児童生徒に偏る場合
⇒理解しやすい教材提示の工夫，補助発問の工夫が必要です。
- 児童生徒のつぶやきを生かしていない場合
⇒指導者のファシリテーターとしての役割を見直しましょう。
- 配慮を要する児童生徒が、道徳ノート等に考えたことなどを記述できない場合
⇒配慮を要する児童生徒への言葉かけ，または，支援体制の見直しを行きましょう。



ここがポイント

- 授業改善は、まず、自分自身が日々の授業を振り返ることから始まります。
- 授業改善をしていくためには、授業者が自己評価するだけでなく、他の教師などの外部評価が有効です。児童生徒の姿や言葉を素直に受け止めて、取り組んでいきましょう。

(3) 高等学校における道德教育

① 道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。



よりよく生きるための基盤となる道德性を育む道德教育は、生徒一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を拓いていく力を育む、重要な役割をもっています。生徒は、人間としての在り方生き方に関する教育の中で、小・中学校における道德科の学習等を通じた道德的諸価値の理解を基にしながら、生徒が自分自身に固有の選択基準・判断基準を形成していくこととなります。その充実のためには、学校の教育活動全体を通じて行い、各教科・科目等のそれぞれの特性に応じて、適切な指導を行うことが求められます。

② 道德教育の指導体制

各学校においては、第1款の2の(2)に示す道德教育の目標を踏まえ、道德教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道德教育の推進を主に担当する教師（「道德教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道德教育を展開すること。

③ 道德教育の全体計画

道德教育の全体計画の作成に当たっては、生徒や学校の実態に応じ、指導の方針や重点を明らかにして、各教科・科目等との関係を明らかにすること。その際、公民科の「公共」及び「倫理」並びに特別活動が、人間としての在り方生き方に関する中核的な指導の場面であることに配慮すること。

ここがポイント！

道德教育は、先生方が様々な生徒とかかわる中で、日常的に行われています。したがって、すでに実践していることを生かす視点をもつことが大切です。

また、道德教育の指導体制と全体計画で求められていることは、「学校の教育活動全体を通じて、全教職員が協力して道德教育を展開すること」、「生徒が人間としての在り方生き方を考える機会を設けること」と、端的に表すことができます。

具体的な取り組みとしては、例えば、次のようなことが考えられます。

- ① 普段から先生方が行っておられることで、道德教育の全体計画にある学校教育目標や校訓に関わることを共有する。
- ② 共有したものから、共通実践できるものを複数選び、全ての教職員がそのうち一つ以上を実践する。

カリキュラム・マネジメントによる道徳教育を展開したい

2 道徳の指導計画作成 ～「道徳教育の全体計画」と「道徳科の年間指導計画」～	
(1) 校長の方針を明確に示そう！	24
(2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備しよう！	25
① 協力体制の充実	25
② 道徳教育推進教師の役割	27
(3) 道徳教育の全体計画を作成しよう！	34
① 4つの視点と内容項目ごとに、各教科等における 道徳教育に関わる内容及び時期を示した例	35
② 道徳科と各教科等それぞれの道徳教育に 関わる内容及び時期を示した例	36
③ 内容項目ごと、各教科等との関連を 発達の段階を捉えながら示した例	37
(4) 道徳科の年間指導計画を作成しよう！	38
(5) 各教科等との関連を図った実践例	39



道徳科の授業において子供達が、
自分事として考えるためには、
日常生活での種まきが大切です！



道徳教育推進課マスコットキャラクター
読書大好き！ すびんちゃん です。

2 道徳の指導計画作成 ～「道徳教育の全体計画」と「道徳科の年間指導計画」～

道徳の指導計画については、道徳教育の全体計画作成事項が学習指導要領解説総則編において、道徳科の年間指導計画作成事項が学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編において、それぞれ示されています。したがって、各学校においては、校長が道徳教育の方針を明確にし、指導力を発揮して、全教員が協力して道徳教育を展開するため、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心として、「道徳教育の全体計画」とそれに基づく「道徳科の年間指導計画」を作成する必要があります。

(1) 校長の方針を明確に示そう！

道徳教育は、学校の教育活動全体で取り組むものであり、**校長は学校の道徳教育の基本的な方針を全教員に明確に示す**ことが求められています。そのためには、校長は道徳教育の改善・充実の方向を視野におき、

- ① 児童生徒の道徳性にかかわる実態、
- ② 学校の道徳教育推進上の課題、
- ③ 社会的な要請や家庭や地域の期待などを踏まえ、



「児童生徒の道徳意識調査」、「アンケート調査」、「教職員の意見」、「社会背景」等を参考にして、実態把握をしましょう。

学校の教育目標とのかかわりで、道徳教育の基本的な方針を明示する必要があります。

<道徳教育の重点目標の改善例（A小学校の例）>

改善前

人間尊重の精神を生かし、道徳的心情と道徳的判断力を高め、道徳性を養う。



漠然とした目標で、学校として何を重点に道徳教育を行うのかが分かりにくい。そのため、各学年の道徳の重点内容項目もばらばらで、学校として意識統一した指導ができていない・・・。具体性のある目標に修正しよう。

教育基本法に示されている公共の精神等、日本人がもっていた「規範意識」を重視したい。

子供たちには、相手のことを思いやり、しっかりとした規範意識をもった人間に育ってほしい。



教育委員会が目指す「思いやりと規範意識のある人間」を尊重しよう。

本校の子供たちは、明るく元気でやる気もあるが、学校の約束や社会のきまりを意識して生活することが十分でない。

ポイントは、「思いやり」と「規範意識」！

Bの視点、特に「親切、思いやり」
Cの視点、特に「規則の尊重」

改善後

人間尊重の精神を生かし、思いやりの心をもって、規範を尊重しようとする児童を育成する。

ここがポイント！

- 道徳の内容とのかかわりを明らかにして、道徳教育の重点目標を設定します。道徳の内容項目も参照して、分かりやすい目標にすると、学校の重点内容項目とのつながりが出てきます。

道徳教育推進教師と各部のリーダーと一緒に
道徳教育が推進できるような推進体制にしましょう。



(2) 道徳教育推進教師を中心とした協力体制を整備しよう！

① 協力体制の充実

学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるためには、校長の明確な方針と道徳教育推進教師等の役割の明確化とともに、全教師が指導力を発揮し、協力して道徳教育を展開できる体制を整えるようにしましょう。

【道徳推進教師を中心とした指導体制の充実】

道徳科の指導を計画的に推進し、また、それぞれの授業を魅力的なものとして効果を上げるためには、校長の方針の下に学校の全教師が協力しながら取組を進めていくことが大切である。校長の方針を明確にし、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実を図るとともに、道徳科の授業への校長や教頭などの参加、他の教師との協力的指導、保護者や地域の人々の参加や協力などが得られるように工夫することが大切である。

<協力し合える指導体制づくり（B小学校の例）>

主な内容項目	主に協力を求める教職員, 家庭, 地域の方々
節度, 節制	養護教諭・栄養教諭・栄養士・家庭等
感謝	養護教諭・栄養教諭・栄養士・事務職員 用務員・家庭・地域人材 等
勤労, 公共の精神	用務員・地域人材 等
家族愛, 家庭生活の充実	家庭 等
よりよい学校生活, 集団生活の充実	校長・教頭・事務職員 等
伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	家庭・地域人材 等
国際理解	ALT・JET・地域人材 等

内容項目や教材の内容を吟味
する中で、特に効果的と考えられ
る場合は、道徳科における実際の
指導において他の教師や家庭、地
域の方々などの協力を得ること
が考えられます。



例えば

The illustrations show the following scenarios:

- Scenario 1:** A teacher is initially overwhelmed by many voices. After, they receive input from the school nurse (養護教諭), nutritionist (栄養士), and family, leading to a more organized approach.
- Scenario 2:** A teacher receives letters from G・T (Global Teachers) and introduces them to the class.
- Scenario 3:** A teacher receives a video letter from G・T and shows it to the class.
- Scenario 4:** A teacher receives letters from family members and shares them with the class.
- Scenario 5:** A teacher receives letters from the principal (校長先生) and shares them with the class.
- Scenario 6:** A teacher reads a letter from a family member to the class, emphasizing the importance of listening to the heart's rhythm (心臓の鼓動を聞きあって).

校内で協力し合える指導体制づくりの実践事例

道徳科の授業は、学級担任の教師が行うことを原則としますが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などを工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実することで、より自分のこととして考えるとともに、道徳的価値についての理解を一層深め、生活に生かしていこうとする意欲につながります。

全校児童生徒の健康管理に目を配る養護教諭に、健康管理の側面から、「生活習慣」(節度、節制)、「命の大切さ」(生命の尊さ)などから話をしてもらいます。



養護教諭に聴診器で心臓の音を聞かせてもらいます。(生命の尊さ)

栄養教諭・学校栄養職員に、「食育」(節度、節制・生命の尊さ)や「和食」(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心)などを給食献立と関連させて話をしてもらいます。



校長から校章の意味を聞き、自分達の学校への思いを深めます。



校長が、画家「奥田元宋」の地域教材の授業に(T・Tとして)参加し、卒業する生徒に「ふるさと」(伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心)を考えさせ、ふるさとへの思いを語ってもらいます。

ここがポイント

- 校内での協力体制を整えるためには、先生同士の連携がとても大切です。一人一人の先生の専門性を大切に、日頃からコミュニケーションをとっておきましょう。
- 担任は、協力していただく教職員や地域などのGTとの打ち合わせの際、授業のねらいや指導の意図を明確に示しておき、共通理解・共通実践となるようにしましょう。
- 年間指導計画に協力してもらった授業を計画的に配置しましょう。また、年間指導計画に、実施日や協力者名などの記入欄を設けておき、時期や内容で有効であった授業を記録し、共有することで次年度につなげていきましょう。

② 道徳教育推進教師の役割

道徳教育推進教師が全体を掌握しながら、全教員の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくように働き掛けていくことが望まれます。



【道徳教育推進教師の役割として考えられる事柄と具体的な行動例】※（ ）内は高等学校

	事柄	具体的な行動例
ア	道徳教育の指導計画（全体計画）の作成に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の重点目標を全教員が共通認識できる機会をつくる。 ・見直しの視点を示す。（実態から、重点目標から等） ・指導記録を計画の見直しに生かせるように、指導記録を使った見直しの機会をつくる。
イ	全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の重点内容項目を、機会（学校行事・体験活動等と関連して）を見つけては確認する。 ・年間1回以上、各教科、総合的な学習の時間等との関連、体験活動や地域とのつながり等を年間計画や別葉を基に見直す機会をつくる。
ウ	道徳科の充実と指導体制に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研、道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。→記録の蓄積 ・ティーム・ティーティング（T・T）授業を計画する。（ゲストティーチャーの活用も含め） ・複数学年、学級による合同授業を計画する。 ・ゲストティーチャー一覧表を作成し、共有化を図る。 ・全職員で関わるような仕組みを作る。※（所属校内部会の活用）
エ	道徳（道徳教育）用教材の整備・充実・活用に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教材、掲示物、板書記録の保存と活用を行う。（保管場所の明示、提出数の明示、機能的に活用できるように） ・地域教材の開発に向けた計画、支援を行う。
オ	道徳教育の情報提供や情報交換に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・研修報告の機会を確保する。 ・校内で紹介したい資料を収集する。 ・近隣の学校で研究授業に参加し合う。 ・HPに「道徳教育」のページを設ける。
カ	道徳科（道徳教育）の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開、懇談会を企画する。（保護者参加型授業も含めて） ・家庭、地域との連携方法を明確にする。 ・HPに「道徳教育」のページを設ける。 ・学校便り、学級便りに意図的に掲載するように働きかける。
キ	道徳教育の研修の充実に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研修、道徳教育研修の研修計画へ位置付ける。 ・模擬授業の実施を提案する。
ク	道徳教育における評価に関すること（道徳教育の全体計画の評価に関すること）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校自己評価へ位置付ける。 ・子供の道徳性を見取りについて、共通理解を進める。（上段キと関連） ・記録の仕方を統一する。 ・保護者や外部の方の声を集める。

教具、掲示物等を整理し、教職員間で共有している例

○ 学びと生活をつなぐ工夫

■ 授業の振り返りの掲示

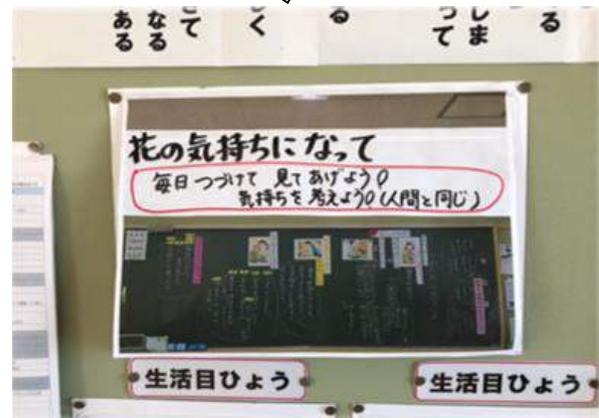
児童生徒の主な考え

中心発問、板書、
道徳ノートの記述



内容項目ごとの
授業イラスト掲示

主題名、授業での学び



○ 取組の意図

- ・ 児童生徒が授業での学びを普段の生活の中でも振り返って生活に生かせるようにする。
- ・ 授業者が、これまでの児童生徒の学びや各内容項目等のつながりを踏まえた授業実践ができるよう、毎時間の授業の要点をまとめ、教室や掲示板への掲示を行う。

○ 実施するときのポイント

- ・ 情報過多にならないよう、ポイントを絞った簡潔な内容で掲示しましょう。
- ・ 児童生徒が関心をもつとともに、学びを想起できるきっかけとなるよう、文字だけでなく、児童生徒の考えやノートへの記述、イラストを載せるなど工夫をしましょう。
- ・ 教室や掲示板など、教員や児童生徒の目につきやすい場所へ掲示しましょう。

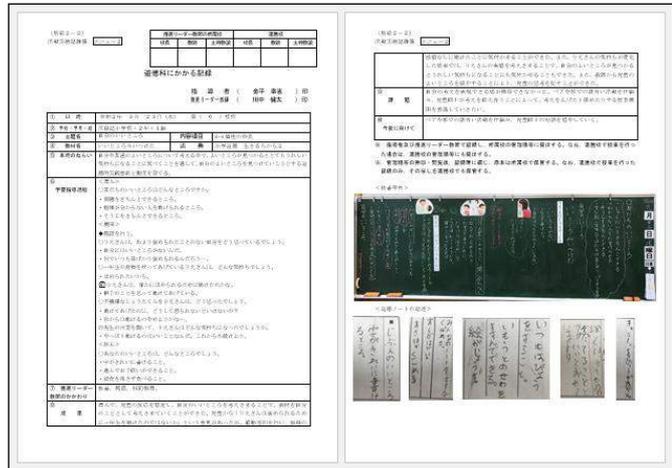
教具、掲示物等を整理し、教職員間で共有している例

○ 教材の準備、整理、保存の工夫

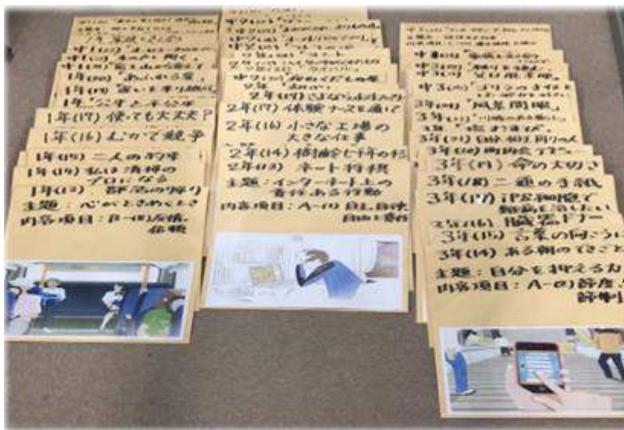
各教員がすぐに手に取れるよう、授業記録のファイルや教具をまとめ、職員室に保管している。



各学年、各学級で
授業記録ファイルを作成・保管



学習指導過程、成果と課題、
今後に向けて、板書等



中の教材が一目でわかるように、
袋の表に教材名、主題、内容項目を記載
し、挿し絵を貼り付けている

中には、ワークシート、挿絵、
発問短冊が入っている

○ 取組の意図

- ・学年に複数学級ある場合、先行事例をもとに、ブラッシュアップしながら授業改善を進めていくことができるようにする。
- ・来年度、授業実施する際の参考資料を蓄積・共有しておくことで、教職員同士が参考資料をもとに、発問構成、学習指導過程、指導方法等を検討することができ、教職員全体の授業力向上につなげる。

○ 実施する時のポイント

- ・いつでも誰でもすぐにデータ共有ができるよう、授業記録やワークシート、導入や終末で活用できる資料、関連動画、授業づくりの参考となるデータ等は、校内共有サーバーにデータ保存しておきましょう。

教材開発に向けた計画，支援の工夫の例

(例) 地域教材「せらまち音頭に込められた想い」開発の流れ

道徳教育推進教師の役割

① 生徒の発達段階や特性，地域の事情等を考慮し，教材化したい内容を検討する。

② 教材の活用方法を考える。
(内容項目，ねらい，指導学年など)

③ 教材を作成する。

④ 担任とともに具体的な指導計画を作成する。

⑤ 教材の使用許可の申請やゲストティーチャーとの連絡調整を行う。

授業の実施

※可能であれば担任とT・Tで授業を行う。

⑥ 作成した教材，指導記録等を保管し，次年度以降の年間指導計画に反映させる。

フラワーフェスティバルで踊った「せらまち音頭」の歌詞は郷土愛の学習に生かせそうだな。



いろいろな歌詞に込められた想いを考えさせるために，KJ法による活動を取り入れよう。

終末で「せらまち音頭」の作成に関わった方に当時のことを語ってもらおう。



来年度は実施時期をフラワーフェスティバルの近くに設定しよう。

【計画，支援の際のポイント】

- 教材を作成・選択する際は，児童生徒の興味を引くことにのみ留意するのではなく，「この教材で何を考えさせるのか」という授業のねらいや指導の意図を明確にすることが大切です。
- 普段から学校や地域の特色ある資源，人材，行事，ニュースなどを内容項目の視点から捉え，授業に活用できないかアンテナを張っておくことが大切です。

道徳科に用いられる教材を具備する際は，「児童生徒の発達の段階に即しているもの」，「児童生徒が深く考えることができるもの」，「特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないもの」などの要件を満たすことが大切です！



校内で資料を共有・校外へ取組を発信するための工夫の例

(例)

共有し 活用できるようにするために

評価

評価について ... 指導者は、ねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童の評価は行わない。

評価の見取り
児童の発言や記述 ※表情や反応も見取る ※授業後の聞き取りからも見取れる

児童 評価の視点
～学習過程や成果を 道徳科の目標に照らし、児童を認め、励ます視点で～
★目標に掲げる学習活動における児童の具体的な取り組み状況(学習状況・道徳性に関する成長の様子)を、学習活動全体を通して見取る。

一面の見方から多面的・多角的に見方へと発展させているかどうか。
・道徳的価値に関する問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
・自分で立つ立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。
・登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。
・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

指導と評価の一体化
指導に生かされ、児童の成長につながる評価

目指す姿 道徳科の授業に対する評価の観点
～児童が多面的・多角的に捉えられる。自分事として捉えられるための、授業(指導)の改善に向けての観点で～
★下記の学習活動について、児童が多面的・多角的に考え、自分事として捉えるための指導の手立ては、ねらいに即したものにしたいかを、右の6つの評価の観点を基に具体的に振り返る。

道徳的価値について理解する
道徳的価値の意義及びその大切さを理解する。

自己を見つめる
道徳的価値を自分のこととして感じたり考えたりする。自分の経験やそのときの感じ方、考え方を照らし合わせて考えを深める。

物事を多面的・多角的に考える
多面的・多角的に考える学習を通して、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深める。

自分の生き方についての考えを深める
自分自身の問題として受け止める。伸ばしたい自己を深く見つめる。これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深める。

道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自分の生き方について考えを深められる構成。ねらいに即した指導の手立て

児童が多面的・多角的に捉えられる。自分事として捉えられる指導の意図に基づいた発問

児童の反応を受け止め、指導に生かす

教材・教具の活用

児童の実態・発達段階に合った指導方法

配慮を要する児童への対応

① 情報収集

『指導に生かされ、児童の成長につながる』評価に関する資料や情報を集める。

② 資料作成

分かりやすさ、見えやすさ、使いやすさを優先して整理・作成をする。

③ 校内研修で周知

研修の場面で表を提示して、表記の視点や観点と結び付けて具体的に指導案等を検討する。授業後の協議で活用する。

④ それぞれの実践

各自が、授業づくりや授業の振り返りの場面で視点や観点を意識し実践に活かす。

⑤ 市町内へ周知

効果的であった取組は、各市町の道徳教育推進協議会等において、共有することで、市町における道徳教育の推進・充実を図る。



町内の道徳教育推進協議会等において、校内で研究したことを、スライド資料等を使って情報発信する。

授業研究<事後協議・講師の講話より>

6月11日 研究授業 事後協議

授業づくりについて

◎児童の実態を把握し、ねらいを絞り込む。



(1) 児童の実態を把握する。(①、②、③のどこなのか)
(2) ねらいの絞り込みをする。(児童の実態より、主発問はどこにするのか)

児童に問題意識をもたせる⇒切実感をどうもたせるか!

伝えたいことを整理・選択し、キーワードを使い表現。

ここがポイント

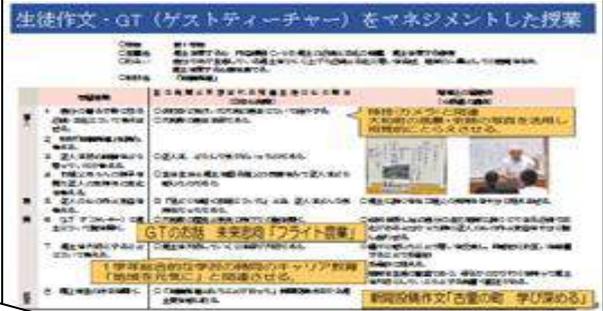
- 資料を収集・整理する過程で、改めて大切なことに気付く場合があります。その気付きを具体的に付け加えながら情報提供することが大切です。
- 情報提供した後も、機会を捉え、ポイントを絞って再共有したり、資料の活用状況を把握して具体的な助言をしたりしていくと、さらに活用することを促すことができます。

地域の方と連携して進める授業の実践事例

その1 家庭や地域社会の情報は生徒の力を借りて収集、そして、授業での活用へ

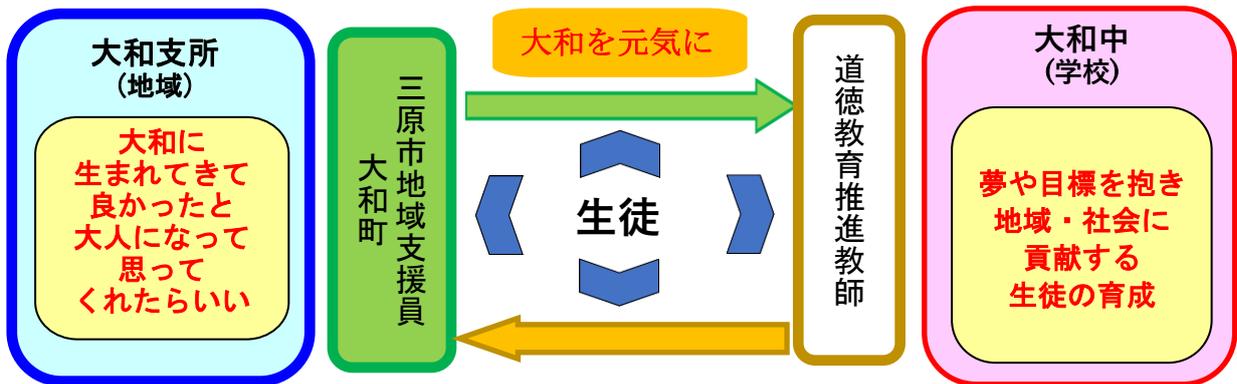


生徒は地域の宝物を多く知っているはず。生徒の作文などから情報収集します。



生徒作文を活用し、教材と結び付けたり、GTを招いて授業を行ったりします。

その2 地域支援員さんとの連携による学校外の人的物的資源の活用へ



連携によって生徒が地域とつながる学校へ

各市町に配属されている地域支援員さんとの連携です。各自治区にも通じておられ、地域と学校の橋渡しをさせていただきます。この地域支援員さんが、地域のGT (ゲストティーチャー) などの人的・物的な資源を紹介して下さることで、より充実した連携や協働した取組ができるようになります。「大和を元気に」という思いを共有しながら、地域と学校を結んだ活動を行いました。

その3 地域はいつでも協力的！ 開かれた学校を待っている！ 道徳教育推進教師はつなぎ役！ アンテナ力とキャッチ力でマネジメントを！！



農業体験

キャラクターデザイン

商品開発

ラジオ宣伝に向けて

販売体験

地域振興部から感謝状

時や場、人、モノなど多様なつながりをマネジメントすることで、生活につながる道徳教育を進めていきました。地域を知り、地域から大切にされている自分に気付き、役に立ちたいという思いが生まれてきます。

年度初めに、道徳教育推進教師としての活動の時期や内容を計画しておきましょう。



<道徳教育推進教師の活動計画（例）>

月	〇〇市道徳教育推進協議会	道徳教育推進計画	道徳教育推進教師が行うこと
道徳教育の重点目標： 自分自身と向き合い、誠実に生きていく子供を育てる。 自他の生命を尊重し、大切にする子供を育てる。 集団の中で自分の責任を果たし、主体的に協力する子供を育てる。			
道徳教育の指標： ・人の気持ちがわかる人間になりたい。（肯定的回答 90%以上） ・人が困っているときは進んで助けている。（肯定的回答 90%以上） ・児童会や学校行事などにおいて学校の一員としての役割や責任をしっかりと果たしている。（肯定的回答 90%以上）			
4	第1回協議会 <6月18日> ○研究授業 ○道徳教育推進教師の役割について	・校内道徳教育推進委員会の確立 ・道徳教育推進体制の確立 ・全体計画・年間指導計画の確認 ・研究授業の計画、授業評価項目の協議 ・道徳用教材の確認 ・児童実態の共有 ・教材分析研修 ・道徳科についてのアンケート調査の実施 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・道徳推進委員会の活動計画提案 ・全体計画・年間指導計画の見直しの視点及び具体的な取組の提案 ・各教科等との関連について整理 ・授業評価シートの作成提案 ・アンケート調査作成提案 ・教材の管理 ・研修だよりの発行 ・道徳科における指導・助言 ・アンケート調査の集計・分析 ・アンケート調査、全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
5			
6			
7			
8			
振り返り	○ほぼ計画通り提案し、実行することができた。		
9	第2回協議会 <8月25日> ○模擬授業 ○道徳科の授業づくりについて 第3回協議会 <11月7日> ○研究授業 ○講師講話	・アンケート調査 ・研究授業の実施 ・道徳参観日の実施 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・〇〇市道徳教育推進協議会での研修内容について情報伝達 ・事後研究をもとに授業改善策を提案 ・家庭や地域社会からの意見を分析・改善策の提案 ・全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
10			
11			
12			
振り返り	○道徳参観日の効果的な実施のための提案を行うことによって、道徳参観日には、学校の道徳教育に関する方針や取組を発信するとともに、各学級で保護者等参加型道徳授業と意見交換を行い、家庭・地域との共通理解が図られた。		
1	第4回協議会 <1月28日> ○研究授業 ○今年度のまとめ	・研究授業の実施 ・道徳教育に関する取組実態の共有 ・アンケート調査 ・全体計画・年間指導計画の評価・改善の協議	・事後研究をもとに授業改善策を提案 ・道徳教育に関する調査（県）の回答作成 ・アンケート調査の集計・分析 ・アンケート調査結果、全体計画・年間指導計画の評価等に基づく取組の分析・改善策の提案
2			
3			
振り返り	○児童生徒の意識調査を実施・分析し、児童の実態に応じて取組の改善が図られた。△道徳科における指導・助言について、計画的に十分に行うことができなかった。来年度は〇〇市道徳教育推進協議会での研修内容を踏まえ、研修計画に基づいて計画的に行いたい。		

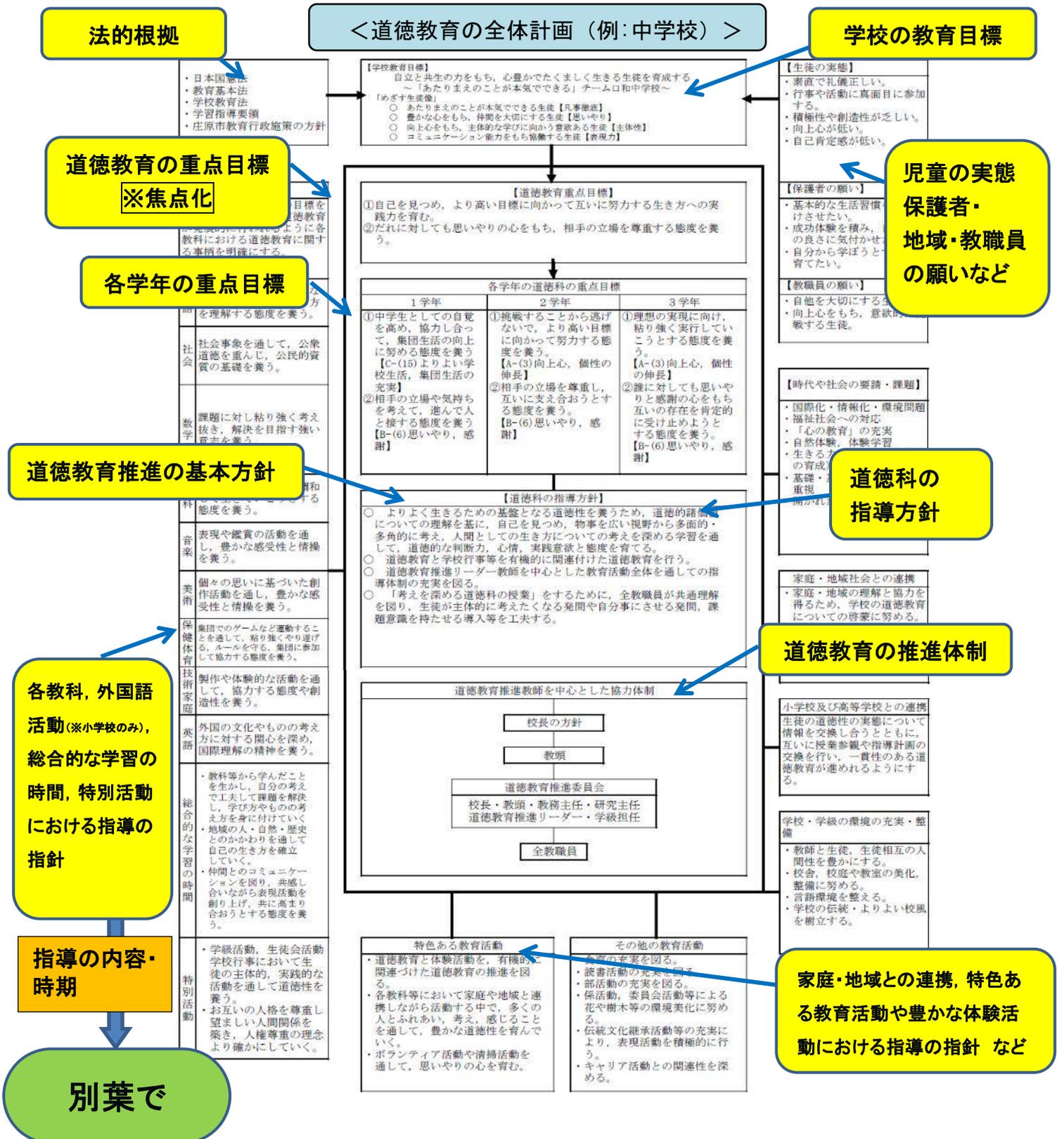
ここがポイント！

○ 道徳教育推進教師の活動計画を作成することで、活動内容や時期が明確になり、機能化が図られます。また、道徳教育推進教師が変わっても同様な活動が期待できます。

(3) 道徳教育の全体計画を作成しよう！

全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、**具体的な教育実践に生きて働くもの**になるよう、体制を整え、全教員で創意工夫して作成することが大切です。

また、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを別葉にして加えるなどして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられます。



< 道徳教育の全体計画 別葉 (例) >



より実効性の高い全体計画とするためには、各教科等における道徳教育の指導内容や時期を示した別葉を作成して活用しましょう。

① 4つの視点と内容項目ごとに、各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を示した例 (中学校第2学年)

各教科等ごとに

【道徳教育と各教科・領域等との関連(中学校第2学年)】

内容項目	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	英語
(1) 自主、自律、自由と責任									
(2) 節度、節制							健康と環境・障害の防止(4月～12月)	衣生活・住生活と自立(6月～3月)	
(3) 向上心、個性の伸長	アイスプラネット(4月)				自分の思いを歌声にのせよう(5月)	国家新聞(9月) ふるさとの木のめぐもり(11月) 遠近法(2月)	水泳(7月) 長距離走(9月) 跳箱運動(10月)		
(4) 希望と勇気、克己と強い意志	見えないだけ(4月)		三角形・四角形(12月)	科学偉人伝等(適年)		遠近法～理想の部屋～(2月)	長距離走(9月)		Presentation 1 将来の夢
(5) 真理の探究、創造									
(6) 思いやり、感謝									Let's Read 2 The Carpenter's Gift(7月)
(7) 礼儀							柔道(11月)		
(8) 友情、信頼	走れメロス(1月)					国家新聞(4月)	バレーボール(6月) サッカー(12月)		
(9) 相互理解、寛容									
(10) 遵法精神、公徳心									
(11) 公正、公平、社会正義			確率(2月)						
(12) 社会参画、公共の精神									Units Universal Design(10月) Units Career Dev.
(13) 勤労									
(14) 家族愛、家庭生活の充実	蘇土産(3月) 芋の思い出(9月)							家族・家庭と子どもの成長(12月)	
(15) よりよい学校生活、集団生活の充実					仲間とともに愛情豊かに合唱しよう(10月)	国家新聞(4月)			
(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	いにしへの心を尋ねる【古文・漢詩】(10月) 方言と共通語(2月)				日本の郷土芸能(1月) 歌舞伎について(2月)	ふるさとの木のめぐもり(11月)			Presentation 2 新紹介

重点目標

四つの視点と内容項目ごとに

2年生	国語	社会	数学
(1) 自主、自律、自由と責任		【日本の様々な地域】(7月) 【日本の語地域】(9月～2月) 様々な課題について自由な考えをもち、責任ある発言ができる。	各教科及び特別活動、学校行事等ごとに縦列に整理
(2) 節度、節制			【単元名】(実施時期) どのように関連するのが具体的に記入
(3) 向上心、個性の伸長	【見えないだけ】(4月) 詩を朗読しながら自己との対話を深めつつ、自分自身のよさを伸ばしていくようにする。		

上記の様式で道徳教育全体計画(別葉)を作成する利点

- ① 内容項目ごとに各教科等での扱いが整理されているので、道徳科の指導の際に参考になる。
- ② 実施時期を参考にすることで、小単元の設定に役立つ。
- ③ 教育活動の中で扱う機会が多い項目とそうでない項目が視覚化されることにより、道徳科で特に重点を置いて指導すべき内容が明確になる。
- ④ 各教科等における道徳教育との関連を明確にすることにより、各教科等の年間指導計画の「道徳教育との関連」欄の内容を見直す機会となる。

指導する内容項目について、どの教科等で、いつ、どのような道徳教育を行うのかなどを意識した指導につながります。また、重点内容項目を強調することで、道徳教育の重点化が図られます。



② 道徳科と各教科等ごとに、道徳教育に関わる内容及び時期を示した例(小学校第5学年)

学校教育目標, 道徳教育の重点目標, 学年重点目標を踏まえた別葉

学校教育目標
すすんで きたえ みがき のびる
 ~社会の変化に対応できる心豊かでたくましい子供の育成~

道徳教育の重点目標
 ○友達よさを見つて、自ら進んで一緒に働き・遊び・学ぶ子供を育てる。
 ◎夢をもち、自ら進んで正しく生きようとする子供を育てる。
 ○身の回りに目を向け、甲奴のよさを見つて自ら進んで表現できる子供を育てる。

【高学年重点目標】

- 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく。【B(10)友情, 信頼】
- ◎誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める。【C(13)公正, 公平, 社会正義】
- 我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ。【C(17)伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度】

★体験活動

月ごとに

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳の時間	いつも全力でA希望 オーストラリアで学んだことB礼儀 遠足の子どもたちA善悪	友の命B友情 流行おくれA節度 見えた答案A正直	天からの手紙A真理 きまりは何のためにC規則 たったひとつのたからものB生命 ふみ十年B自然	ちんもくのメッセージC伝統 母の退院C家族 消えたマイケルC公正	父の仕事(電車の運転士)C勤労 ベートーベンA希望 わたしのボランティア体験C勤労	心のレシーフB友情 微生物の力を借りて人々を救う~大村智D生きる 星野くんの二ある打C規則 世界最弱のヒーロー、アンパンマンC公正	親から子へ、そして孫へとC伝統 友愛の鐘C国際 イルカの海を守るろうD自然 ひさの星D感動	うばわれた自由A善悪 すれちがいB相互	正月料理C伝統 愛の日記C公正 くずれおちたダンボール箱B親切	残った仕事C学校 知らない間の出来事B友情 黄熱病とのたたかいB感謝 感動したこと、それがぼくの作品A個性	ありがとう上手にB感謝 バトンをつなげC学校
学校行事等	入学式B礼儀 始業式A希望 交通安全教室A節度 ★遠足B友情C規則	★運動会C公正B友情	新体力テストA希望 プール開きA希望	★ふれあい交流会C伝統 始業式A正直 ★宿泊体験活動B友情C学校 ★水泳習熟会C公正	始業式A希望 社会見学C規則D生命	防犯教室D生命 ★学習発表会B友情		終業式A正直	始業式A希望	★百人一首大会A希望	卒業式B礼儀B感謝 修了式A希望
児童会活動	児童総会C勤労 1年生を迎える会B友情		平和について考えようD生命	遊び集会B友情	児童会役員選挙C公正C学校	児童総会C勤労		遊び集会B友情		児童会役員選挙C公正C学校	6年生を送る会B友情B感謝C学校
特別活動(学級活動)	学級開きA希望 班や係を決めようC学校 遠足に向けてB友情C規則	給食当番B友情 運動会の目標A希望C学校 手洗いの大切さA節度	水泳A希望C規則 委員会活動についてC学校 宿泊体験活動に向けてB友情C学校 むし歯予防A節度	夏休みの生活A節度C家族 1学期のまとめA正直 よりよいくらしC学校	2学期の目標A希望 班と係の編成C学校 どんな食べ方がいいのかなA節度	学校をきれいにC規則 大切な目A節度 運動と健康A希望	読書A真理 学習発表会をふり返ってB友情C学校 朝食と睡眠A節度 避難訓練A節度	2学期の反省A節度 冬休みの計画C家族 冬の健康な生活A節度	3学期の目標A正直 体力づくりA希望 風邪予防A節度	雪の日の過ごし方A節度 児童会活動をもりあげようB友情 6年生を送る会に向けてB友情B感謝C学校	食生活を振り返ろうA節度 一年間のまとめA正直 もうすぐ6年生C学校
総合的な学習の時間(※キャリア教育)	※★米作りに挑戦しよう！C伝統			※★つながる三次！ ~ボランティアをしよう~ B友情C勤労			※★お米のすばらしさを伝えよう C伝統		※米から変身！甲奴のお酒造りC伝統		
その他の教科	(国)春の空C伝統 (社)世界の中の国土C伝統 ★(音)ゆたかな歌声をひびかせようB友情 (体)体づくり運動A希望	(国)古典の世界C伝統 発芽と成長D自然 (体)表現運動B友情	(国)夏の夜C伝統 (体)水泳A希望C規則 (体)ポール運動C公正	(国)千年の釘に込められた心C伝統 (体)水泳A希望C規則 (体)ポール運動C公正 (家)やってみよう家庭の仕事C家族	(国)日常を十七音でC伝統 (社)水産業のさかんな地域C伝統 (音)和音の美しさを味わおうB友情 (図)くるくる回してB友情	(社)工業生産と工業地域C伝統 (音)曲想を味わおうB友情 (体)マット運動A希望 (体)ポール運動C公正	(国)秋の夕暮れC伝統 (体)ポール運動B友情 (外)クイズ大会をしよう(What's this?)C国際 (理)川と災害D自然	(国)古典の世界C伝統 (音)詩と音楽を味わおうC伝統 B友情 ★(体)陸上運動A希望	(体)ポール運動B友情C公正 (図)色を重ねて夢を広げてA個性 (音)日本と世界の音楽に親しもうC伝統	★(国)一まいの写真からA個性A真理 (国)冬の朝C伝統 (算)円をくわしく調べようB友情 (体)表現運動B友情 (体)体づくり運動A希望	(音)心をこめて表現しようB友情

道徳の時間及び各教科等ごとに

月毎に、道徳科と各教科等の単元や題材で、どのような道徳の内容を指導するのかが明確になります。



③ 内容項目ごとに、各教科等との関連を発達の段階を踏まえて示した例

内容項目ごとの教材名 (発達の段階ごと)			各教科等との関わり		
友情、信頼 【1年】31 二つのこりり 【2年】5 およげないりすまん	友情、信頼 【3年】30 きょうりぶくクラス 32 飛べ、おれろ 【4年】14 ゲームのやくそく 20 プラジカからの転入生	友情、信頼 【6年】5 陽子、ドンマイ！	友情、信頼 木江小太鼓の練習・運動会・全校遊び・きらきらタイム・学習発表会・模試授業での活動 学級活動・朝の会・帰りの会 国語「みんなことん」「大きなおclin」「国語「かみから」「イタミ」 国語「うれしなることばをまつよう」 国語「お手紙」	友情、信頼 グローバルキャンプ 国語「言葉でつたえ合う」 体育「ゲーム」 音楽「音楽で心の輪を広げよう」	友情、信頼 修学旅行・伝馬体験学習 総合「言葉でつたえよう」 国語「言葉でつたえよう」
相互理解、寛容 【4年】1 貝から 17 学級新聞作り			相互理解、寛容 【5年】7 まかせてみようよ		
規則の尊重 【1年】3 みんなでまもうろ	規則の尊重 【3年】7 心の優先席 17 こまるのはだれ？ これ正しいかな？ 18 みんなでぼうし？ ぼうしめがれルーフ 【4年】31 図書館で	規則の尊重 【5年】17 セルフマジャッジ 【6年】11 「マナーからルールへ、そしてマナーへ」	他の教育活動などとの関連 朝の会・帰りの会・学級活動・体育科での活動・社会見学 生活「かっこいいすきあいようお」 国語「図書館はどこなところ」		
公正、公平、社会正義 【1年】13 ぶたのやくめ 【2年】21 のこぎり山のぶつ	公正、公平、社会正義 【4年】12 貝木のほんた	公正、公平、社会正義 【5年】15 「スイマー作戦」 「ガンゾー作戦」 【6年】16 鹿川園のうわさ	PTCドッチビー大会・朝の会・帰りの会・学級活動・体育科での活動 国語「スイマー」		
勤労、公共の精神 【1年】5 わたしにできること 【2年】28 まれいになつたごうしつ	勤労、公共の精神 【4年】2 みんなのためにできること	勤労、公共の精神 【5年】28 働くせーちョーク工場の志田さんー 【6年】14 応付場防の清掃ボランティア	PTA委工作業・清掃活動・当番活動・長期休業中や日常の家庭での仕事 生活「ひろがれえがね」 国語「いろいふね」		
家族愛、家庭生活の充実 【1年】30 ぎんのおしずく 【2年】15 わたしのおいさん、おばあさん	家族愛、家庭生活の充実 【4年】5 お母さんのせいきゅう書 30 ねくまれた日ード茨もー	家族愛、家庭生活の充実 【6年】9 かっこいいお父さん	PTA委工作業・清掃活動・当番活動・長期休業中や日常の家庭での仕事 生活「ひろがれえがね」 国語「いろいふね」		
よりよい学校生活、集団生活の充実 【2年】1 学校大まき	よりよい学校生活、集団生活の充実 【3年】23 いちようのホをまもるために 【4年】28 えがねの花大作戦	よりよい学校生活、集団生活の充実 【6年】1 一年生のお世話係ーアプターーユー	1年生お迎え遠足・全校遊び・PTCDドッチビー大会・卒業式・学級活動・縦割り班活動・きらきらタイム 生活「かっこいいすきあいようお」 国語「かっこいいすきあいようお」 生活「かっこいいすきあいようお」		
伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 【1年】20 もみじがかり 【2年】27 かいりんぼん	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 【3年】23 けつネおどり 【4年】9 わがいのまつり上げた石橋	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 【5年】4 かつおマーにこまおんたものは 18 世界の文化遺産 【6年】13 お茶の心	木江小太鼓の練習・すみれ祭り参加・社会見学(厳島神社3～5年)・総合(3～6年) 国語「むかしばなしをたのしもう」 国語「言いつたえられているお話を知ろう」 生活科「どきどきわくわくまちたんけん」 生活科「もっとなかよしまちたんけん」 音楽「こほんのうたをたのしもう」		
国際理解、国際親善 【1年】27 エマさんのこえあわせ 【2年】23 ジョゼくとおりがみ	国際理解、国際親善 【4年】33 ぶらのかり橋	国際理解、国際親善 【6年】23 フーパーさん	ALTとのふれあい・英語朝会・英語・外国語活動・外国語・読書活動 国語「おきなかぶ」 国語「外国の小学校について聞こう」		

1年生お迎え遠足・全校遊び・PTCDドッチビー大会・卒業式・学級活動・縦割り班活動・きらきらタイム 国語「みんなにばなそう」「ほんとはおだち」 国語「小学校のことをしようか」「こえをたけよう」 生活「かっこいいすきあいようお」 生活「かっこいいすきあいようお」	国語「調べたことをほしくしよう！」 学活「6年生ありがとう」	学活「1年生を迎える会」 学活「6年生を送る会」 国語「問題を解決するために話し合おう」	よりよい学校生活、集団生活の充実
木江小太鼓の練習・すみれ祭り参加・社会見学(厳島神社3～5年)・総合(3～6年) 国語「むかしばなしをたのしもう」 国語「言いつたえられているお話を知ろう」 生活科「どきどきわくわくまちたんけん」 生活科「もっとなかよしまちたんけん」 音楽「こほんのうたをたのしもう」			伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
ALTとのふれあい・英語朝会・英語・外国語活動・外国語・読書活動 国語「おきなかぶ」 国語「外国の小学校について聞こう」			国際理解、国際親善

学校や学年の道徳教育の重点目標を入れておくと、重点目標を意識して指導することができます。また、道徳科と各教科等との関連を意識した指導を行うことができます。



ここがポイント！

- 道徳教育の全体計画や別業を作成する際は、道徳教育推進教師一人が作成するのではなく、全教員が作成にかかわるようにしましょう。

(4) 道徳科の年間指導計画を作成しよう！

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画です。具体的には、道徳科において指導しようとする内容について、児童生徒の実態や多様な指導方法等を考慮して、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を学年別に年間にわたって適切に位置付け、配列し、学習指導過程等を示しましょう。

<年間指導計画に明記しておくことが望まれる事柄>

- 各学年の基本方針
- 各学年の年間にわたる指導の概要
 - ア 指導の時期 イ 主題名 ウ ねらい エ 教材 オ 主題構成の理由
 - カ 学習指導過程と指導の方法 キ 他の教育活動等における道徳教育との関連
 - ク その他（校長や教頭などの参加及び教員の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、複数の時間で取り上げる内容項目の場合の全体構想等）

<道徳科の年間指導計画（例）>

小学校第5学年 年間指導計画

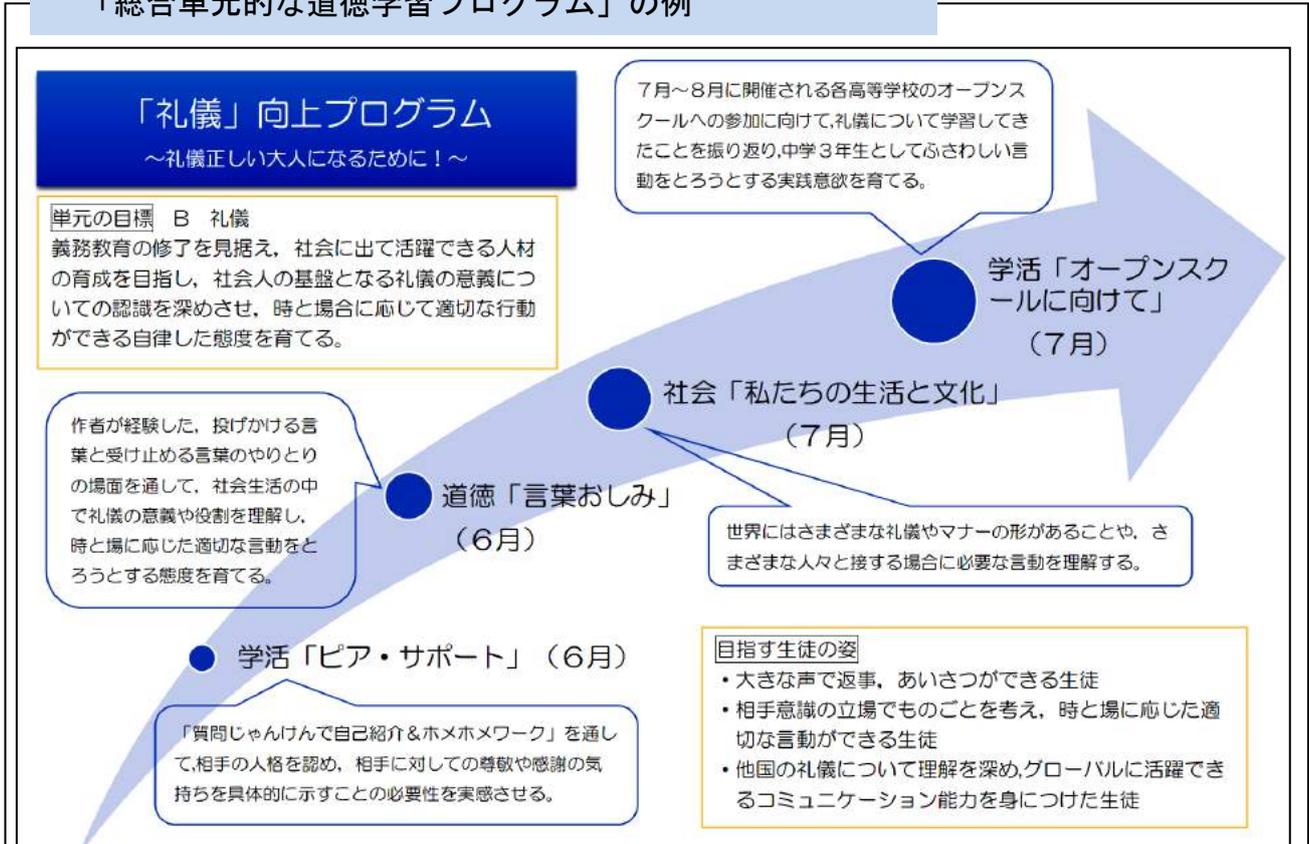
学年の基本方針	1 身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たせるようになる。 2 教材中の特定場面や状況を自分との関わりで考え、自分の生き方についての自覚を深めさせる。					
イ 主題名	回	1	月	4	週	2
	主題名	節度ある生活		内容項目	節度、節制A（3）	
	教材名	流行おくれ	出典	文部省 読み物資料 「主として自分自身に関すること」		
エ 教材名（出典）	主題構成の理由	生活を振り返り、自ら節度を守り、節制に心掛けることについて、主人公を通して考える。				
	ねらい	生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り、節制に心掛けようとする態度を育てる。				
カ 学習指導過程	学習指導過程	1 児童の流行に関する話について話し合う。 2 教材「流行おくれ」を読んで話し合う。 (1) みどりと社会科見学の服装についての話をした真由美は、どんな気もちだったか。 (2) 母にたしなめられた真由美は、どんなことを考えたか。 (3) わたるに「ゲームの本を返して」と言われた真由美は、どんな気もちだったか。 (4) シーンとして自分の部屋を見直す真由美は、どんなことを思っていたか。 3 節度節制について、心掛けている事柄や実行している事柄の話合いを通して、自分の生活を考える。 4 生活習慣について、教師が日ごろ努力していることの話を聞く。				
ウ ねらい	他の教育活動との関連	学習規律の指導（常時）、学級活動（2）基本的な生活習慣の形成				
キ 他の教育活動との関連	振り返り					
	備考					

ここがポイント！

- 振り返りや備考欄を設け、授業実施後に気づきを記入しておくこと、次年度に向けて、さらに加筆・修正することができ、授業改善につながります。

(5) 各教科等との関連を図った実践例

「総合単元的な道徳学習プログラム」の例



生徒の自己評価シート

「礼儀」向上プログラム
～礼儀正しい大人になるために～

学習日: 8/28 (金)
高校の先生に見てもらったから、自分も頑張りたい。聞く態度を高めるつもりで、自分の行く高校も調べてみた。

学習日: 8/22 (月)
自分が感謝の気持ちを持てた。言葉は大切だ。聞く態度も大切だ。自分も頑張りたい。

学習日: 8/22 (月)
先生や先輩の話をよく聞きました。自分も頑張りたい。聞く態度も大切だ。自分も頑張りたい。

学習日: 8/22 (月)
先生や先輩の話をよく聞きました。自分も頑張りたい。聞く態度も大切だ。自分も頑張りたい。

学習日: 8/22 (月)
先生や先輩の話をよく聞きました。自分も頑張りたい。聞く態度も大切だ。自分も頑張りたい。

①プログラムの実施前に、テーマに係る自分の現状を振り返る。

②各学習の終了後に振り返りを記入する。

③自分の学びを振り返り、この学習を今後どう生かしていくかを記入する。

④保護者から評価をもらい、自らの学びと変容を自覚する。

【作成と活用のポイント】

- 作成に当たっては、自校の道徳教育全体計画（別葉）を参照し、各教科の学習内容と内容項目との関係を明確にしましょう。また、必要に応じて別葉を見直しましょう。
- できるだけ短い期間で学習内容を絞って計画・実行すると、児童生徒が学びのつながりを実感しやすくなります。
- プログラムと同様の形式の自己評価シートを作成し活用することで、児童生徒に学習内容のつながりを意識させるとともに、自らの学びを振り返る場面を設けることができます。

防災教育と関連を図った実践例（年間指導計画をもとに道徳学習プログラムを作成の例）

年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳科	・あなたの時間にいのちをふきこめば(1)	・小さな草たちは(1)⑧	・ちこく(1)	・ええことするの、ええもんや!(1)	・家族の一員として(1)	・遠足の朝(1)・いじりといじめ(1)⑨	・交かんメール(1)	・聞かせて、君の声を!(1)	・朝がくると(1)	・浮世絵ー海をわたったジャパン	・にぎりしめたいね(1)
目覚まし時計(1)	・さち子のえがお(1)	・いのりの手(1)	・ぼくの草取り体験(1)	・ほんとうに上手な乗り方とは(1)	・雨とどの様(1)	・ヒキガエルとロバ(1)⑩	・心と心のあく手(1)	・金色の魚(1)	・三つつつみ(1)	・にぎりしめたいね(1)	
35	・あいさつができた(1)	・海をこえて(1)	・雨のバスをのりゆう所(1)②	・ネコの手ボランテア(1)	・花さき山(1)	・大根祭り(1)	・お父さんのじまん(1)⑬	・三つつつみ(1)	・「まっ、いいかな」(1)	・にぎりしめたいね(1)	
35			③④⑤	⑬	③⑩⑫⑬	⑩⑫	③⑩⑫	⑩⑫⑬	⑩⑫⑬	⑩⑫⑬	
35					・がむしゃらに(1)	・つくればいい(1)	<神石高原町地域教材>	・お父さんのじまん(1)⑬	・よわむし太郎(1)	・よわむし太郎(1)	
35							・新次のしょうぎ(1)				



4年生 ⑬ 防災を含む安全に関する教育(1)

目指すべき児童像(2)
命を守り、安全で安心な社会づくりのために、『地域の支援者となることのできる子ども』を育成する

道徳科(3)

あなたの時間に命をふきこめば D-(18) (生命の尊さ)	目覚まし時計 A-(3) (節度・節制)	ねこの手ボランテア C-(13) (勤労、公共の精神) (本時)	本当に上手な乗り方は A-(3) (節度・節制)	お父さんのじまん C-(16) (伝統と文化の尊重 国や郷土を愛する態度)	金色の魚 A-(3) (節度、節制)
【いのちは「時間」】	【節度ある生活】	【ほうしの気持ち】	【安全に気をつけて】	【国や郷土を愛する】	【よくばりな心】

社会科 ・自然災害から命を守る ・よみがえらせよう、われらの広村（濱口梧陵）(4)

理科 ・水のすがた ・水のゆくえ（水の特徴・危険性）

特別活動 ・健康診断の意義 ・交通安全のみぎり ・プール開きに向けて ・体力づくり

学校行事 ・避難訓練 ・防災教室

道徳学習プログラム

事例として示している道徳学習プログラムは、小学校学習指導要領における「⑬防災を含む安全に関する教育」の内容を踏まえて作成しています。「安全・安心な教育環境の構築」の一助として、4年生では「稲むらの火」で知られる「濱口梧陵」をキーパーソンとして、道徳科「お父さんのじまん」、社会科「よみがえらせよう、われらの広村」「自然災害から命を守る」等、各教科等の内容と関連させ、命を守り、「安全で安心な社会づくりのために、『地域の支援者となることのできる子ども』」を目指していきます。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 付録6

「⑬ 防災を含む安全に関する教育」（現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）

「学習指導要領解説 総則編 付録6 ①～⑬」に示された内容を、年度当初に教育課程に導入することを検討することによって、学習指導要領で求められている「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」を年間指導計画に反映することができます。そのことにより、児童は、小学校での6年間を通して「現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容」について学ぶことができるようになります。年間指導計画は、単元の終了後、児童の学びや姿を基に、随時、改善していくことが大切です。

道徳教育・道徳科に関する校内研修を充実させたい

3	道徳教育に関する校内研修	41
(1)	校内研修の進め方	41
①	研修日・時間の設定	41
②	校内研修を進める方法	42
(2)	研修内容例	43
①	年度当初	43
②	年度途中	44
③	年度途中・年度末	45
4	道徳科の校内研修	46
(1)	事前研究をしよう！	
①	教材分析	46
②	主題解釈と教材解釈	49
③	学習指導案の作成	50
④	学習指導案の検討	55
⑤	模擬授業	55
(2)	授業研究をしよう！	57
①	ビデオ記録の活用	57
②	授業記録用紙の活用	58
(3)	事後研究をしよう！	
①	研究協議会	60
②	ワークショップ型の研究協議	62
③	授業評価	63
④	オンラインによる授業研究	66
5	道徳教育改善・充実のための情報発信	67
	※研究日より，道徳通信，掲示物等	



全教師が協力し合う
指導体制を充実させる
ことが大切です！



3 道徳教育に関する校内研修

道徳教育を効果的に進めるためには、全教員が道徳教育及び道徳科の重要性や特質について、理解を深めるとともに学校の道徳教育の基本的な方針を共通理解し、協力して道徳教育を展開するための道徳教育に関する校内研修を充実させることが大切です。

高等学校においては、生徒の発達段階に対応した指導の工夫が求められることや小・中学校と異なり道徳科が設けられていないことなどから、道徳教育の指導に係る共通理解を図る研修を設定するなどの配慮が必要です。



県内において道徳教育の研修の状況については、図1の令和元年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケート結果（左側）を見ると、「道徳教育に関する研修を計画的に行っている」に対して肯定的回答が9割を超えており、各校において道徳教育が計画的に進められてきていることが分かります。しかしながら、研修の充実や内容の工夫については、肯定的回答が8割台となっており、計画している毎回の研修内容をより一層充実させていくことが大切と言えます。

また、同アンケート結果（右側）を見ると、道徳教育推進教師に関する各項目の肯定的回答が8割を超えており、各校において、道徳教育推進教師が確実に位置付けられ、その役割を果たしていることが分かります。しかしながら、道徳科に関する項目に比べ、道徳教育に関する項目の肯定的回答が低くなっていることや、道徳教育推進教師自身の働きに関する項目が他の項目よりも肯定的回答が低くなっていることから、道徳教育推進教師の役割を明確化するとともに、全教師が協力して道徳教育を展開することができる体制づくりが重要となります。

これらのことを踏まえ、各校の実情に応じて全教師が積極的に関わることができる機能的な協力体制を構築し、計画的に道徳教育に関する研修を進めていくことが大切です。

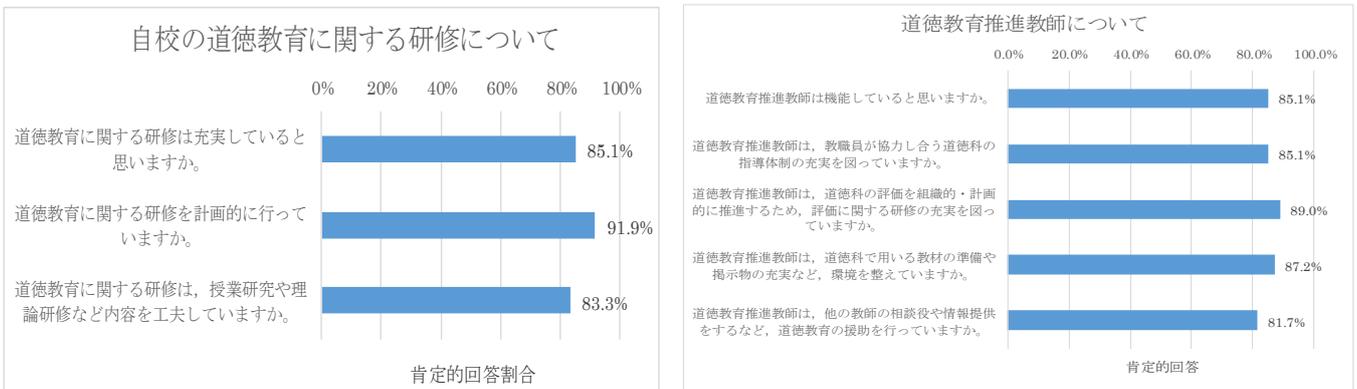


図1 令和元年度市町道徳教育推進協議会参加者アンケート結果
(広島市を除く22市町)

(1) 校内研修の進め方

① 研修日・時間の設定

年度当初から計画的に校内研修を進めていくためには、前年度のうちに次年度研修計画を作成するとともに、道徳教育に関する研修を計画・実施しておくことが大切です。

また、校内研修は、全教員の共通理解を図る場となるので、道徳の理論研修や授業研究を設定しておくことで理論と実践が結び付き、指導力の向上にもつながります。研修を設定する際は、研修のおおまかな内容や担当分掌等を明確にしておくことで、研修を進めやすくなります。

講師招へいについては、前年度のうちで予定を立て依頼をしておくことでスムーズに実施できます。



〈例〉研修計画（中学校：道徳教育に関するもの）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	○生徒の実態把握 → 重点目標等の共通理解		○授業研究（第三学年） ※講師招へい		○一学期の取組の振り返り → 二学期以降の方向性の確認		○授業研究（第二学年）	○これまでの取組の振り返り → 三学期に向けて		○授業研究（第一学年）	○今年度の取組の振り返り → 次年度に向けて	
	全体計画を基に、どのように道徳教育を進めていくのかを確認していきます。			生徒の実態や取組の成果・課題を整理し、二学期以降の取組につないでいきます。			生徒の実態や取組の成果・課題を基に、重点目標等の見直しをしていきます。					
担当分掌等	生徒指導部 研究部		研究部 （二学年会）		研究部		研究部 （二学年会）		研究部 （二学年会）		生徒指導部 研究部	

※水曜日の研修時間を予定していますが変更もあります。
※授業研究は5校時を予定しています。

② 校内研修を進める方法

- (ア) 全教員が役割を分担し、全員で研修を進める方法
- (イ) 分掌組織によって進める方法
- (ウ) 道徳教育推進教師が中心となって進める方法
- (エ) 指導者を招へいして研修を進める方法
- (オ) 道徳科の授業や道徳的実践の指導などを通して研修を進める方法

道徳教育推進教師一人で悩むのではなく、教務主任や研究主任の先生方と連携して進めましょう！



ここがポイント！

- 常に子供から出発して、指導に還元できるようにしましょう。
- 目指す子供像を設定し、共通理解を図りましょう。
※小学校は中学校の、中学校は高等学校の実態を聴くことで、良さや課題を把握でき、子供たちにどんな力を付ける必要があるかが明確になります。
- 全教員が意欲的に取り組める内容にしましょう。
- 記録を取り、次への研修に活かすことができるようにしましょう。
- 道徳教育推進教師一人で進めるのではなく、組織的な活動になるようにしましょう。
- 研修後、各自が明日からの授業に何を生かすか、振り返りを大切にしましょう。

例：「自分化宣言」

10/9校内研修 自分化宣言

私、は、

します。

(2) 研修内容例

① 年度当初

道徳教育の全体計画に関する内容



年度当初に全教員で共通理解することで、重点を意識した取組につながります！

〈事例〉研修テーマ「生徒実態を踏まえた重点目標の確認」

〔当日の流れ〕

- 道徳教育推進教師と生徒指導主事が役割分担をし、運営していきます。
- 1 前年度までの児童生徒実態（良さや課題）をアンケート等の資料を基に共通理解を図る。
※前年度から勤務している教員に具体的な状況を話してもらうよう事前に依頼しておく。
- 2 今年度の道徳教育の全体計画を見ながら、「1」を踏まえた目指す児童生徒像を確認する。
- 3 道徳教育の重点目標の確認。
- 4 各学年の道徳教育の重点目標の確認。
- 5 各教科等で重点目標を意識した取組をしていくことを確認し、学期末に各教科等における児童生徒の様子（変容：とりわけ重点目標にかかわって）を交流する場を設定していることを伝える。

学校教育目標の具現化を図るためにも、各校において全教育活動を通して目指す児童生徒の姿を、より具体的に設定するといいかもかもしれませんね。

児童生徒の実態と、保護者や地域の人々の願い、教職員の願い等を踏まえて、具体的な児童生徒の姿を設定しましょう。



学校教育目標の具現化を図るためにも、全ての教育活動を、この目指す児童生徒の姿にリンクさせて取り組んでいきましょう！

また、目指す児童生徒の姿に関連の深い内容項目を整理することで、重点項目を設定したり、内容項目にかかわりのある教科や行事などを洗い出したりすることで、配列の工夫等もできますね！

ここがポイント！

- 道徳教育推進教師が全体を把握しながら、全教員が主体的に参画できるように、役割分担を行ったり、事前に協力を求めたりして、道徳教育を円滑に推進していきましょう。
- 道徳教育は学校の教育活動全体で行っていくものです。各教員がそれぞれの役割意識を持ち、自らの役割を進んで果たせるように、全教員が共通の課題意識をもって進めていきましょう。
- 道徳教育の重点目標（各学年の道徳教育の重点目標）を常に意識できるように、例えば常に見えるところに貼るなど、意識付けしていきましょう。

道徳的価値に迫る読み物教材の活用や、道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業を展開するために、計画的・組織的に研修しましょう。

② 年度途中

道徳教育に関する内容

〈事例〉道徳科における質の高い多様な指導方法について



【研修用実践事例DVD『主体的・対話的で深い学び』のある道徳科の授業づくりに向けて一小・中学校版一】を活用しよう ※県教育委員会ホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/12doutoku/kensyudvd.html> [研修のねらい]

文部科学省の専門家会議で示された、道徳科に求められる質の高い指導方法である「登場人物への自我関与が中心の学習展開」「問題解決的な学習展開」等の授業づくりに向けてDVDに収録された研究授業を視聴し、自らの授業を振り返りながら、より効果的な指導方法を検討することで、授業改善につなげていく。

【当日の流れ】

○道徳教育推進教師が中心となり、教務主任や研究主任と連携し、運営していきます。

- 1 DVDを視聴する前に、協議の柱となる視点を設定する。
(例)「主体的な学び」を促す発問の工夫、「対話的な学び」を促す指導方法の工夫等
- 2 各自、中心発問や補助発問を考える。※学習指導案にある発問を隠しておくことも可
- 3 配布資料を読む(「研修用実践事例DVDの活用について」、小学校第4学年「雨のバス停留所」の教材、学習指導案)。
- 4 DVDを視聴する。
- 5 グループごと、1で設定した協議の柱をもとに、次の視点で協議を行う。
(例)・視点① 参考になる点 ・視点② 改善できる点
- 6 各市町、各校における道徳科の授業改善の方向性について協議する。
- 7 まとめ (道徳教育推進教師等)



図2 教材：わたしたちの道徳（小学校1・2年）増補版

視点	
①参考になる点	②改善できる点
<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の方向性について</p>	

図3 演習シート

ここがポイント！

- 道徳科の授業が児童生徒にとって、深く考える主体的・能動的な学習になるためには、何よりも教員が能動的な学習者でなければなりません。質の高い多様な指導方法を目指して、研修することが求められます。
- 道徳科の指導力向上のために、授業の準備、実施、振り返りの各プロセスを含め、全教員が、道徳科の学習指導案の作成や授業実践を少なくとも年に1回は担当して授業を公開するなど、学校全体での積極的な指導力向上の取組に努めましょう。

③ 年度途中・年度末

〈事例〉 研修テーマ「道徳科の年間指導計画の評価・改善に向けて」〈例〉



道徳教育の要となる道徳科の授業が、より児童生徒の心に響くものとなるように、年度当初に確認した事項を学期ごとに全教員で振り返る時間を設けることで、授業改善を図っていくことができます。また、年度末に行うことで、次年度につながる評価・改善を行うことができます。

〔当日の流れ〕

○道徳教育推進教師が中心となり、学年主任等と連携し、運営していきます。

- 1 客観的なデータを基に、児童生徒の実態を交流する。
- 2 年度当初確認した事項(★)について、各学年会で確認したものをもちより、全体で交流する。
- 3 質疑応答。
- 4 共通理解を図り、今後の工夫・改善に生かす。

★【年度当初 確認事項】

- ①各学年において、道徳科の年間指導計画に基づき、次週の道徳の授業に向けて学習指導過程や「私たちの道徳」の活用の仕方を明示したもの(参照例)で提案する(学年会内輪番制)。
- ②提案したものは、共有フォルダ「道徳」→「(該当)学年」に保存しておく。
- ③学習指導過程等を追加変更した際は、朱書きしておく。
- ④児童生徒のワークシートには、授業についてのアンケート項目を入れておき、児童生徒の受け止めを反映させる。
- ⑤「成果と課題」には、ねらいにせまる中心発問であったか等について、具体的な児童生徒の反応から記入する(授業後)。

児童生徒自身が自分との関わりで深く考えられるよう、手立てが効果的であったかを見直すことができます。また、具体的な児童生徒の反応から授業を振り返ることにより、発問の構成を再検討するなど、授業改善に生かすことができます！



(参照例)

期日	12月12日(金)			
主題名	自分の言動に責任を	内容項目	自主、自律A(1)	
教材名	ネット将棋	出典	□私たちの道徳(文部科学省)	
ねらい	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を養う。			
学習指導過程	○どう考えて僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろう。 ○心から「負けました。」と言うことができるのは、どのような思いからだろうか。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どのようなことを考えているからだろうか。			
「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き、p22~27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し、誠実に他者に接することの大切さについて考える。			
他の教育活動等との関連	学級活動(自己理解と生活設計)			
《授業についての生徒アンケート》	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の授業はためになったか。	%	%	%	%
自分の思いや考えをもち、振り返ることができた。	%	%	%	%
教材がよかった。	%	%	%	%
成果と課題				

(授業後)

期日	12月12日(金)			
主題名	自分の言動に責任を	内容項目	自主、自律A(1)	
教材名	ネット将棋	出典	□私たちの道徳(文部科学省)	
ねらい	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を養う。			
学習指導過程	○スポーツと将棋の違いについて確認をする。 ○どう考えて僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろう。 ◎心から「負けました。」と言うことができるのは、どのような思いからだろうか。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どのようなことを考えているからだろうか。 ○「私たちの道徳」p25に記入し、交流する。			
「私たちの道徳」の活用	学級活動や常時活動において引き続き、p22~27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し、誠実に他者に接することの大切さについて考える。			
他の教育活動等との関連	学級活動(自己理解と生活設計)			
《授業についての生徒アンケート》	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の授業はためになったか。	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%
自分の思いや考えをもち、振り返ることができた。	15.0%	63.3%	21.7%	0.0%
教材がよかった。	23.3%	70.0%	6.7%	0.0%
成果と課題	将棋をさしたことがない生徒がほとんどという実態である。そこで、導入においてスポーツと将棋の写真を提示し、将棋では「負けました。」と言って終わることや電子黒板でネット将棋の映像を提示し、全員が共通にイメージをもつため、教材を手掛かりに考えることができた。授業アンケートでは、「授業はためになった」、「教材がよかった」の数値は高いが、自分との関わりで十分に深められなかったことから中心発問における予想される生徒の反応からさらに深める発問を考えておくことが必要である。			

4 道徳科の校内研修

道徳科の指導においては、児童生徒一人一人が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。それとともに、児童生徒が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められます。そのためにも、道徳科の校内研修として、事前研究・授業研究・事後研究を行うなどして、授業改善を図っていくことが大切です。 ※（ ）は中学校

（１）事前研究をしよう！

① 教材分析

教材について、ねらいとの関わりで道徳的価値がどのように含まれているかについて検討します。例えば、人物が登場する読み物教材の場合、教材中の登場人物の行為や心の動き、教材に対する児童生徒の感じ方や考え方などを分析し、どのようにすれば学習意欲を高め、道徳的価値の自覚を深めることができるかなどについて多面的に検討しましょう。

<教材分析の例>

1 教材を読み、場面ごとにまとめる。

- 時間経過、場面の变化等で3～4の場面に分ける。
- 各場面を短い言葉でまとめる。

2 場面ごとの登場人物の行為、心の動きなど、キーワードとなる表現を読み取る。

- 会話文や副詞、形容詞などに注意する。

3 登場人物の行為やその奥にある心の動きに含まれている価値を押さえる。

- 時間や場所の変化など、行間にも注意する。

4 主人公の行為、心の動きを支えている価値を考え、本時のねらいにかかわる中心的な価値、関連価値をはっきりさせる。

- 教材の中に含まれている様々な価値を整理する。

5 本時のねらいにせまる中心場面を考える。

- 授業展開の山場になる。
- ねらいによって中心場面は変わる。（主人公の変容場面、葛藤場面、満足場面など）

6 中心発問を考える。

- 複数の発問を想定し、児童生徒の立場から心の動きを予想する。
- 児童生徒の多様な考え方を引き出せるような発問を考える。（書かれている内容や行動を問うだけの発問にならない）

7 中心発問を生かすための基本発問、補助発問を考える。

- 基本発問は、精選し、時間をかけすぎない。

ここがポイント！

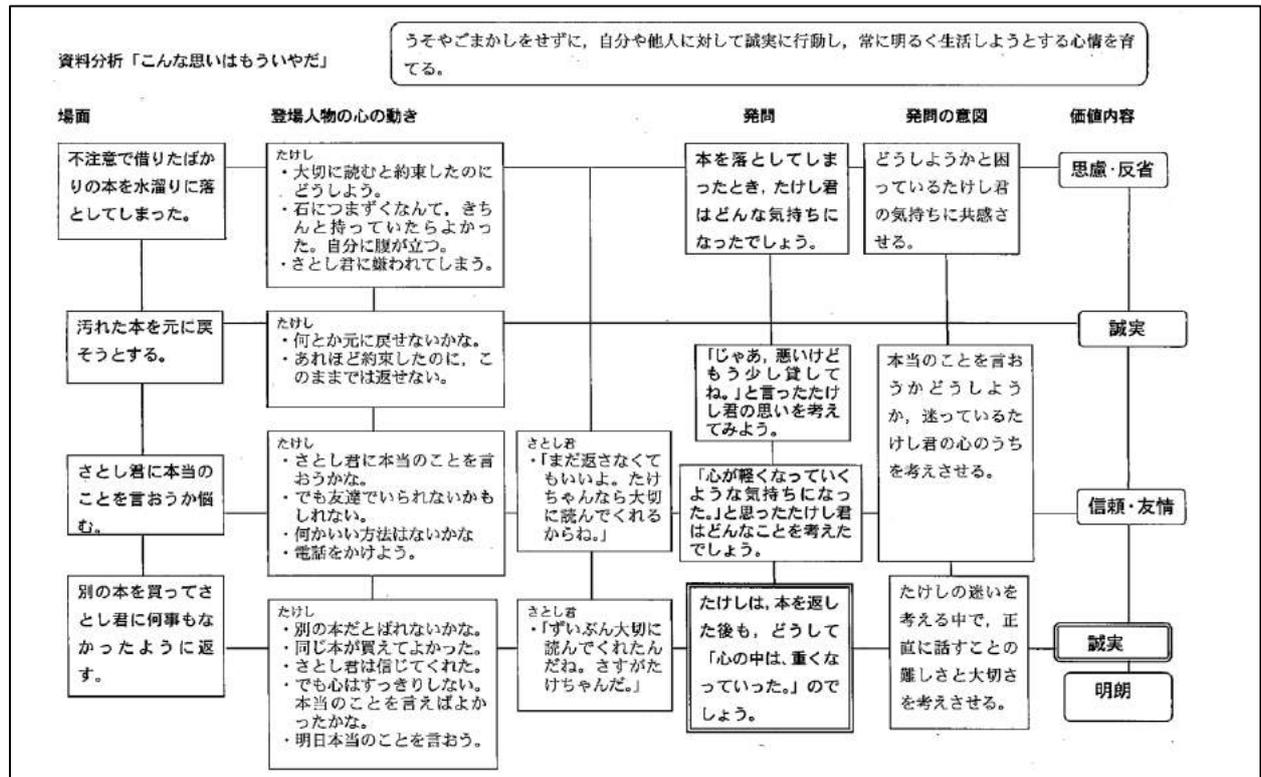
- 授業者の教材分析の深さが、授業を成功へと導きます。
- 児童生徒の実態を踏まえた、心の動きを予想しましょう。（同じ学習指導案でも、学級によって児童生徒の反応が違います。）
- 教員の視点での分析とともに、児童生徒の視点でも分析しましょう。

<教材分析表 (例)>

○ 心情曲線を生かした分析表

10 資料分析図		「監督のくれたメダル」		三年 内容項目4-(4)		役割の自覚		
場面	登場人物の心情・言動	中心人物	その他の人物	中心発問	生徒の反応	心情の流れ		
①野球部で	・人の気も知らないで・もうノックをするのを止めたい ・泣きたくなくてくる ・監督は私のような日ツクをやつてくのが当たらない人間の気れ ・持ちなど理解できないに違いない ・早くこの場から立ち去りたい	・Yのシヨックの大きさは私とは比べものにならないだろう ・私だつて逃げ出したと気が持たない ・逃げ出したと気が持たない ・逃げ出して陰の仕事をやつている	・「早う打てや」	・何とも言わないで ・もわかつてもらえ ・電話口のYは無	・Yが練習に姿を	・つらい ・くやしい ・だれもわかつてくれない ・こんなことをするために野球部にはいつたのではな	・Yのシヨックは自分とは比べものにならないだろう ・監督も悩んで出場メンバーを選んでるんだ ・逃げ出したいのに陰の仕事をやつているんだ	・「最後まで頑張つてみよう」と自分に言い聞かせる ・監督がくれたメダルは私の宝であり、私の人生の礎となっている
②県大会	・手の豆は痛くなくなつていて ・Yが復活してからはていねいに打つようになつた	・自分の役割の大切クをする手から ・Yも頑張っている ・なり、ていねいなることが分かつたから自分も頑張ろう ・チームの一人として役割を果たして自分もチームに貢献している突感が持てた	・監督がメダルを手渡した	・自分もチームに買	・うしろしい ・監督はわかつてく	・つらい ・くやしい ・だれもわかつてくれない ・こんなことをするために野球部にはいつたのではな	・Yのシヨックは自分とは比べものにならないだろう ・監督も悩んで出場メンバーを選んでるんだ ・逃げ出したいのに陰の仕事をやつているんだ	・「最後まで頑張つてみよう」と自分に言い聞かせる ・監督がくれたメダルは私の宝であり、私の人生の礎となっている
③県大会	・涙があふれて監督の顔が霞んだ	・自分の役割の大切クをする手から ・Yも頑張っている ・なり、ていねいなることが分かつたから自分も頑張ろう ・チームの一人として役割を果たして自分もチームに貢献している突感が持てた	・監督がメダルを手渡した	・自分もチームに買	・うしろしい ・監督はわかつてく	・つらい ・くやしい ・だれもわかつてくれない ・こんなことをするために野球部にはいつたのではな	・Yのシヨックは自分とは比べものにならないだろう ・監督も悩んで出場メンバーを選んでるんだ ・逃げ出したいのに陰の仕事をやつているんだ	・「最後まで頑張つてみよう」と自分に言い聞かせる ・監督がくれたメダルは私の宝であり、私の人生の礎となっている
④五年後	・「最後までがんばつてみよう」と自分に言い聞かせる ・監督がくれたメダルは私の宝であり、私の人生の礎となっている	・自分の役割の大切クをする手から ・Yも頑張っている ・なり、ていねいなることが分かつたから自分も頑張ろう ・チームの一人として役割を果たして自分もチームに貢献している突感が持てた	・監督がメダルを手渡した	・自分もチームに買	・うしろしい ・監督はわかつてく	・つらい ・くやしい ・だれもわかつてくれない ・こんなことをするために野球部にはいつたのではな	・Yのシヨックは自分とは比べものにならないだろう ・監督も悩んで出場メンバーを選んでるんだ ・逃げ出したいのに陰の仕事をやつているんだ	・「最後まで頑張つてみよう」と自分に言い聞かせる ・監督がくれたメダルは私の宝であり、私の人生の礎となっている

○ 発問の意図を明確にした分析表



○ 主人公の変容に着目した分析表

教材名 (出典名)	夜のくだもの屋 「中学生の道徳1 自分を見つめる」(廣済堂あかつき株式会社)
主人公	少女
登場人物	父親, おばさん, おやじさん
資料の要約	コンクールに向けて, 夜遅くに帰宅する少女。 ある日から, 帰宅途中, 遅い時間にもかかわらず, くだもの屋に明かりがついていた。 コンクールも終わり, くだもの屋に立ち寄ると, 自分がロズさんでいたハミングが聞こえてくる。 少女は, 店主のおばさんが少女のためにあかりをつけてくれていたことを知った。
資料のメッセージ	相手の気持ちに立って, 思いやりのある行動をとればあたたかい気持ちになる。
内容項目	2-(2) 思いやり
変容ときっかけ	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Before(道徳的な変容をする前)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがたいと思っはいるが, 伝えられない。 ・自分が頑張っている。(自分本位) </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 150px;"> <p>助言者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くだもの屋のあかり ・おばさんの思いやり </div> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>After (道徳的な変容をした後)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直に感謝できる。 ・自分の知らないところで, 多くの人に支えられている。 </div>
中心発問	少女が, 「この店のあかりがあんなにあたたかく見えたのは, 当然だった」と思ったのは, なぜだろう。
中心発問に対する予想される生徒の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を思っつけてくれたあかりだから。 ・おばさんの優しさが込められていたから。 ・見ず知らずの自分への思いやりが込められていたから。 ・見返りを求めない <p>補) 店主はどんな思いで毎日あかりをつけていたのだろう。 ほかにあかりはないだろうか 今までのあなたに, あかりはないですか</p>
基本発問	<ul style="list-style-type: none"> ・少女は, いつも遅くなることについて, どう思っっていたのだろう。 ・少女は, くだもの屋にあかりがついていることについて, どう思っっていたのだろう。

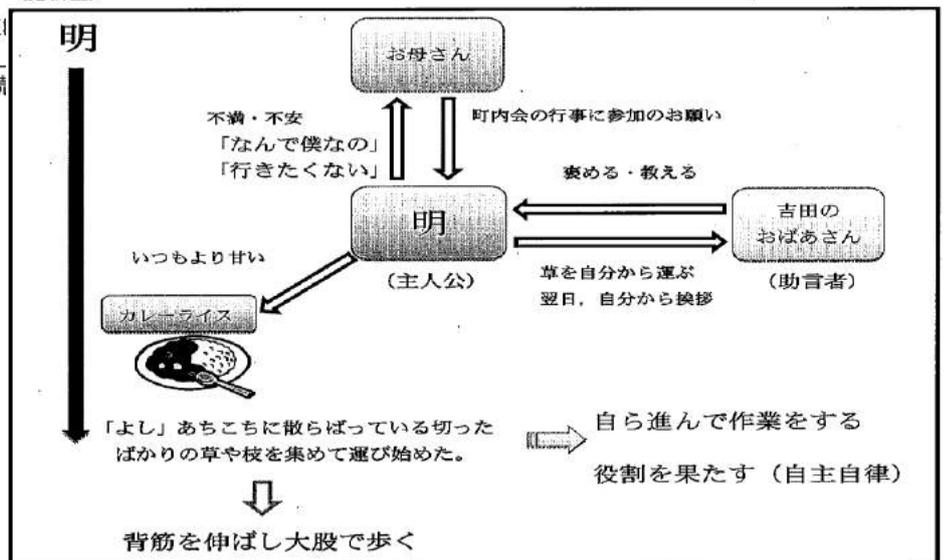
○ 登場人物等の関わりを図式化した分析表

「町内会デビュー」資料分析

1	主人公	明
2	変容	町内会の行事に参加したくない→参加をする→褒められる・気分が高まる→「よし」本気でやろう, やりがいがある, 人のために→大人になったような気持ち→大股で学校へ
3	山場	「よし」切ったばかりの草や枝を集めて運び始めた
4	助言者	吉田のおばあさん
5	内容項目	1-(3) 自主

※上記5つの視点を持って資料を讀

〈分析図〉



② 主題解釈と教材解釈

授業者は、ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき、明確な意図をもって授業に臨むことが大切です。

道徳科の授業で、子供たちにどのようなことを考えさせ、どのようなことに気付かせたいのかを明らかにするために、主題についてしっかりと分析しておきましょう。



主題解釈・教材解釈シートを用いた授業づくりの例 ※出典（広島大学大学院教育学研究科 教授 宮里 智恵）

道徳研修資料 第2学年 「キング」と呼ばれる理由 ～三浦知良～
「主題解釈と教材解釈」 本日の主題 《 くじけない心と強い意志 》

【1】主題解釈：この主題を学ぶ意義を捉えよう

① 価値の 大切さ

価値に対する自分と他者の考えを整理し、多様な価値を考えることができる。

①この主題はなぜ大切？

ア自分なりに考えて
・いざという時に頑張ろうとする力になるから。
・壁にぶち当たった時それがないと乗り越えられないから。
・それをもつことが自分の支えになることがあると思うから。
・そういう価値があることを知るため。

イ他の先生方と話して
・自分の人生を切り拓き、よりよく生きていくため。
・自分の弱さに打ち勝つことで、目標を達成したり、自分自身の成長につながったりすることができるから。

②この主題の難しさは？
(いつも誰にでもできますか?)

ア自分なりに考えて
・困難にぶち当たった時、誰もが強い意志をもって進んでいくことができるわけではない。弱心が優先してしまうことも多々あると思う。
・常に強い意志を維持し続けることは難しい。
・牛乳のこれぞ大の人生経験の中で、虎口から命を奪われるような経験がないで済む中で、苦悶したり、自決したりするのは人間らしい。
・指導者と生徒の気持ちのレベルの差をどのように埋めるのかが大層必要がある。
・強い意志があれば夢や目標が叶うわけではない。

イ他の先生方と話して
・人には誰でも弱い部分があり、くじけそうになることがある。
・常に強い意志をもち続けることはとても難しいことだと思う。

② 価値を実現することの難しさ

人間の弱さなどを考え、人間理解を図ることができる。

③ 実現する難しさを越えて大切にしたい理由

人間理解をした上でそれでも大切にしたい価値について考えることで、自分の中の価値を深めることができる。

③難しさを越えて大切にしたいのはなぜ？

・乗り越えた先に達成感や喜びが待っていることを伝えたいから。
・価値づけすることで将来そのような場面になった時の支えとして欲しいから。
・自分の弱さに打ち勝ち、自分の人生をよりよくしていったらいいから。
・目標をもって進んでいる時よりも、挫折をした後、這い上がる力の方がさらに強い心が必要になるから。

④学習指導要領にはどのように？

(1)内容項目の概要には
・目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。困難や失敗があっても、それを乗り越え最後までやり遂げようとする強い意志を養うことが大切である。着実にやり遂げるためには、自分自身の弱さに打ち勝ち、一つの目標に向けて、計画的に実行していくことが必要である。

(2)指導の要点には
・目標の達成には何が必要かを考えたり、自らの歩みを自己評価させたりすることが大切である。そして、達成できたときの達成感や満足感を繰り返し味わわせるとともに、希望をもつが故に直面する困難や失敗を乗り越えることが必要であると感じさせることが重要である。一方で、努力が全て思い通りの結果に結びつくわけではない。従って、教師は生徒の努力を評価し、挑戦することから逃げないで努力し続ける姿勢が大切であることを伝えていく必要がある。

⑤ 教材で何を考えさせるのか？

同じ主題でも多様な価値があることを理解した上で、教材を読むことにより、教材の中にある主題を焦点化することができる。

⑤教材から本時の主題を焦点化すると

・目標の実現には様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を経験することもある。そのためにも目標の実現に向けて努力をすることは必要である。しかし、努力が全て思い通りの結果に結びつくわけではない。従って、困難や失敗を乗り越えるためのくじけない心や強い意志をもたせることが重要である。

④ 学習指導要領の 確認

一度価値について考えているので、学習指導要領に書かれている価値が理解しやすくなる。

【2】教材解釈：教材のどこを用いて学ぶのか捉えよう

⑥⑤を考えると、教材のどの部分が大切？それはなぜ？

ア自分なりに
・第一志望欄に「ブラジルでプロサッカー選手になる」と書いているところ。(夢の実現のために自ら道を切り開くための強い信念をもっていたから。)
・カズが「挫折をしてからが人生の始まり」と言っている部分。(目標をもって進んでいる時よりも、挫折した後のカズの方がカズの生き方を感じられるところだから。)

イ他の先生方と話して
・「こういうことは今までに何度も経験してきた。これからは続けるだけ」と述べ、挫折しても乗り越えようとしている部分。(挫折をしても、強い意志をもって自分の道を切り開いているから。)

⑥ 教材のどこで考えさせるのか？

焦点化した価値を深めるには、教材のどの部分が大切なのかを協議することで、ねらいがぶれない。また、協議する中で、中心発問、補助発問を考えることができる。

【実施するときのポイント】

- 多様な意見に触れ多角的な視点を取り入れるために、複数人で協議をしましょう。

【主題解釈をすることのメリット】

- 主題解釈後に教材解釈をすることで、教師自身の道徳的価値の理解が深まるとともに、本時で扱う価値が明確になることでねらいがぶれにくくなります。
- 複数人で協議をすることで、全教職員で道徳教育を推進しようという風土ができるとともに、研究の方向性を共有することができます。さらに、焦点化された主題を深めるために、どんな中心発問や補助発問が有効であるか等について発問構成を工夫することができます。

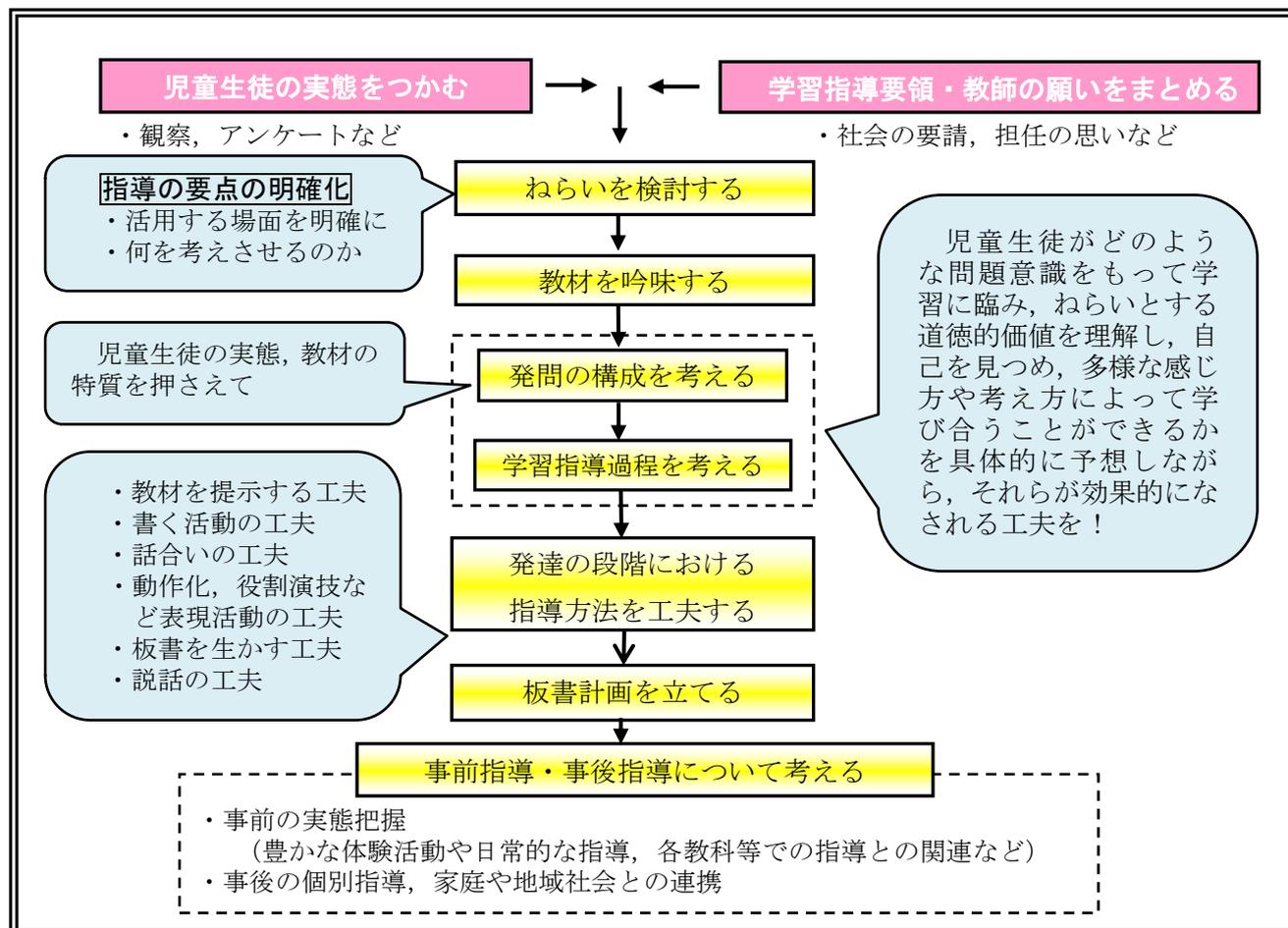


③ 学習指導案の作成

道徳科の学習指導案は、主題のねらいを達成するために、児童生徒がどのように学んでいくのかを十分に考慮し、何を、どのような順序、方法で指導し、評価し、更に指導に生かすのかなど、学習指導の構想を一定の形式に表現したものです。学習指導案の形式に特に決まった基準はありませんが、一般的には次のような事項が取り上げられます。

- 1 主題名
- 2 ねらいと教材
- 3 主題設定の理由（主題観・価値観，児童生徒観，教材観・指導観など）
- 4 学習指導過程（導入，展開，終末など）
- 5 その他
（例えば，他の教育活動などとの関連，評価の観点，教材分析，板書計画，校長や教頭などの参加，など）

学習指導案作成の手順や留意点としては、次のようなことが考えられます。教科等との関連、児童生徒の実態や指導内容、さらに指導者の構想や意図により、様々に工夫しましょう。



ここがポイント！

- 学習指導案は、学校の共通財産ともいえるべきものであり、だれが見ても分かるように形式や記述を工夫し、学校として蓄積していくことが大切です。
- 学習指導過程は、一般的には導入，展開，終末の段階を設定しますが、固定化，形式化することなく、弾力的に扱うなどの工夫も必要です。

＜「主体的な学び」を目指した学習指導過程例＞

導入	<p>主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階</p>	<p>導入の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもって主体的に考え、学ぶことができるようにする。 ・主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、問題意識をもたせるように工夫する。
展開	<p>ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階</p>	<p>展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○他者の考えと比べ自分の考えを深める展開となるようにする。 ○教材や生活体験などを生かしながら、一定の道徳的価値に関わる物事を多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ・発問を工夫する。(例：児童生徒の考えの根拠を問う発問や問題場面を自分に当てはめて考えてみることを促す発問など) ・一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができる表現活動や話し合い活動を仕組む。
終末	<p>ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階</p>	<p>終末の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主題を自分との関わりで捉え自己を見つめ直し、発展させていくことへの希望がもてるようにする。 ・学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫する。 ・必要に応じて、授業開始時と終了時における考えがどのように変容したのかが分かるような活動を工夫する。

道徳科における「主体的な学び」とは、教材に込められた道徳的価値を観念的・一面的に理解させるのではなく、児童生徒がねらいとする道徳的価値について課題意識をもち、自分の生活を見つめながら他者と議論することで、道徳的価値の理解を深め、自己の生き方について考えを深める学習です。さらに、理解した道徳的価値から自分の生活を振り返り自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付け、その結果を日常生活の行動や習慣に結びつけたりしていくことです。

「ねらい」「内容」「方法」の一体化が重要です。
次のポイントを踏まえた指導を行いましょう。



ここがポイント！

- まず、ねらいとする道徳的価値についての児童生徒のこれまでの学習状況や実態をしっかり把握し、それを基に、学習指導要領を踏まえ、この時間にどういった学習活動を通して、何をねらうのかを明確化・具体化します。
- 次に、教材に対する児童生徒の感じ方や考え方を分析し、児童生徒がどのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、それらが効果的になされるための発問や授業全体の展開など、学習指導過程を考えます。
- その際には、児童生徒が道徳的な問題を自分事として捉え、議論し、探究する過程を重視し、道徳的価値に関わる自分の考え方、感じ方をより深めるようにするために、児童生徒の実態やねらいに応じた適切な指導方法を工夫する必要があります。

<道徳科の学習指導案（例）>

道徳科学習指導案

指導者

- 1 日時 令和 年 月 日（ ） 第 校時
2 学級 第○学年 ○組 男子○名 女子○名 計○○名
3 主題名 「勤労の喜び」（C（13）勤労）

主題名は、そのまま児童生徒に提示する必要はないものであるから、主題のねらいが捉えやすいように表現を工夫するとともに、できるだけ簡潔な表現にする。

- 4 ねらい 「～（主人公の気持ちを考える、行動を考えること）を通して、○○に気付き、○○する道徳的判断力（道徳的心情、道徳の実践意欲と態度）を育てる。」

教材の特質を生かし、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育成する視点や主題を児童生徒の実態に結び付けて考え、具体的に記述する。

- 5 教材名 「○○○」（出典）＊出典を明らかに

- ・自作の場合は（自作資料）、改作した場合は（一部改作）と明記する。
- ・私たちの道徳や補助教材の活用があれば付記する。

6 主題設定の理由

- 主題観・価値観（ねらいや指導内容についての教員の捉え方）

- ・本時に取り上げる内容項目について、学習指導要領解説特別の教科道徳編に即しながら、自分なりの捉え
- ・ねらいを設定した理由やその時期に設定した理由、ねらいに込める指導者の願い
- ・社会から要請されている今日的課題 などを記述する。

- 児童生徒観（児童生徒の学習状況や実態と教員の願い）

- ・ねらいに関連する児童生徒の実態（よい点、課題となる点）
- ・ねらいに関わる実態調査の結果、ねらいの必要性
- ・児童生徒に何をどのように期待するのか などを記述する。

- 教材観・指導観（使用する教材の特質や取り上げた意図）

- ・教材の特質や取り上げた意図
- ・児童生徒の実態と関わらせた教材を生かす具体的な活用方法
- ・主題観・価値観、児童生徒観を踏まえ、どの様に授業を展開していくか、指導の方策
- ・指導体制、学習形態、学習活動の工夫 などを記述する。

7 他の教育活動などとの関わり

本時の学習を生かすための事前や事後の指導の工夫などを記述する。

- ・各教科等との関連
- ・体験活動や日常的な指導との関連
- ・家庭や地域との連携 など

8 学習指導過程

（P53を参照）

9 板書計画

（P54を参照）

ねらいにかかわって、指導の意図や教材の内容、児童生徒の感じ方や考え方の違いなどを視覚的に整理して生かすための工夫を検討する。

8 学習指導過程

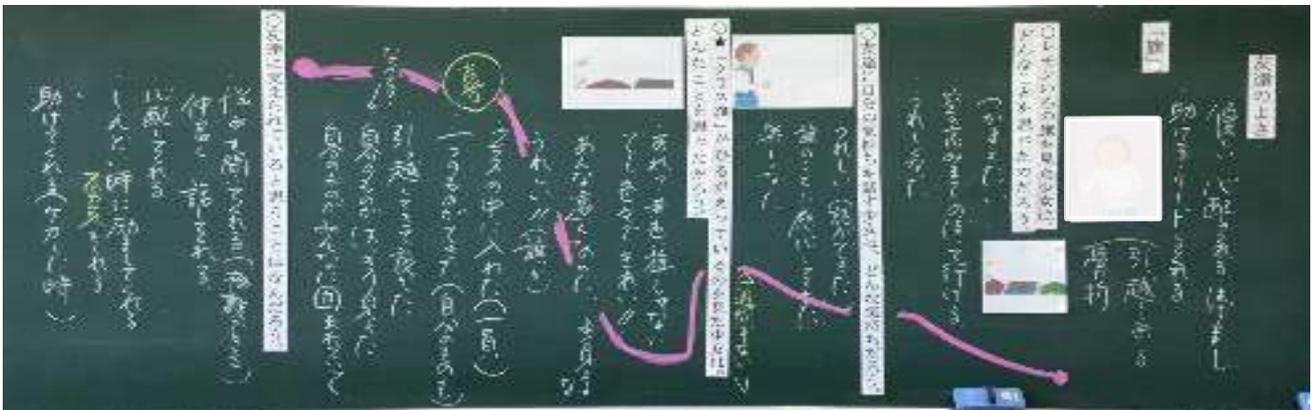
段階	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導入	1 課題意識を持つ。 (ねらいとする価値に気付く。)	○ これまでに～したことはありませんか。 ・ ……………。 ・ ……………。 ○ 今日は、～について考えていきましょう。 * 見通しを持って主体的に考え、学ぶことができるように工夫する。	○ ～を提示し、本時の主題への関心・意欲を高め、課題意識をもたせる。 ・ アンケート結果の提示 ・ 絵や写真、実物の提示 等
展開前段	2 教材「□□」を読んで、話し合う。 (1)～の時の、△△の気持ちを考える。 (2)～の時の、▲▲の気持ちを考える。 (3)△△が、～した時の理由を考える。 (4)△△のしたことについて考える。 (教材や生活体験などを生かしながら、ねらいとする価値を多面的・多角的に捉え、追求・把握する。)	○ △△(主人公)は、どんな気持ちで～したのでしょうか。 ・ ……………。 ・ ……………。 ○ ▲▲(他の登場人物)は、△△のことを、どう思ったでしょう。 ・ ……………。 ・ ……………。 ◎ △△は、どんな考えで～したのでしょうか。 ・ ……………。 ・ ……………。 中心発問が分かるようにする。 ○ △△のしたことをどう思いますか。どうすべきだったのでしょうか。 ・ ……………。 ・ ……………。 予想される児童生徒の発言を類型化して記述する。 * 児童生徒の実態と教材の特質を押さえた発問構成を工夫する。 * 他者の考えと比べ自分の考えを深めるような展開となるようにする。 * 一人一人が意欲的で主体的に取り組むことができるよう表現活動や話し合い活動を仕組む。	○ 場面絵やキーワードを提示することで、教材の内容を把握しやすくする。 ・ スライド、紙人形等の活用 ・ 繰り返し提示、部分提示 ・ 場面絵の提示 等 ○ ワークシートを活用することで、自分の考えをまとめさせる。 ○ グループ活動を取り入れ、多様な考え方に触れることで、自分の考えを検討し、本時のねらいへ迫らせる。 ・ 書く活動 ・ 役割演技、動作化 ・ ネームプレートの活用 ・ グループでの話し合い 等 左の各段階の学習活動に対応して、ねらいに迫るための具体的な手立てを記述する。 ※ ～するために…する。 ※ …することにより、～させる。 ※ ○○な児童生徒には、…する。 ※ ○○については、…を伝えて揺さぶる。
展開後段	3 今までの自分を振り返る。 (自分の生活を振り返り、現在の自分の価値観に気付く。)	○ 今まで～したことはありませんか。どんな気持ちでしたか。 ・ ……………。 ・ ……………。 * 体験を通して感じたことや考えたこと、また日常の具体的な事柄を話題にするなど、教材に描かれた道徳的価値を自分の問題として受け止めて、深く自己を見つめることが可能になるよう発問を工夫する。	○ 写真を提示し、▲▲体験活動をした時の気持ちを想起することで、自分の生活を振り返らせる。 ・ 共通体験の想起 ・ 写真やVTRの提示 ・ 私たちの道徳 ・ 書く活動 等
終末	4 本時のまとめをする。 どんなことを感じて欲しいか、児童生徒の言葉として記述する。 5 私たちの道徳p○を聞く。 (学習の整理・まとめをする。)	○ 今日の学習や自分自身を振り返って、考えたことを書きましょう。 児童生徒のまとめ例 私は、……………。 ○ 今日の勉強で思ったことを浮かべながら、私たちの道徳○ページを聞きましょう。 指導のねらいとの関わりにおいて児童生徒の心の動きの変化などを様々な方法で捉え、指導方法の改善に生かす。	○ 自分のこれまでの生活と重ねて考えさせることで、考えの深まりを自覚させ、自分の生き方につなげさせる。 ☆ ～することの大切さに気付くことができる。(発言、ワークシート) ○ 私たちの道徳を読むことで、本時のねらいとする道徳的価値への実践意欲を高める。 ・ 教員の説話 ・GTの活用 ・ ことわざ、格言 ・ 写真やVTRの提示 等

<板書例>

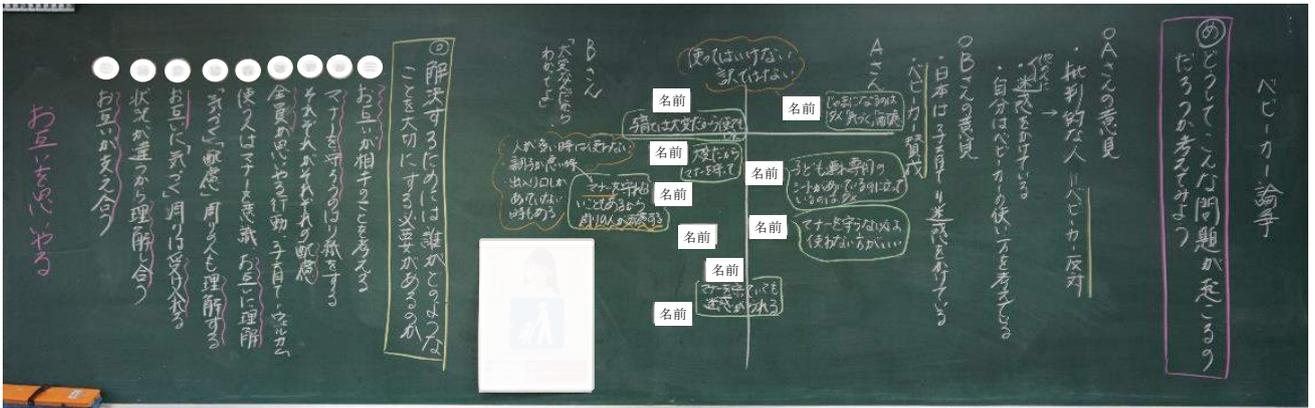
- 場面絵や短冊を活用し、考える視点を明確にする



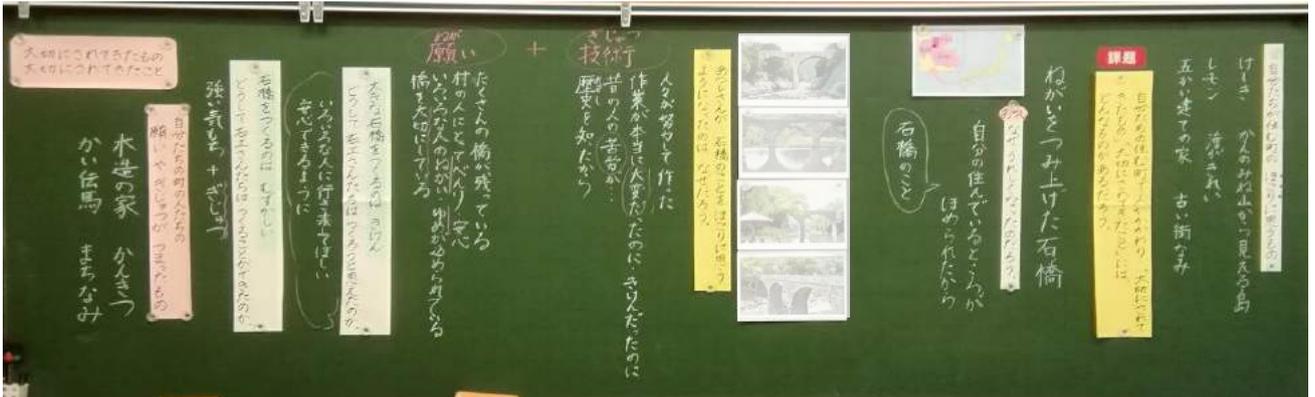
- 心情曲線やキーワードを活用し、考えたことを整理する



- ネームプレート等を活用し、個々の考えを可視化することで話しを深める



- 学習課題を掲示し、主体的な学習を促す



④ 学習指導案の検討

学習指導案の検討を通して、授業者本人が授業に対する意図を明確にするとともに、参観者の授業を参観する視点を明確にすることができます。

<学習指導案の検討内容>

- 学習指導要領を正しく理解し、ねらいを設定しているか。
- 学校教育目標、研究主題を踏まえているか。
- 教材分析は適切か。
- 指導方法は効果的か、工夫改善は見られるか。
- 本時のねらい、学習展開、時間配分等は適切か。
- 評価の観点、評価方法等が作成されており、なおかつ適切か。
- ねらいが十分に達成できていない児童生徒に対する手立てが明確になっているか。 等

ここがポイント！

- 授業者は、検討してほしい課題や助言を求める点を明確にしておきましょう。
- 授業者は、検討する学習指導案を事前に配付し、特に検討を要する点については、項目をあげて分かりやすくしておきましょう。
- 研究主任は、場合によっては、会議室等に集まらなくても、参加者の意見が集約できるような方法を考えましょう。(例：回覧、メール、電子アンケートなど)
- 参加者は、事前に資料とねらいから中心発問を考えるなど課題をもつてのぞみましょう。

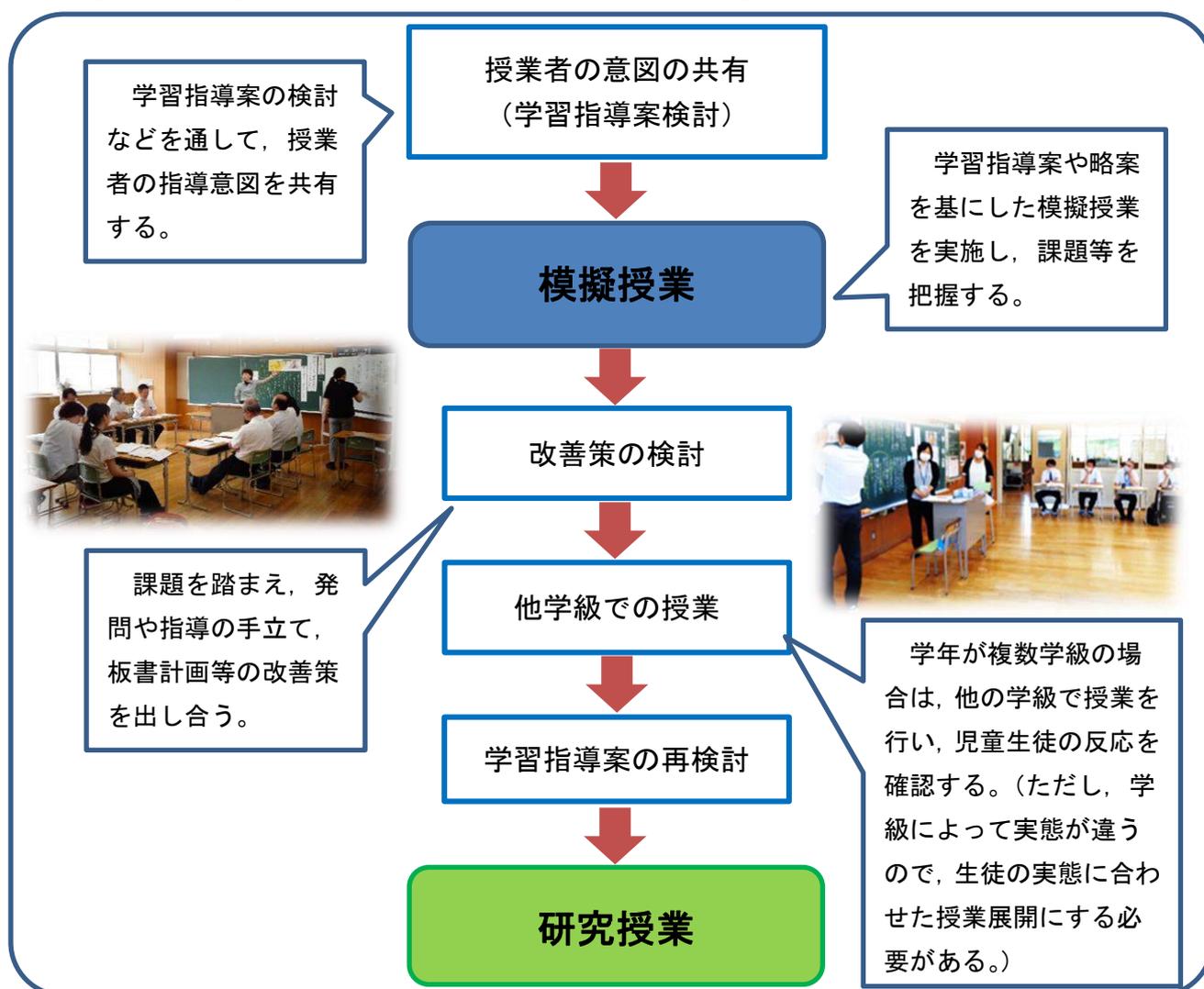
⑤ 模擬授業

学習指導案の改善点を探る方法の一つとして、模擬授業があります。模擬授業を行うことで、事前に学習指導案の問題点を具体的に把握し、課題を修正することによってより質の高い授業につなげることができます。また、模擬授業により、事後の研究協議会の柱を明らかにすることができ、協議内容の深まりにもつなげることができます。

<模擬授業の方法例>

- 授業者が、検討会参加者を児童生徒と見立てて授業を行う。
- 検討会参加者の一人が授業者となり、他の参加者を児童生徒と見立てて授業を行う。

【模擬授業を取り入れた研究授業までの流れ（例）】



1時間の全てを模擬授業するのではなく、展開部分の発問構成や指導の手立てなど、部分的な実施も考えられます。

模擬授業の実施により、「授業者だけの授業」という意識から「みんなの授業」という意識をもつことができます。

模擬授業の際、教授や指導主事を招聘し、学校全体で教材研究をすることで、研究授業と協議の質を高めることができます。



ここがポイント！

- 児童生徒役の教員は、想定される反応を考えながら、児童生徒になりきって行いましょう。
- 第三者の立場で、客観的に参加する役も必要です。
- 模擬授業後に協議をする際は、指導者が悩んでいる点を伝えると同時に、価値の深まりはどうか、主題に迫る深い学びになっているかに留意して協議を行い、改善策を考えましょう。



(2) 授業研究をしよう！

授業を参観することで、児童生徒の様子や学級全体の雰囲気と共有した上で研究を深めることができます。授業研究を通して、教員の指導力の向上を図るとともに、授業改善に結び付けていくことが大切です。

<授業者の留意点>

- 計画した授業内容を念頭に置きながら、児童生徒の反応に対して柔軟に授業を展開しましょう。
- 個に応じた指導となるよう、児童生徒の意見や質問、つぶやきを大切に、授業展開に生かしましょう。
- 授業を振り返り、成果と課題を明確にしておきましょう。

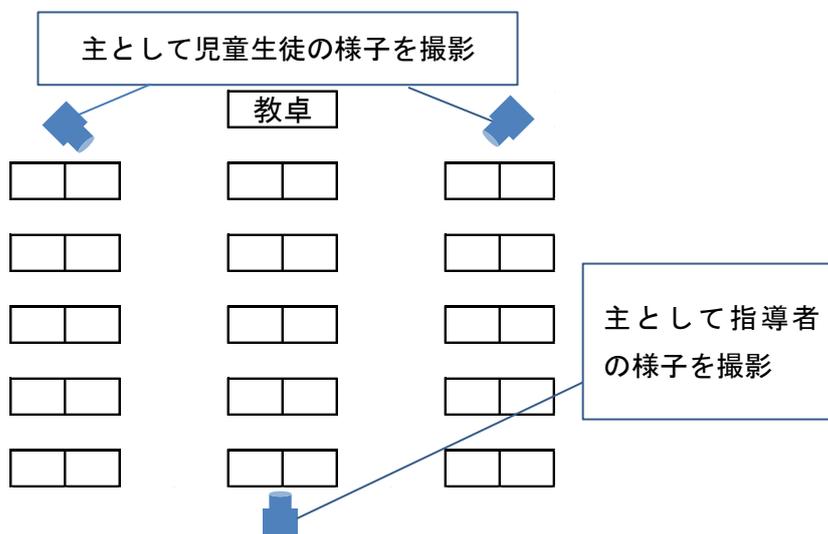
<参観者の留意点>

- 事前に示された研究協議の視点を踏まえて授業を観察しましょう。
- 役割を分担して必要な記録を取りましょう。

例：授業記録、ビデオ、板書、教員の発問・声掛け、児童生徒の反応等

① ビデオ記録の活用

教室の後方に固定カメラを1台設置して、授業全体の様子を撮影するだけでなく、前方からの固定カメラや移動カメラで撮影することで、児童生徒の様子や表情をとらえることができます。



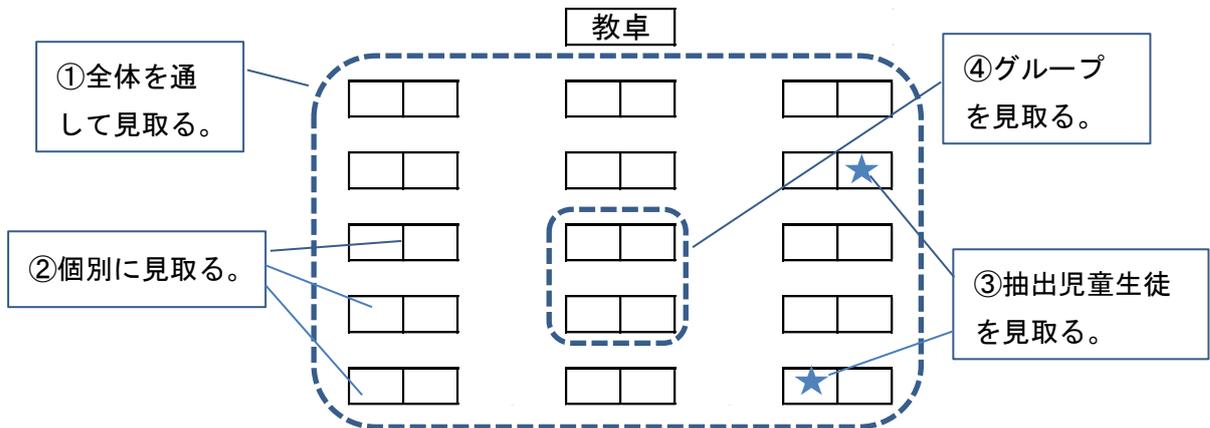
<ビデオ記録活用の利点>

- 授業のねらい等を具体的に説明したい場面で、ビデオを停止させて説明ができるので、授業者の意図が伝わりやすいです。
- 何度でも再生できるので、授業分析を深めることができます。
- 限定した場面を全員で見ることにより、協議が焦点化できます。
- 授業中には気付かなかったことや見過ごしたことなど、多角的に検討できます。
- 協議会を受けて、授業者が再度視聴することにより、振り返りを深めることができます。

② 授業記録用紙の活用

授業記録用紙は、あらかじめ用意された項目にしたがって、指導者と児童生徒の関わりや児童生徒の学びの様子を時系列に記録し、変化を見取ることができます。全体の印象と個々の事実との関係についてしっかり協議していくことが、検証の場面で大切になります。

<参観者による児童生徒の見取の例>

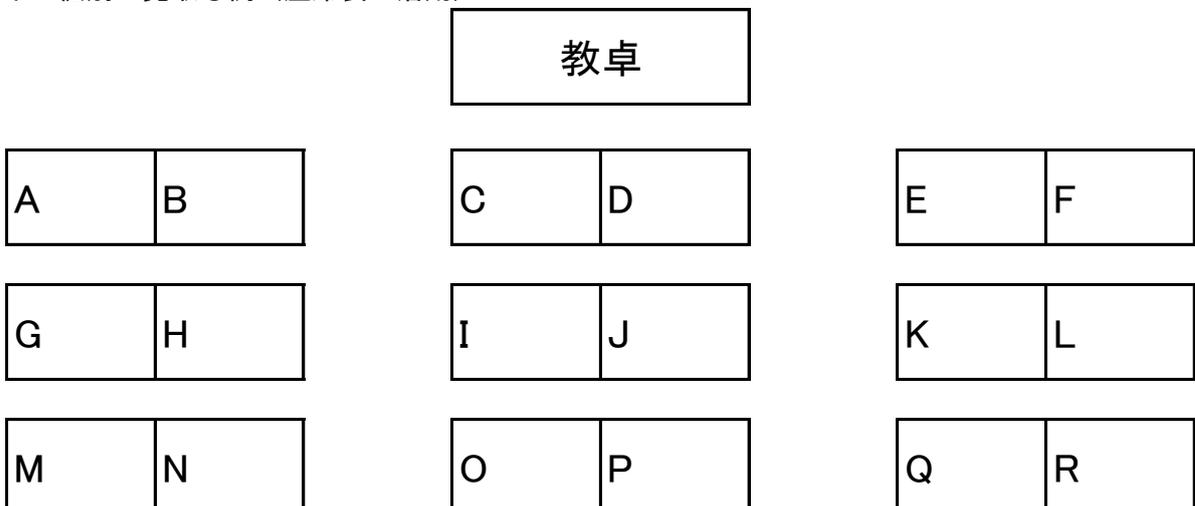


<記録用紙の活用例>

ア 全体を通して見取る例

時刻	指導者の発問・指示・板書・支援等の様子	児童生徒の発言・活動等の様子	その他

イ 個別に見取る例（座席表の活用）



ウ 抽出した児童生徒を見取る例

- 全体を見ながら抽出した児童生徒を見取る

時刻	指導者・児童生徒の発言	観察対象の児童生徒	
		A	B

- 抽出した児童生徒を集中的に見取る

時刻	観察場面	指導者の関わり	抽出児童生徒の姿	観察者の所見

エ グループを見取る例

担当（1）班

A児	B児	班員との関わり
C児	D児	

研究テーマに合った記録用紙を工夫してみましょう。



(3) 事後研究をしよう！

① 研究協議会

研究協議会においては、授業の結果をもとに協議し、授業の成果や課題を明確にする過程を通して、参加者全員の授業の質を高めていくことが大切です。

<研究協議会を充実させるためのポイント>

その1 「研究協議の視点」の明確化

研究協議の視点が全員に明確になるようにしましょう。また、授業参観では、その視点に基づいて協議できるようにするために、研究協議の視点を踏まえ、参観しておきましょう。

その2 授業者からの振り返り

授業者からの授業の振り返りや課題の提示は、具体的かつ明確にしましょう。授業者は、研究協議の視点に即して課題等を具体的に述べましょう。

その3 客観的な情報の必要性

ビデオによる記録、発問記録、板書記録等、授業についての客観的な記録をもとに協議しましょう。また、研修部等は、研究協議の視点にかかわる研修資料を準備しましょう。

その4 研究協議会への主体的、積極的な参加の必要性

研究協議会の参加者は事実に基づいた具体的な発言を行いましょう。抽象的な発言に終始しては、効果が高められません。また、参加者は協議を深めることにおいて同じ立場に立っていることを自覚し、積極的に発言するとともに、課題と思われる点について授業者や他の参加者に遠慮することなく発言しましょう。

その5 司会者の役割の重要性

研究協議を深めるためには、司会者の役割が重要です。司会者は、問題を整理し、協議の視点に沿って進行するよう工夫しましょう。指導・助言者を招聘した場合には、指導・助言の時間を適切に取ることができるよう時間配分に留意しましょう。

その6 「改善計画」の明確化

研究協議会のまとめでは、次の授業提案に向けての課題、改善すべき点等、次へのステップは何かを明確にし、確認しましょう。

その7 中学校や高等学校の研究協議会の活性化

担当教科が違うからこそ、授業を参観する視点も多様化し、協議が深まるというメリットがあります。また、道徳科では、指導方法の工夫改善等、教科が違っていても共通の協議の視点も設定できるという良さを生かしましょう。

＜研究協議会（90分程度）の進行例＞

時間	内容	詳細	ポイント
3分	進め方の説明	研究協議の目的, 流れ, 時間設定等の説明をする。	事前に研究協議の視点や進行表を配布し, 共通理解を図っておく。
5分	授業意図等の説明および質疑	授業者が次のような視点で説明する。 ・配慮したこと ・授業の成果と課題 ・意見や助言をもらいたいこと 参加者からの質問を受ける。	授業者は, 授業後に, 説明することをまとめておく。 参加者は, 意見は出さず, 質問のみ行う。
30～40分	グループ協議	グループで授業を分析し, 成果と課題, 改善策を明確にする。	付箋紙等を活用し, ワークシートにまとめる。 課題についての改善策を考える。
10～15分	全体発表	各グループの代表者が成果や課題, 改善策を簡潔に発表する。	他のグループと重複する内容は割愛する。
10分	改善策等の共有化	グループ発表で出された意見を整理し, 課題を改善するために取組むことを共有化する。	研究主任や進行役が, 成果と課題をまとめ今後の方向性を共有化する。 いつまでに何を行うか明確にする。
15～20分	指導助言	外部講師や管理職から指導助言を受ける。	外部講師がいない場合は, 管理職等がまとめを行う。
10分	振り返り	各自のこれまでの実践を振り返り, 自分の授業改善を考える。	明日からの授業実践につなげるために, 一文発表や一文宣言を行う。
協議後	授業者へのメッセージ	授業者へメッセージを送る。	授業者が研究授業をやって良かったと思えるように, 授業からの学び等, 肯定的なメッセージや意見を送る。

＜効果的な研究協議会例＞

グループ協議	ワークシートへのまとめ	全体発表	振り返り
			
付箋を貼付けながら成果や課題をグループで整理する。	成果と課題を明確にしたワークシートを作成する。	全体で意見交流を行い, 改善策を共有化する。	協議を受けて, 授業者が「明日からの取組」を発表する。

② ワークショップ型の研究協議

参加者全員が主体的に参加し、成果や課題を明確にして、改善策の共通理解を図りながら協議を深めていくために、ワークショップを取り入れた研究協議を実施していくことが効果的です。協議の目的に応じて、ワークシートを工夫し、協議の効率化を図りましょう。

ア 指導案拡大法（学習指導案に沿って分析できるワークシート）

	学習活動	主な発問と児童生徒の心の動き	指導上の留意点
導入	1 ○○○ 		○ ……
展開	2 ○○○ 3 ○○○ 		○ …… ◇ ……
終末	4 ○○○ 		○ ……

【特徴】

- 拡大学習指導案の学習指導過程に、直接付箋紙を貼付ける。
- 学習指導案と実際の授業を対比しながら進めることができる。

【留意点】

- 意見が出やすい反面、焦点化するのに時間がかかる、視点を明確にして記入すると効率的である。

イ 時系列法（指導と児童生徒の様子を時系列で分析できるワークシート）

	導入	展開	終末
成果			
課題			
改善策			

【特徴】

- 指導の過程に即しているので、初めてでも付箋紙を貼付けやすい。
- 成果と課題に分けて貼付けるので、成果や課題が明確になる。
- 改善すべき点、次へのステップが何かを明確にすることができる。

【留意点】

- 体験活動など、他の教育活動との関連まで視点が広がりにくいことに留意する必要がある。

ウ マトリクス法（協議の視点に沿って分析できるワークシート）

	視点1	視点2	視点3
成果			
課題			
改善策			

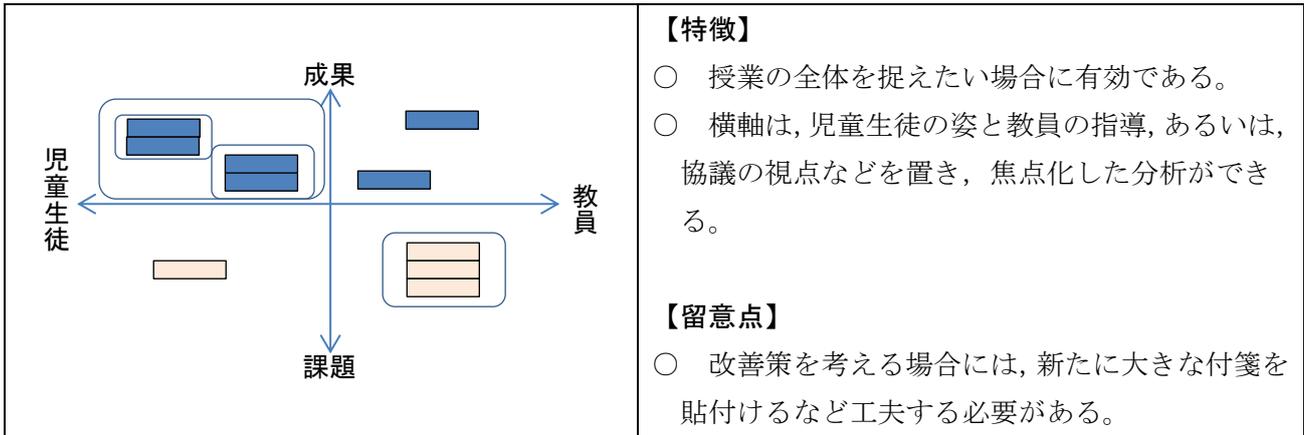
【特徴】

- 事前に協議の視点を定めておき、その視点について成果と課題、改善策が協議できる。
- 全員で改善策まで考えるので共有化が図られ、今後の実践につながりやすい。

【留意点】

- 同じ内容に対して評価が分かれる場合、付箋紙の置き方を工夫すると効率的である。

エ 座標軸法（児童生徒と教員の視点から分析できるワークシート）



これらのシートを活用することで、授業を視覚的に構造化して分析することができます。

また、授業の欠点を指摘するのではなく、授業者の立場に立って授業を改善するにはどうすることが望ましいか、お互いに意見を出し合ひましょう。



ここがポイント！

- 研究協議では、発表しやすい雰囲気づくりをしましょう。
- ワークシートを効果的に活用しましょう。
- 今後の方向性を明確にし、全員が共通認識をもって取り組めるようにしましょう。
- 研究協議のまとめを発行しましょう。

③ 授業評価

授業評価表を作成し、利用することにより、授業全体をバランスよく評価でき、問題点を明らかにすることができます。

ここがポイント！

- 評価項目に、授業者が希望する視点なども入れてみましょう。
- 授業者も自己評価を行い、参観者の評価と比べることで、より具体的な授業改善に生かしましょう。
- 研究内容などを踏まえ、評価項目を設定し、研究協議の焦点を絞り、協議を活性化しましょう。

<授業評価表例>

研究授業参観の視点

小・中（ ）年 道徳の時間 月 日 記入者（ ）

1. あてはまる数字に○をしてください。 とても まあまあ あまり まったく

資料について				
①児童生徒の心に響く資料だった。	4	3	2	1
発問について				
②中心発問はねらいに迫るものだった。	4	3	2	1
③中心発問で活発な議論を呼ぶことができた。	4	3	2	1
④補助発問は児童生徒の心を揺さぶることができていた。	4	3	2	1
授業展開について				
⑤本時の内容に適した導入だった。	4	3	2	1
⑥思考の流れやつながりが分かる構造的な板書だった。	4	3	2	1
⑦机間指導が目的を持って機能していた。	4	3	2	1
⑧児童生徒の発表は効果的なタイミングで行われていた。	4	3	2	1
⑨終末は、価値を心にとどめるために適切なものであった。	4	3	2	1
⑩T Tの授業は効果的なものだった。	4	3	2	1

⑪本時のねらいを達成することができた。

自分とのかかわり

⑫自分を見つめさせる手だてがあった。

友達とのかかわり

⑬自分の思いを伝えることができていた。

⑭相手の思いを聞いて、考えを深めることができていた。

2. 授業について、意見、感想、励まし、改善策（ア）



研究主題をもとに、授業評価の観点の視点を含め、評価表を作成しましょう。



授業参観シート

小・中（ ）年 道徳の時間 9月 17日 記入者（ ）

- ◆教材名：人のフリミで
- ◆主題名：言葉のもつ不思議な力

Before

- ・感謝の気持ちをもつことは大切だと思っはいるが、伝えられない。
- ・自分の家族や友達、学校の先生には「ありがとう」と言っている。（対象が限られている）

授業中の評価計画

児童生徒を評価する視点	期待する児童生徒の発言や記述の内容	評価 ◎, ○, △	コメント
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな。」と考えている。 (発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。		
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちがよくなる力。 ・周りで聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。 ・日々の生活に感謝する心を育てる力。		
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家でしか「ありがとう」を言えてなかったけど、これからはその場の場でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。 (ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちが学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。		

After

- ・「ありがとう」という言葉には人を気持ちよくさせる力があると分かったので、毎日使っていこうと思う。
- ・自分とは直接関わっていないようにみえても、生活をよくするために支えてくれる人はたくさんいる。それを当たり前と思わず、感謝する気持ちを持ち、感謝の言葉を伝えていきたい。

成果や課題だけではなく、改善策も考えましょう。また、感想や励ましの言葉なども添えるようにしましょう。



児童生徒の道徳性を見取りについて、共通理解を進めるための工夫の例

■授業の中での見取り

(1) 授業中の評価計画の作成

4 期待する児童生徒の変容

Before

- 感謝の気持ちをもつことは大切だと思っているが、伝えられない。
- 自分の家族や友達、学校の先生には「ありがとう」と言っている。(感謝の対象がせまい)

授業中の評価計画

評価の視点	期待する児童生徒の発言や記述の内容
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな」と考えている。(発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちよくなる力。 ・周りに聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家で「ありがとう」を言えてなかったけど、これからは他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。(ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。

After

- 「ありがとう」と言う言葉には人を気持ちよくさせる力があるとかかったので、毎日使っていこうと思う。
- 自分とは直接関わっていないようにみえても、生活をよくするために支えてくれている人はたくさんいる。それを当たり前と思わず、感謝する気持ちをもた、感謝の言葉を伝えていきたい。(感謝の対象の広がり)

(2) 授業参観シートの作成と活用

授業参観シート

小・中 (1) 年 道徳の時間 9月 17日 記入者()

- ◆教材名: 人のフリみて
- ◆主題名: 言葉のもつ不思議な力

Before

- 感謝の気持ちをもつことは大切だと思っているが、伝えられない。
- 自分の家族や友達、学校の先生には「ありがとう」と言っている。(感謝の対象がせまい)

授業中の評価計画

児童生徒を評価する視点	期待する児童生徒の発言や記述の内容	評価 ◎、○、△	コメント
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな」と考えている。(発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。		
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちよくなる力。 ・周りに聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。		
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家で「ありがとう」を言えてなかったけど、これからは他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。(ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。		

After

- 「ありがとう」という言葉には人を気持ちよくさせる力があるとかかったので、毎日使っていこうと思う。
- 自分とは直接関わっていないようにみえても、生活をよくするために支えてくれている人はたくさんいる。それを当たり前と思わず、感謝する気持ちをもた、感謝の言葉を伝えていきたい。(感謝の対象の広がり)

期待する児童生徒の発言や記述内容の想定

授業参観者による記録

先生方の記録をもとに自身の授業を振り返ってみよう



評価の視点	期待する児童生徒の発言や記述の内容	評価 ◎、○、△	コメント
① 自分自身との関わり (ア) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて、「自分だったらどう感じるかな」と考えている。(発表での発言)	展開前段 ・気持ちいい。 ・爽やかな気持ち。 ・感じがいい。	◎	「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)
② 多面的・多角的な見方 (オ) 「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)	展開後段 ・自分も相手も気持ちよくなる力。 ・周りに聞いている人も温かい気持ちにさせる力。 ・安心する力。 ・人と人とのつながりを作る力。	◎	「ありがとう」の言葉が持つ不思議な力について、様々な視点からよりよい考えを見つけようとしている。(多面的) (考えを交流している場面での発言)
③ 自分自身との関わり (イ) 学校や家で「ありがとう」を言えてなかったけど、これからは他の場所でも「ありがとう」を言える場面を探してみよう、と考えている。(ワークシートの記述、発表での発言)	終末 ・お母さん、毎日ご飯を作ってくれてありがとう。 ・バスの運転手さん、いつも安全運転で、私たちを学校へ連れてきてくれてありがとう。 ・給食センターの皆さん、毎日おいしい給食をありがとう。	◎	「ありがとう」という言葉には人を気持ちよくさせる力があるとかかったので、毎日使っていこうと思う。

○ 取組の意図

- ・授業参観者に、児童生徒の学習状況で見取る視点を共通理解してもらう。
- ・授業後の研究協議の時間が取れなくても、授業者が、授業参観者からのコメント、評価をもとに、成果と課題を振り返ることで、授業改善を進めることができるようになる。

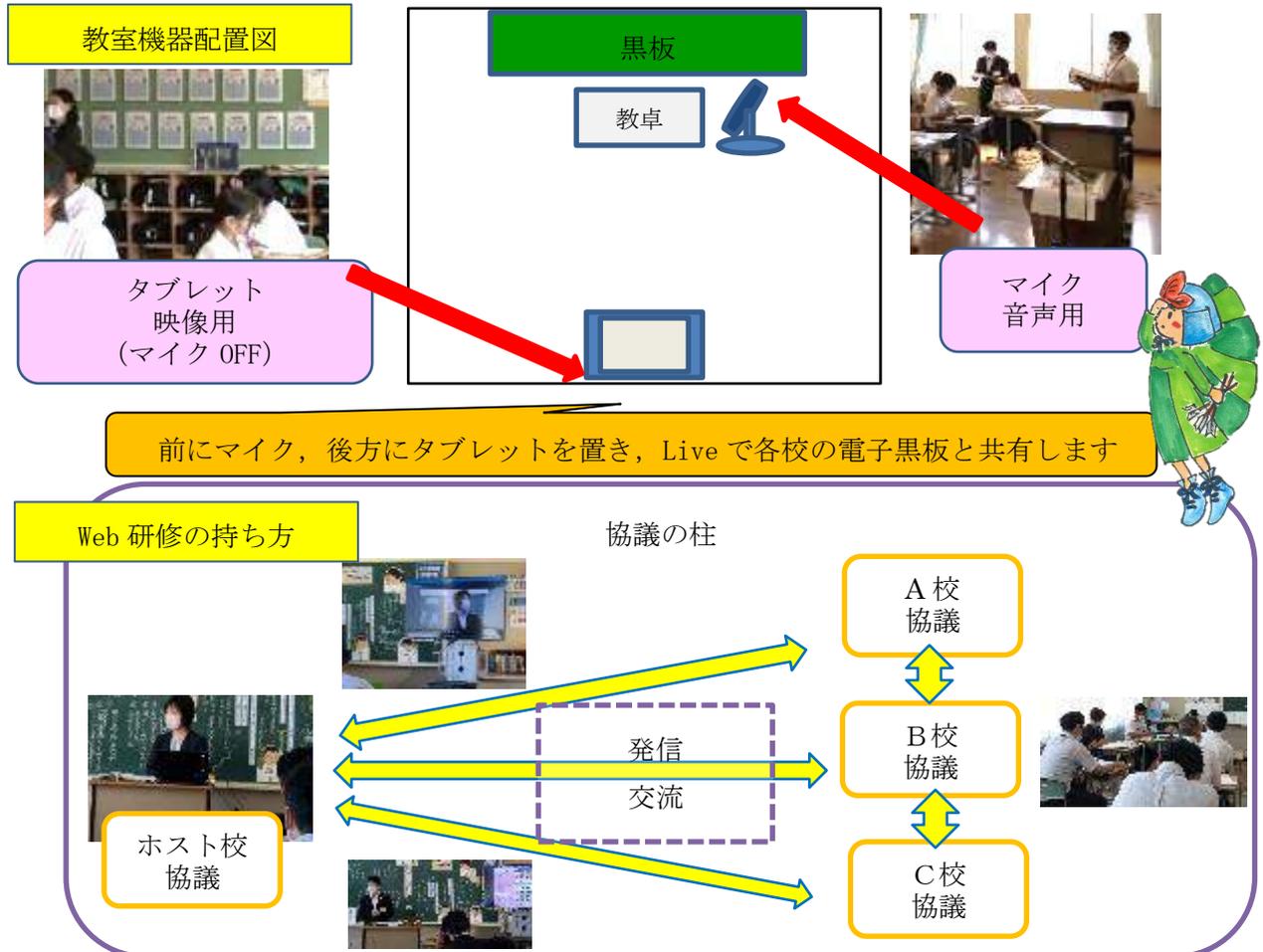
○ 取組のポイント

- ・複数の授業参観者からのコメント、評価をもとに、その共通点や相違点について道徳教育推進教師と意見交換をしましょう。次の授業ですぐに生かせる改善点を見つけ出し、授業改善のPDCAサイクルを回すことが大切です。

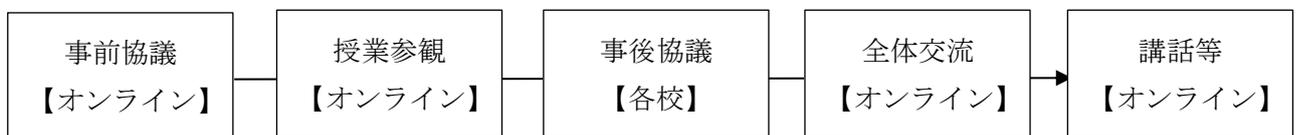
④ オンラインによる授業研究

web 会議システムを活用したオンラインによる中学校区合同の授業研究会の例

ネットワークの環境設備の充実に伴い、Web 会議が容易にできるようになりました。Web 会議は、多数の人が異なる場所から参加できるようになります。研究授業を Web 配信することで、参観した人から指摘を受けたり、学校外部の人の評価を得たりすることができます。



【授業研究会の流れ】



ここがポイント！

- タブレットは必要に応じて動かします。マイクは、できれば集音マイクを使い、左右か中央で音声が聞き取りやすい場所に設置しましょう。(ハウリング防止のために、一か所に設置することをお勧めします。)
- 協議の柱は事前に参加校と共有しておくことで、授業後の協議は、それぞれの学校でスムーズに行うことができます。また、運営者・司会者等を、会場校だけでなく、各校にもおきましょう。

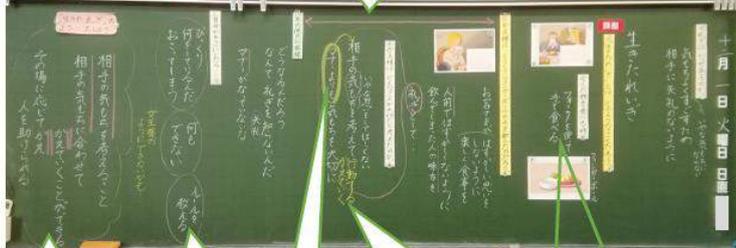
〈事例3〉 教職員間の情報共有資料

特別の教科 道徳 共有していきましょう！

教務研究部
R2.12.7

○児童の発言やつぶやきを受け止め、整理しながら児童にとって思考しやすい板書の工夫をめざしましょう。

(最近の板書：参考までに…)



比較して見せることで
考えやすくさせる。

児童から出た言葉
から、本時のねらいに
せまることができる。

仲間に分けて
示す。

児童から出た言葉
を教材とする。

教材の内容を理解できる
ようにするための板書。

思考の流れ、つな
がりを表す。

R3.2.9

○児童の考えや振り返りの内容(自分事)を深める、視覚化を目指した板書(例)

⇒必要に応じて(いつも必要だとは限りませんが)、登場人物の変化を矢印で表すことも、取り入れてみましょう。



参考資料

令和 年〇月〇日(〇)
道徳教育推進教師 〇〇〇 〇〇〇

道徳参観日について

道徳教育は、学校、家庭、地域社会の三者がそれぞれの役割を果たすことによって、その充実をより図ることができる。社会の価値観が多様化する中で、三者の連携はますます重要性を増している。学校で指導した内容が、家庭や地域社会の中に反映されたり、家庭や地域での生活が学校の生活に生かされたりすることで道徳的実践力を身に付けることができる。

そのために本校では、保護者に、学校の教育活動を通して行われている道徳教育や道徳科への理解を促すために道徳参観日を設定している。

- 1 日時 〇月〇日(〇) 5時間目
- 2 道徳参観日の道徳科の効果的な方法について
 - (1) 間接的な参加の方法
 - 授業の内容をもとに終末に保護者へ手紙を書かせる。
一後日、保護者の対応や感想を学級通信で全体に広める。
 - 授業の中で保護者の手紙や思いを伝える。
一事前に保護者への授業のねらいを伝え、手紙やメモを書いてもらうために事前の取組が必要となる。また、児童に手紙を渡す場合は、全員の児童へ手渡せるように配慮する。
 - (2) 直接的な参加の方法
 - 授業の資料提示を保護者に手伝ってもらおう。(資料の読み聞かせをお願いする・役割を決めて台詞を読んでもらう。等)
 - 授業の終末や内省化で自分の思いを語ってもらおう。
 - ビデオレターや手紙をお願いしておく。(手紙は、指導者が代読してもよい)
 - 授業と一緒に参加してもらい、発問に対して児童と同じように考えてもらい場合によっては、発言を促す。(児童と違う発問を準備し、保護者の立場で考えて発言してもらうことで、児童に保護者がどのように考えているかを伝え、児童の考えを深めることもできる。)
- 3 学級懇談会について
 学校で推進している道徳教育や授業参観日の道徳の時間のねらいや求める価値について分かりやすく伝えることで、学校と家庭が共に補い合い連携しながら、一貫した道徳教育を進めていくことができるようにする。
- 4 事後交流について
 〇月〇日(〇)の研修…事前交流。
〇月〇日(〇)の研修…授業及び懇談会の内容について交流。

研究を進める中で、大切にしたいことや意識統一を図りたいことについては、具体を示して提示することで、伝わりやすくなりますね！



道徳科に関する授業研究の実施、道徳科の授業公開や情報発信などを、道徳教育推進教師が中心となって協力して進めることが大切です！



〈事例4〉 道徳だより、学級だより、学校だより（保護者・地域向け）

家庭、地域社会と連携し、地域の文化を共に創り、子供たちを育てていくという意識の下に、よりよい協力体制を築き上げていきましょう！



道徳科で児童生徒が、どのようなことを学んでいるのかを写真等で紹介することで、保護者の方に具体的に理解してもらいましょう。



研究会では・・・

9日(金)の5・6時間目に道徳の研究会がありました。

6年生は「ブランコ乗りとピエロ」という資料で授業を行いました。このブランコ乗りとピエロでは、サーカスの舞台上で生じた二人のスターの対立に焦点を当て、自分を大切にしながら相手を尊重していくためには、異なる立場や思いをどのように捉えることが大切なのかを考えられるように構成されています。互いをライバル視し、相手を受け入れられないでいるピエロとブランコ乗りのサムの関係は、とても興味深く、サムの言動に腹を立てながら、その頑張りを目の当たりにする場面から、相手を受け入れることの難しさや大切さを考えることのできる資料となっています。子どもたちは真剣に聞いたり、発表したりと大活躍でした。また、授業の最後には、偉人の言葉を紹介しました。ヘレン・ケラーの残した言葉で「寛容さは、心への最大の贈り物だ。」ということを紹介しました。深くは説明をしていないので、子どもたち自身で考えてくれたら良いと思います。

また、その後の協議の中でも6年生が頑張っていて発言していたり、自分の考えをしっかりとノートに書いたりしていたと言っていました。本当に頑張りをみせることができた1時間でした。



小早川隆景に学ぶ～道徳の時間～

みなさんは小早川隆景のことをどれくらい知っていますか。本郷小学校の三つ巴の校章が小早川家の紋章と同じことには気づいていないと思います。歴史ある御所様。豊かな沼田川が目の前を流れ、交通の要所であった本郷。この地を小早川隆景は選び、高山城そして新海山城へと移り住みました。軍師の雄略時代小早川隆景はどう生き抜き、そしてどう歴史を刻み残す者として歴史に名を残したのでしょうか。そしてどう人柄になったのでしょうか。今も語り継がれているエピソードや逸話があります。歴史の学習や総合的な学習でいろいろと学習をしているかもしれませんが、そのひとつをご紹介します。

徳田忠義の勢力が中国地方に及び、その総督官明秀吉が毛利方の清水原治の守る単中高松城を攻めてきました。その戦法も「水攻め」です。城の周りは湖のようになり、毛利軍元、吉川元春、小早川隆景も兵隊をひきつけ、前線に近づけたがどうすることもできませんでした。長いにらみあいの末、城主清水原治は自らの切腹と引き換えに降参を成立させました。

こうして、隆景たち、毛利軍と秀吉たち秀吉軍が見守るなか、宗治は船の上で切腹し、毛利軍と秀吉軍との間で約束された「和睦文書」(わきもんしょ)を交換しました。これで、お互いに約束を交わしたことになります。隆景と毛利軍の者は、みんな涙を流したそうです。それを見届けた秀吉軍は、徳田の首を切り取ったかと思うと、ものごいささなへ返さずかきました。

お堀などを作るものと隆景、元春、隆景は認めましたが、じつは京都で大変な事件が起こっていたのです。秀吉本人である織田信長が、秀吉と同じ本来の明秀光秀に殺されていたのです。

隆景たちが知ったのは、秀吉軍が退却したすぐ後でした。隆景、元春の二人は、「秀吉軍を倒し、後から攻めよう」「清水原治の墓前まで来るぞ。」などと言い、退却しようとした。しかし、隆景は二人の愚見を止めて、「お二人の気持ちは、よく分かります。しかし、秀吉軍を倒し、後から攻めようとは思いません。約束の文書を交わしてはあります。ここで、退却して攻撃をすれば、後々まで毛利軍はひきよう者だと言われます。それより、秀吉軍と和睦が成り立つから、自分たちだってしてもかまわないと思っております。それよりも、毛利軍を倒し、後から攻めよう。中国地方で一番強い毛利軍の旗を掲げて、さきと秀吉軍の旗を立てよう」と隆景、元春の二人も、隆景の意見に賛成しました。

その後、秀吉が天下を統一しましたが、隆景の人々が認めた秀吉は、「東は徳川家康、西は小早川隆景に任せておくれ。天下は太夫天下。」と言い、隆景を大賞を賜ったそうです。

小早川隆景は新高山城からどんな形でも本郷の地を治めていたのでしょうか。町並みは残っていますが、みなさんも昔の遺跡で江戸場所から本郷の町をながめたいですね。ぜひ本郷小学校の校章を見てみましょう。この校章には今までの本郷に生きた方々の歴史が込められているのではないのでしょうか。あなたたちはこの本郷の地に何を思いますか。

みなさんは、上記の資料を読み、何を感銘しましたか？

6年生の児童は、総合的な学習の時間で「小早川隆景」について、調べ学習をしています。その調べた内容を10月22日にリレーションプラザで行われた「希望と未来フォーラム」で、立派に発表をしました。それに際して、曲線の総合的学習で「獅子舞」をテーマに「小早川隆景」について学習をしました。

6年生の児童に「本郷小学校の校章には今までの本郷の人たちのどのような思いが込められているのだろうか」と質問しました。子どもたちは、「隆景のような立派な人になってほしい」「三つ巴の旗を掲げた立派な人になってほしい」などの考えを発表しました。最後に「みんなにとって本郷はどんな場所ですか」と質問すると、「自分の好きな道」「私にとって大切な場所」「必ず帰ってこるところ」など本郷を大切にしたいという思いを語ってくれました。子どもたちが大切にしたいという思いを「本郷」の獅子舞をする子どもたちをしっかりと育てていきたいと感じました。

資料は、中学校の「親戚の出来事」(あかつき出版)を使い、学習を進めました。資料の内容としては、「学校で禁止されている裏庭でサッカーをしていた健二と大輔と健一。そこに猫に襲われそうになった隣のひな。健一はひなを救おうとボールを投げた。ボールにびっくりしたひなは逃げ、ひなは助かった。しかし、ボールによってガラスを割ってしまった。そのことを、健一が正樹に先生に報告するため職員室へ行った時に、壊された健二と大輔は、サッカーを始める。しかし、津治が蹴ったボールが当たり、もう一枚ガラスを割ってしまった。そこへ先生を連れて健一が来た。大輔は、2枚ともひなを助けてやうと割ってしまったとごまかして、うまくごまかしたという大輔。でも、健一は、このままでいいのが嫌だ。先生に正直に話した方がいいが、ごまかしたままのほうがいいのか・・・」

ガラスを割ってしまった健二の気持ちを中心に考えさせました。小学生からは「自分に嘘をつけない」「本当のことを言うことが大切」「猫に襲われた方がいいのではないのか」と意見がでました。しかし、中学生は、「正直に言うことで3人の関係が崩れてしまうのではないのか」「正直に言っても仲良しの3人にとどめることはできないか」と発言し、感情を大切に考える意見が出され、6年生も中学生から学び、より深い価値観に気づくことができた。

これからも、異学年の交流など様々な学びに挑戦し、子どもたちの心を育てていきたいと思っております。



11月2日 道徳地域公開～地域の方もぜひお越しください。～

11月1日～11月7日の1週間は、「みはら元気フェイク」(学校へ行く通称)です。その一環として、11月2日に道徳参観日を行い、地域の方々にも公開をします。保護者の方のみでなく、地域の方も是非、本郷小学校へ足を運んでいただき、子どもたちが自分と向き合い真剣に学習している様子をご覧いただけます。心よりお待ちしております。日程や学習の内容は以下の通りです。

日時・場所	11月2日(水)	授業公開 13:55～14:40	各教室
		講演会 14:45～15:45	体育館
			演題:「必勝! 聞いて得する親業のはなし!」
			講師:三原市教育委員会教育相談指導員 高山 哲俊 先生
授業内容	第1学年	いつもありがとう (尊敬・感謝)	「ありがとう」(光村図書)
	第2学年	助け合う友達 (信頼・友情)	「森のともだち」(東京書籍)
	第3学年	自分らしさ (個性の伸長)	「じゃがいもの歌」(東京書籍)
	第4学年	友だちのよきを知る (信頼・友情)	「ほくらだってオーケストラ」(東京書籍)
	第5学年	チームのために (約束や規則の尊重)	「星野君の二回打」(東京書籍)
	第6学年	本当の友達 (信頼・友情)	「ロレンソの友達」(日本標準)
あおそら		毎日を気持ちよく(規則正しい生活)	「そこねホントくん」(光文書院)

保護者の方へ道徳科で学んだ内容等を知らせることで、家庭でも話題にしてもいいでしょう！

道徳地域公開について、学校通信やHP等で紹介し、家庭や地域の方に道徳の授業を公開しましょう。

〈事例5〉 道徳教育に関する掲示板等



教室や校舎内などの環境を整え、児童生徒の豊かな心を育み、道徳的実践への意欲を高めましょう！



全校掲示板を活用しましょう！

学習した内容を常に振り返ることのできる道徳的な環境づくりをしていきましょう！



道徳の時間で学習したことを残していきましょう!!



共有スペースを効果的に活用しましょう



図書室

ワークスペース



道徳教育は、学校の教育活動全体で進めていくことが大切です。学んだことを全校のものにしていきましょう！



作成協力校一覧

○ 平成 26 年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校

呉市立呉中央小学校	大竹市立玖波小学校
北広島町立新庄小学校	三次市立川地小学校
東広島市立高美が丘中学校	府中町立府中中学校
海田町立海田西中学校	福山市立城東中学校
河内高等学校	尾道商業高等学校
芦品まなび学園高等学校	

○ 平成 28 年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校・推進地域センター校

廿日市市立津田小学校	安芸高田市立可愛小学校
三原市立本郷小学校	三次市立甲奴小学校
庄原市立高野小学校	竹原市立忠海中学校
東広島市立志和中学校	安芸太田町立筒賀中学校
尾道市立美木中学校	福山市立駅家南中学校

○ 令和 2 年度「道徳教育改善・充実」総合対策事業推進校・推進地域センター校

大崎上島町立木江小学校	三原市立大和中学校
神石高原町立油木小学校	世羅町立甲山中学校
江田島市立江田島中学校区 (江田島中, 切串小, 江田島小)	庄原市立口和中学校
三次市立吉舎中学校区 (吉舎中, 吉舎小, 八幡小)	海田町立海田中学校区 (海田中, 海田東小, 海田南小)

道徳教育の参考となるホームページ等

- ・広島県教育委員会「豊かな心を育てる道徳教育コーナー」
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/12doutoku/>
- ・研修用実践事例DVD『『主体的・対話的で深い学び』のある道徳科の授業づくりに向けてー小学校版・中学校版ー』（広島県教育委員会）
- ・「主体的な学び」のための授業動画コンテンツ 道徳科編（広島県教育委員会）
- ・文部科学省「道徳教育アーカイブ」
https://doutoku.mext.go.jp/?yclid=YSS.EA1aIQobChMI97j--pS87wIVGFVgCh0E2QGdEAAAYASAAEgIc5PD_BwE
- ・広島県立教育センター「道徳の部屋」
<http://www.hiroshima-c.ed.jp/moraleducation.html>

引用・参考文献

- ・文部科学省（平成 30 年）「高等学校学習指導要領解説 総則編」
- ・文部科学省（平成 29 年）「小学校学習指導要領解説 総則編」
- ・文部科学省（平成 29 年）「中学校学習指導要領解説 総則編」
- ・文部科学省（平成 29 年）「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」
- ・文部科学省（平成 29 年）「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」
- ・文部科学省（平成 26 年）『『私たちの道徳』小学校 活用のための指導資料』
- ・文部科学省（平成 26 年）『『私たちの道徳』中学校 活用のための指導資料』
- ・道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成 28 年）『『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）』
- ・広島県教育委員会（令和 2 年）「令和 2 年度 広島県教育資料」
- ・広島県教育委員会（平成 29 年）「【改訂版】道徳教育研修ハンドブック」
- ・福岡県教育委員会（平成 25 年）「道徳教育実践ハンドブック（改訂版）」
- ・兵庫県教育委員会（平成 26 年）「指導資料『道徳の時間』の充実のために」
- ・広島県立教育センター（平成 26 年）「授業研究ハンドブック」
- ・千葉県教育総合教育センター（平成 21 年）「校内研究ガイドブック 授業力アップ」
- ・鹿児島県総合教育センター（平成 22・23 年度）「みんなで取り組み、学び合う授業研究」
- ・徳島県立総合教育センター（平成 20 年）「校内研修ハンドブック」
- ・岩手県立総合教育センター（平成 19 年度）「校内授業研究の進め方ガイドブック」

